

## 第5節 通路部の遺構

### 1. 概要

確認された通路部は、鼠多門の背後から紅葉橋に向かうものである。通路部の西側は坂道であり、門部の横断溝から延石抜取穴9まで傾斜が続く。坂道の規模は幅約4.9m、延長約20.4m、高低差約3.3m、角度は $9^{\circ}$ 、平均勾配15.8%となっている。また、通路部東側は平坦面となっており、坂道北側溝の延長部が直線的に延びている。坂道の路面には、近世において延石が配置され雁木坂となっていたことが推定されるが、近代において大きく改変を受けており、延石は全て抜き取られ整地されていた。坂道(上部)としたのが、近代の坂道廃絶直前の路面又は路盤である。坂道調査時に遺物を取り上げる際は「斜路」の呼称も用いたが、報告では「坂道」とし、東側の平坦面部分と合わせて、通路部として報告する。

### 2. 坂道

#### 土層（第201～204図）

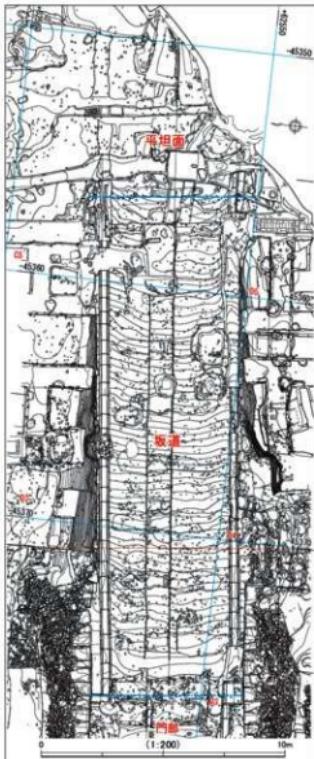
坂道は、鼠多門廃絶後、人為的に埋め戻されており、地山土由来の黄褐色ブロック土が多く含まれる土層が斜行に堆積していた。調査中はこの典型的な人為的埋土を「斜路埋土」として遺物の取り上げを行ったが、坂道中央部北側付近から土が投入されたものと推定される。また、埋土中には石垣石材など大型石材や貝殻など食物残滓も含まれていた。斜路埋土と近代の路面又は路盤土上には薄いながら間層があり、坂道廃絶後、埋め立てまで、やや時間があったものと推定される。この間層(39層)は坂道東側ほど厚みを増し、層内には戸室石や凝灰岩片が多く含む。坂道の機能停止後には、まず平坦面近くを埋め、石列3(石92～94)を配置する時期があったものと思われるが、その後一気に埋められた状況が窺える。

坂道を埋め戻す直前の時期の状況を第200図で示す。検出された路面あるいは路盤土は砂利をやや多く含み、明るい色調であるが、硬度は低く検出に難航した。等高線をみると中央部が高く、側溝に向かって緩やかに傾斜する。検出された近代の路盤(整地)土(93層など)は、石材チップを特徴的に多く含むが、門側はやや厚く、平坦面側は非常に薄くなる。また、41、98、101層は、延石抜取り前の坂道路盤土と考えられる。明るい色調で小礫を多く含むものである。

なお、坂道埋土から出土した石材81、82、95を第193、194図で掲載した。

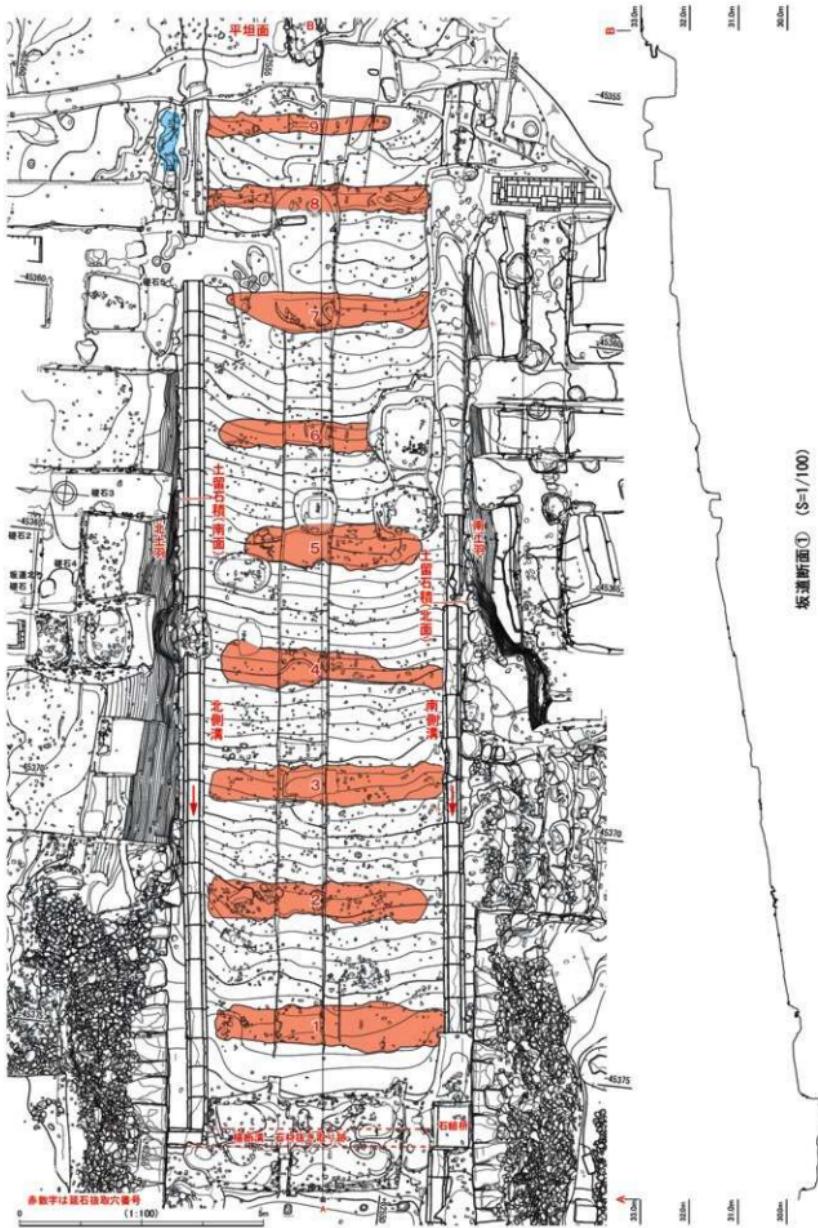
#### 延石（第196～201・213図）

構状(幅30～80cm程度)の延石抜取穴を9基平行で検出した。西から順に1～9と呼称する。調査では、断面②から北側に幅1mのトレンチを設け薄く掘り下げを行い、明確な抜取り穴痕跡を検出した。その後坂道全域において、近代整地土を除去し、延石抜取穴や抜取り以前の路盤土を検出した段階で坂

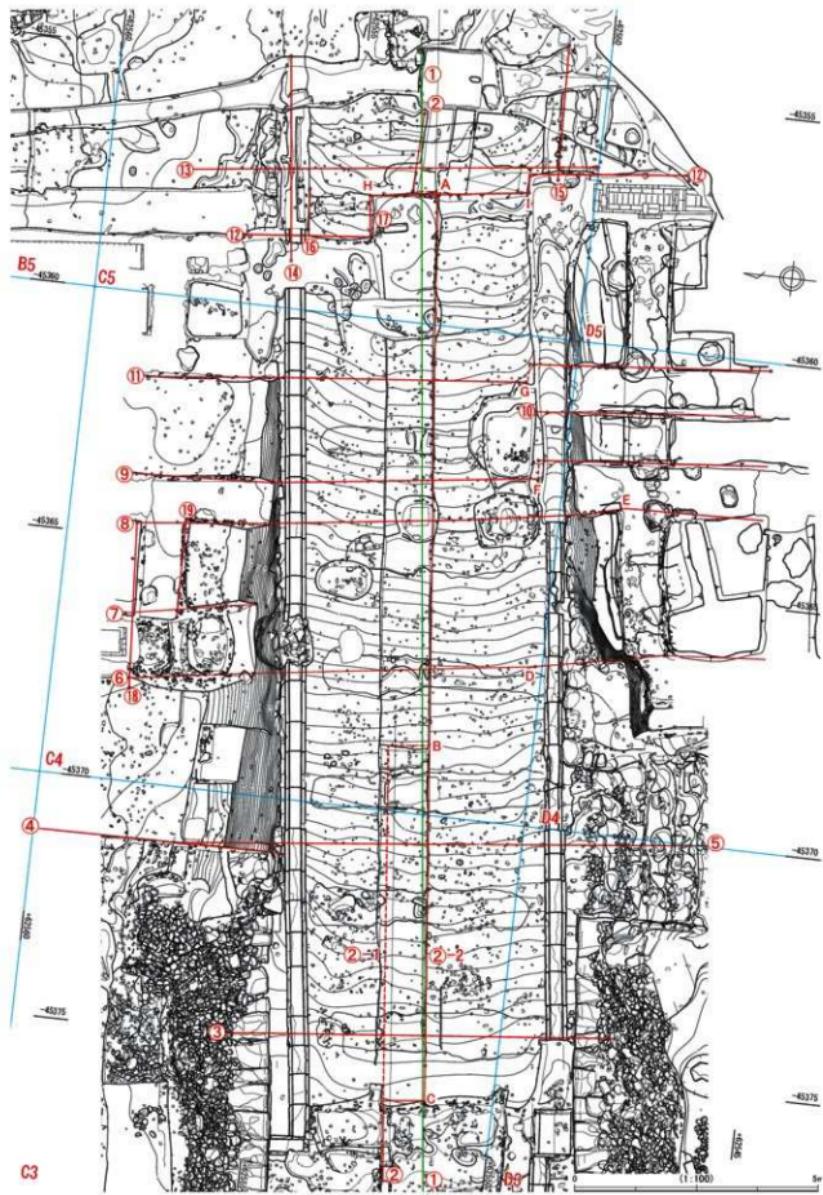


第195図 通路部全体図

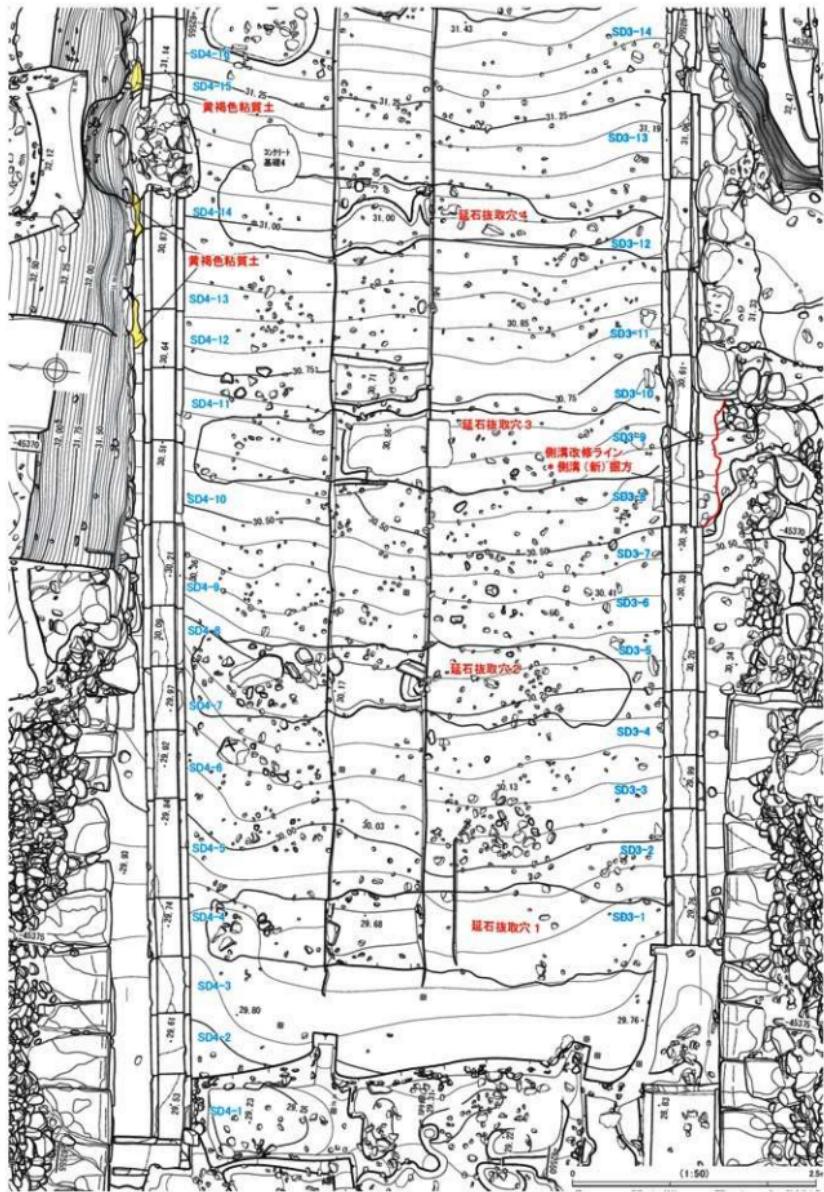
坂道断面図 (S=1/100)



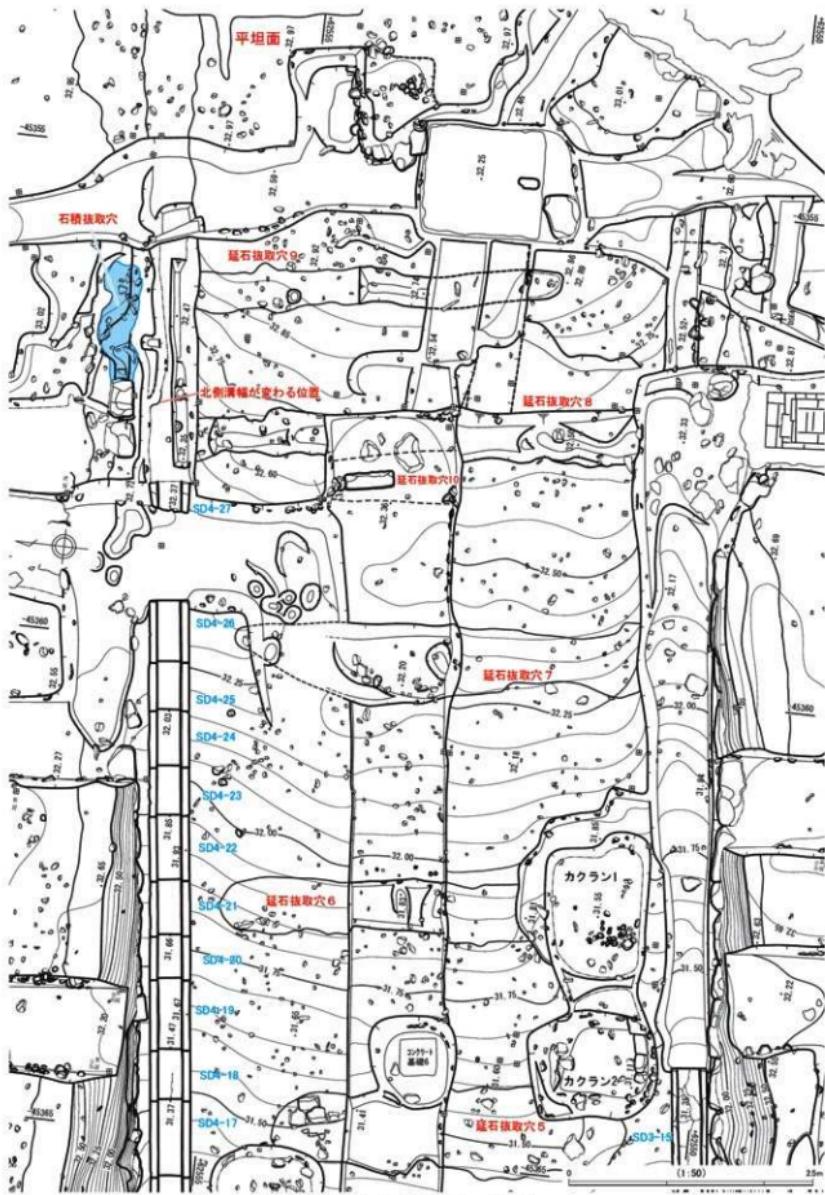
第196図 坂道全体図



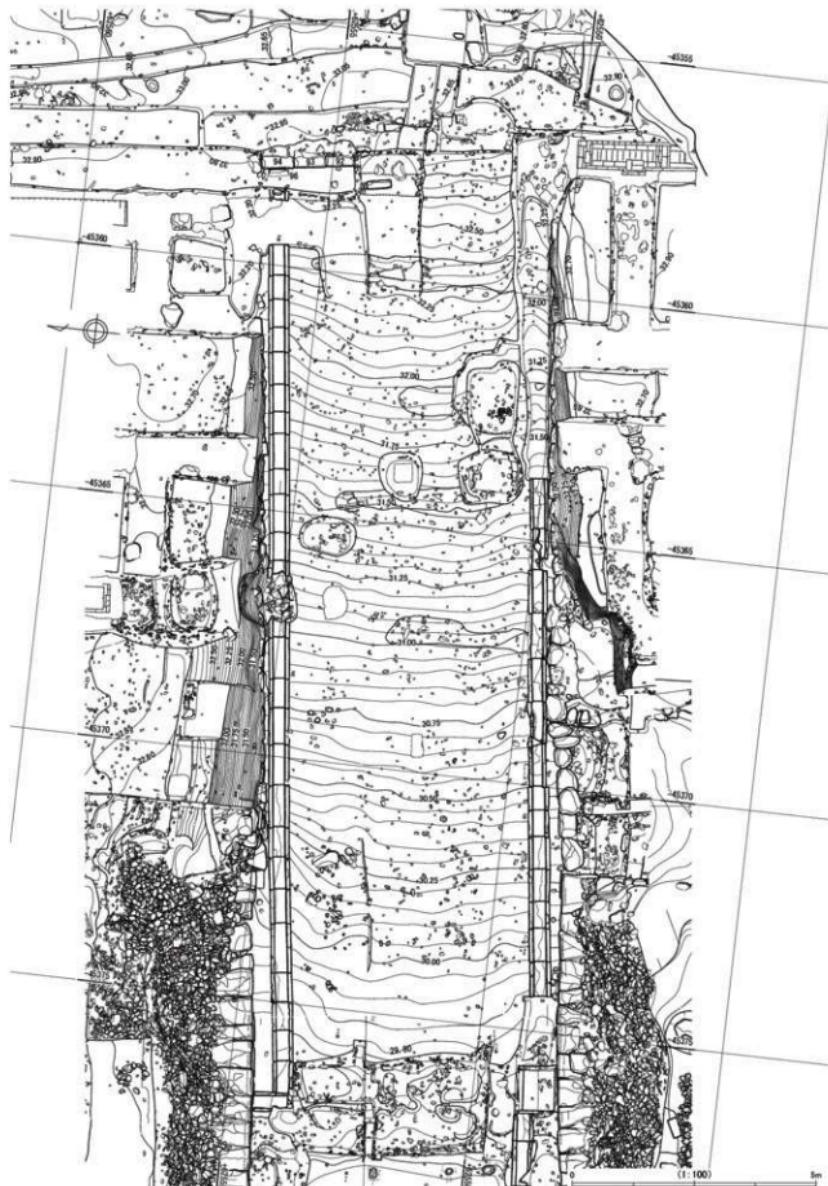
第197図 坂道断面位置図



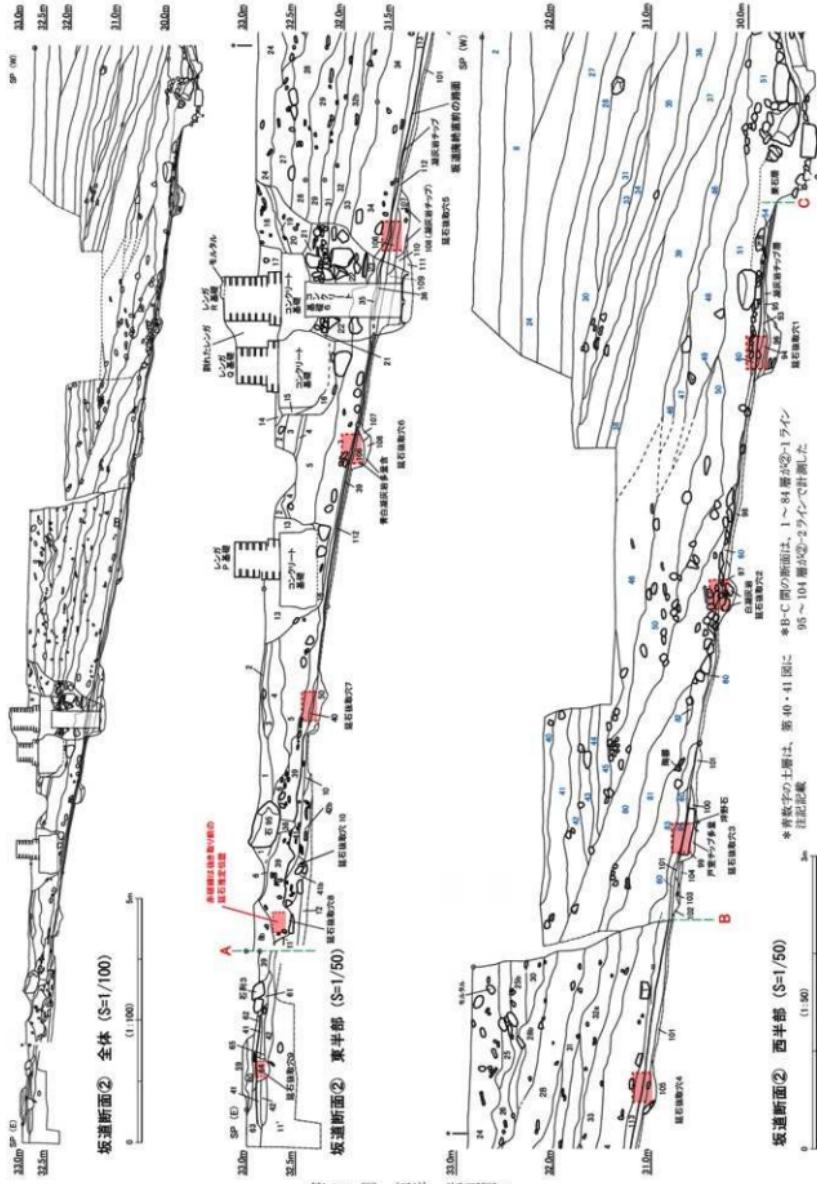
第198図 坂道西半部 平面図



第199図 坂道東半部 平面図



第200図 坂道（上部）平面図



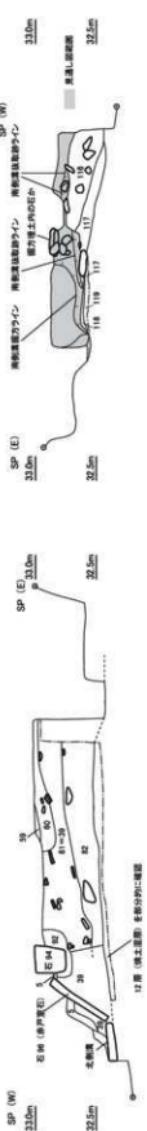
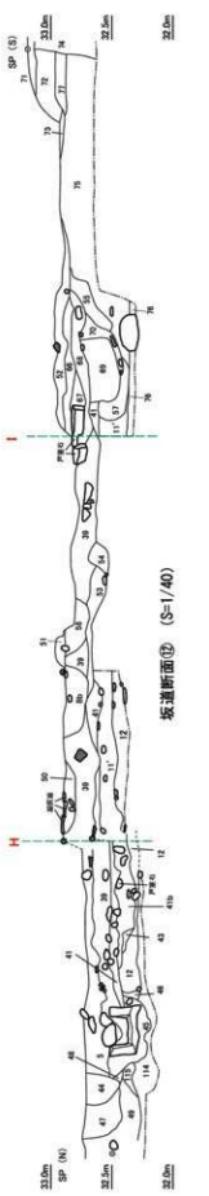
第201図 板道 断面図

## 坂道断面②、⑪、⑫～⑯ 土層注記

- 1 10YR 3/3 黄褐色粘土質土(しまりあり, 微3mm程度の地山ブロックを多量・2～3cmの大の凹縫・少量・4cmの大の縫を含む)
- 2 10YR 6/4 にふる黄褐色砂質土(しまりあり, 5cmの大の縫を含む, 地山質土主体)
- 3 10YR 3/4 増褐色砂質土(しまりあり, 2～4cmの大の凹縫を少量含む)
- 4 10YR 6/6 明褐色砂質土(しまりあり, 2～3cmの大の凹縫少々・5cmの大の縫を含む, 地山質土主体)
- 5 10YR 4/3 にふる黄褐色粘土質土(しまりややあり, 20cmの大の黄褐色シルトブロック・12cmの大の凹縫, 2～3cmの大の縫を含む)
- 6 10YR 4/2 灰褐色砂質土(しまりあり, 微3cm程度の地山ブロックを大量含む)
- 7 10YR 4/4 黄褐色粘土質土(しまりややあり, 3～7cmの大の凹縫多量, 2～7cmの大の凹縫, 10cmの大の縫, 瓦を含む)
- 8 10YR 4/4 黄褐色粘土質土(しまりややあり, 2～3cmの大の凹縫を多量, 6～10cmの大の凹縫を少量含む)
- 9b 【土管埋土】
- 10 10YR 4/3 にふる黄褐色粘土質土(しまりややあり, 1～5cmの大の凹縫を多量, 黏土ブロックを少含む)
- 11 7.5YR 4/6 棕色(ハースト)【近世整地土】
- 12 7.5YR 3/2 黑褐色粘土質土(しまりややあり, 15cmの大の凹縫を含む, 8縫より織が少くないし織あり)【近世整地土】
- 13 7.5YR 3/2 黑褐色粘土質土(しまりややあり, 15cmの大の凹縫を含む, 8縫より織が少くないし織あり)【近世整地土】
- 14 7.5YR 3/2 黑褐色砂質土(しまりややあり, 1～2cmの大の縫を少含む)
- 15 10YR 4/3 にふる黄褐色粘土質土(しまりあり, 1～3cmの大の縫を含む)【13～15層: 近代シート基礎埋土】
- 16 10YR 6/6 黄褐色砂質土(10cm程度の凹縫多數含む, コンクリート基礎下の埋土)
- 17 10YR 4/3 にふる黄褐色粘土質土(しまりあり, 5cmの大の凹縫を含む・1～2cmの大の縫を含む)
- 18 10YR 2/2 黑褐色粘土質土(しまりあり, 1～3cmの大の縫を多量含む)
- 19 10YR 2/2 黑褐色粘土質土(しまりあり, 1～3cmの大の縫・5cmの大の黄褐色シルトブロックを含む)
- 20 10YR 3/1 黑褐色粘土質土(しまりあり, 1～3cmの大の縫を含む)
- 21 墓石群(約1～2cmの大の縫を多量含む)
- 22 10YR 3/2 黑褐色粘土質土(しまりややあり, 1～2cmの大の縫を少含む, 12cmの大のコンクリート片・2cmの大の墓石群が混入)
- 23 10YR 4/2 黄褐色砂質土(しまりややなし, 3cmの大の縫を少含む, 4cmの大のコンクリート片)【墓】
- 【17～22層: 既成の層理上】
- 24 10YR 3/3 にふる黄褐色粘土質土(しまりややあり, 2～3cmの大の縫・凹縫を多量・瓦・陶器部を含む)【近代シート基礎埋土】【斜路基盤】
- 25 10YR 5/6 黄褐色シルト(しまりあり, 1～10cmの大の凹縫をやや多く・シルトブロックを含む)【近代シート基礎埋土】【斜路基盤】
- 26 10YR 3/2 黑褐色粘土質土(しまりややあり, 1～4cmの大の凹縫をやや多く含む)【斜路基盤】
- 27 10YR 3/4 增褐色粘土質土(しまりややあり, 14cm～17cmの大の凹縫・瓦を含む)【斜路基盤】
- 28 10YR 3/2 増褐色粘土質土(しまりややあり, 3～5cmの大の凹縫を少含む)【斜路土】【斜路の斜面堆積土】
- 29 10YR 3/3 増褐色粘土質土(しまりあり, 10YR 1/1 増褐色シルトブロック・4～5cmの大の縫を少含む)【斜路】
- 30 10YR 3/2 黑褐色粘土質土(しまりややあり, 3～10cmの大の凹縫を少含む)【斜路の斜面堆積土】
- 31 10YR 3/2 黑褐色粘土質土(しまりあり, 10YR 4/6 明黄色色シルトブロックを下部に多量・3～10cmの大の縫を少含む)【斜路】
- 32a 10YR 3/3 增褐色粘土質土(しまりあり, 31層と同様のシルトブロックを下部に多量・3～12cmの大の縫を少含む)【斜路】
- 32b 10YR 3/2 増褐色粘土質土(しまりあり, 3～10cmの大の凹縫を少含む)【10YR 5/8 黄褐色シルトブロックをばねばねに含む】
- 33 10YR 4/4 黑褐色粘土質土(しまりややあり, 10YR 3/1 黑褐色粘土質土を上部に多量・1～3cmの大の凹縫5/4 にふる黄褐色シルトブロックを多量・1～2cmの大の縫を少含む)【斜路】
- 34 10YR 3/4 增褐色粘土質土(しまりややなし, 3～10cmの10YR 5/8 黄褐色シルトブロックを多量・12cmの大の縫を含む)【斜路】
- 35 10YR 5/4 にふる黄褐色粘土質土(砂利少含む)【斜路】
- 36 10YR 6/4 にふる黄褐色砂質土(5cm前後の砂利を多量含む)
- 37 10YR 5/6 黄褐色粘土質土(しまり中, 1cmの大の凹縫を少含む, 10YR 3/2 黑褐色粘土質土が間隔に入る)【斜路】
- 38 10YR 3/4 增褐色粘土質土(しまりあり, 10YR 4/4 黄褐色砂質土ブロックを含む)
- 39 10YR 4/3 にふる黄褐色粘土質土(しまりあり, 2～10cmの大の縫・凝灰岩片, 砂岩片を多量含む)【斜路地盤】で埋め込まれるほどの土層
- 40 10YR 3/2 增褐色粘土質土(しまりあり, 2～3cmの大の縫を少含む)【斜路】

\*斜路 = 駐道

第202図 坂道 東西断面図土層注記



第203図 坂道断面図2





坂道 全景 (西から)



坂道上部検出状況 (北西から)



坂道 断面② (南から)



坂道 断面② (北から)



坂道 断面② (西から)

第 204 図 坂道写真 1

道の掘下げを停止した。検出した抜取穴はトレーナー部のみ掘削を行った。

抜取穴1は、深さが25cm程度あり、他の抜取穴と比較して深く異質である。また、内部より、大量の凝灰岩チップと、鉄砲の薬莢が大量に出土する点が特徴である。抜取穴2には比較的大型の凝灰岩ブロックが廃棄されていた。抜取穴3は覆土より大量の戸室石チップが出土する。また東側の壁面がL字状に垂直に立っており、断面方形形状の延石が設置されていたことを示唆している。坂道長軸方向に沿って坪野石が出土しているが、当初は、坂道中央の基準を示すため意図的に置かれたものと考えていたが、抜取穴の埋土中に含まれていることを確認したため、その可能性は低くなかった。抜取穴5は、凝灰岩チップを多く含むもので、やはり東壁がL字状に垂直に立つ。抜取穴6は、青白色の凝灰岩チップを極めて大量に含むもので、これも東壁がL字状に垂直に立つ。抜取穴7は埋土上面に大量の凝灰岩チップを含む。抜取穴8は、細い溝状に検出されたものである。抜取穴9はさらに細い溝状である。抜取穴10は断面で落ち込みが確認されたものである。埋土に大量の礫が含まれており、細い延石状の石材も出土している。抜取穴10は、抜取穴1～9より古い段階のもので、近世において延石の改修が行われたことを示している。断面⑪で抜取穴10の埋土(41b層)を確認しているが、北側溝まで到達していない。同様に側溝まで到達していない抜取穴も多くみられた。延石下部の構造として、根固め石は、明確なものを確認できなかったが、抜取穴10の埋土に含まれる大量の礫は、根固め石の可能性をもつ。

なお、調査では本来の延石は出土していないが、本丸附段(研究所2019)や敷奇屋敷調査区風呂屋口門地点(研究所2016)の延石を参考に大きさを推測(奥行約30cm、厚さ約20cm)して、抜き取り前のおおよその延石の推定位置の第201図で示した。計9段からなり、1段の幅(抜取穴の間隔:踏面に相当)は1.5～2.6mと一定ではない。段の高さ(蹴上)については、整地により段差がほぼ失われているが、抜取穴7、8において段差の痕跡が残っていた。

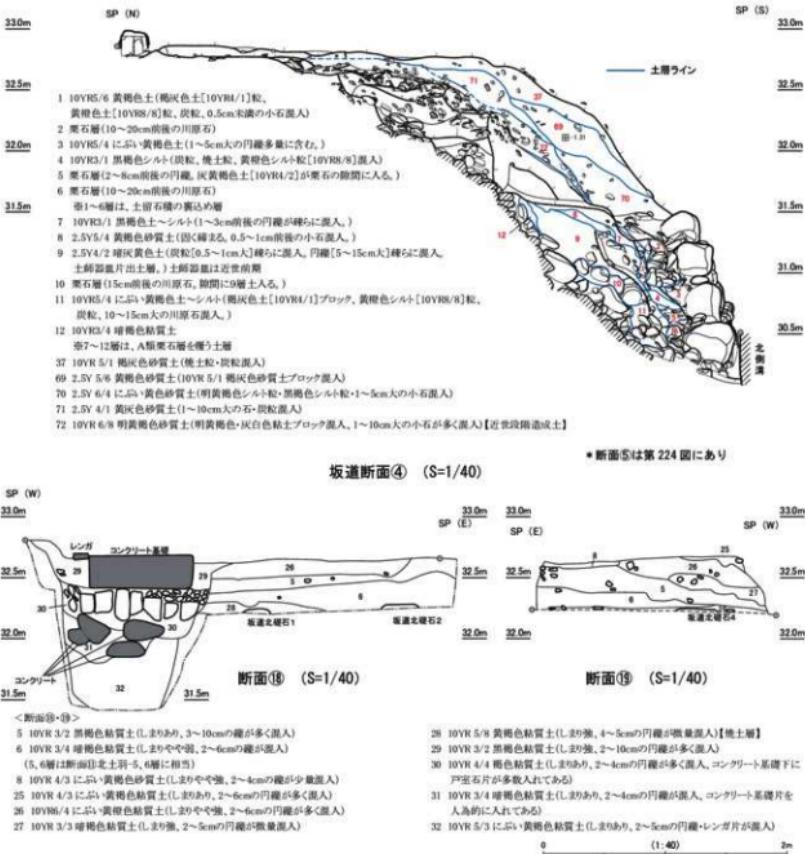
#### 側溝(第198・199・203・211・212図、第21表)

南北両側で石材をU字状に繰り抜いて成形した側溝が検出された。第21表に計測値や材質を掲載した。調査では北側溝をSD4、南側溝をSD3として遺物の取り上げ等を行っている。北側溝は全て戸室石製で、内寸幅は26cm程度、深さ15cm程度を測る。石材長は49.8～103.7cmと不揃いである。SD4-7とSD-8の境で、傾斜が6.0°(10.5%)から、9.9°(17.5%)に変わる。中央部は、コンクリート基礎3により大きく壊されていた。SD4-27より東側については、石材が抜き取られているが、同様な石材でさらに1石配置されていたと推定される。これより東側の平坦面では、抜取穴の幅が約30cmと減じており(第199図)、坂道の側溝と構造が異なっていたか、近世において側溝はなかったが、近代において新たに石管など構造の違うものを敷設した可能性も残る。なお、断面⑪や⑫では、瓦や礫等の混入物を多く含む抜取穴の埋土の下部に、混入物の少ない埋土(坂道側溝の埋戻し土にはあまりみられない)が検出されており、側溝延長部の石材抜取りや埋戻しが1段階早かった可能性がある。

南側溝では、石材は凝灰岩と戸室石が併用されている。戸室石製のSD3-7と凝灰岩製のSD3-8は幅及び材質が異なるが、掘方の精查により、SD3-8が改修後の設置であることを確認した(第199図)。なお、北側溝でみられた傾斜の変換点は確認されなかった。SD3-15より東側の側溝石材は抜取されていた。東端部は断面⑮に相当するが、近代遺構の削平により南側溝の明確な終点部を確認できなかった。ただし、平坦部断面⑯には、側溝の延長部を確認できなかったので、南側溝は断面⑮付近で途切れているか、深い掘込みを持たない構造に変えている可能性が考えられる。

側溝の流水は、北側溝は門背面の横断溝を経て、凝灰岩製の石組橋に接続し、南側溝も石組橋に繋がる。北側溝と土留石積の間は10cm程度間隔があるが、部分的に黄褐色系の粘質土が貼り付けられているのが検出された(第198図)。法面を下る流水から浸食を防ぐ措置と考えられる。ただし、路面を下る水による浸食のためか、側溝石材縁の土の部分が陥んでいる状況が観察できた。

側溝石材のうち、凝灰岩製のものは白色系(SD3-12)と青色系(SD3-11)がある。白色系は、鷹巣石の可



第 205 図 坂道断面図 3

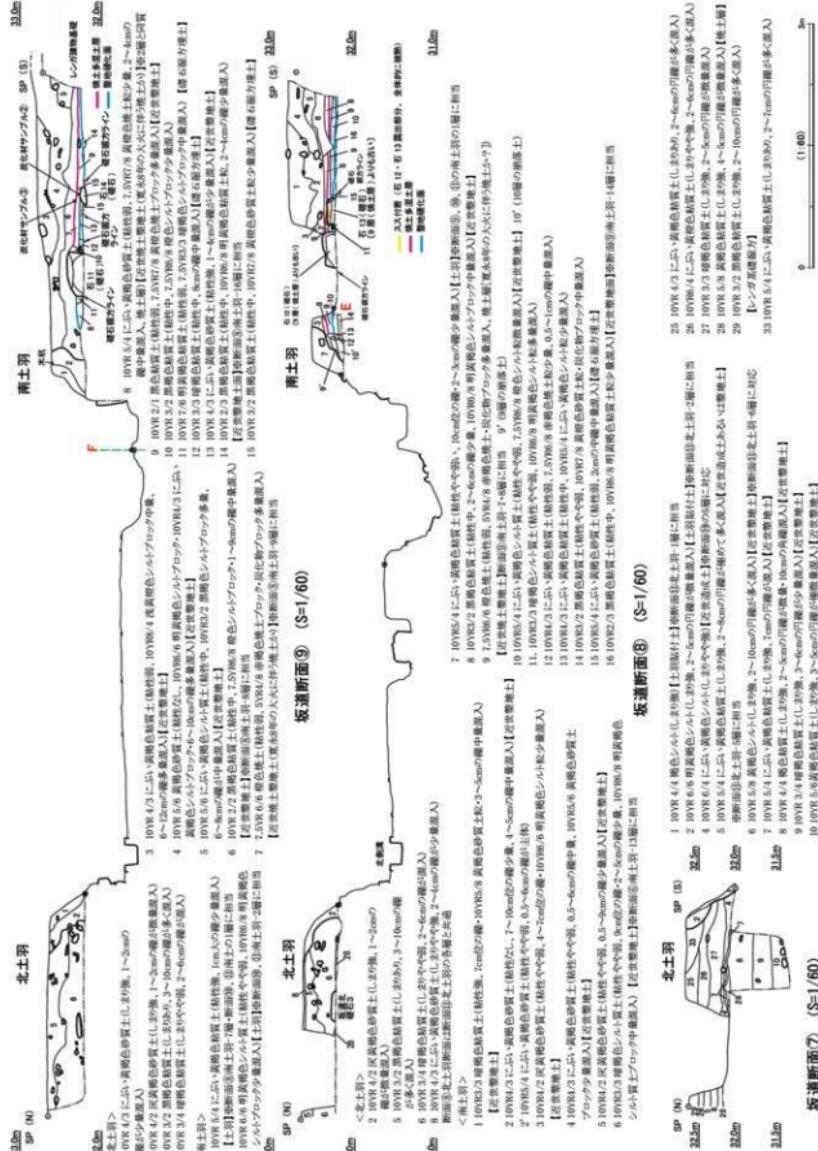
能性がある。戸室石では赤戸室石が多用され、城内でも玉泉院丸庭園の色紙短冊積石垣前面から内法寸法がほぼ同じの赤戸室石製 S008、S009 が出土している。近世後期の『御造営方日並記』に記載される「戸室桶石」や「鷹柄(巣)桶石」が、今回の側溝石材に相当する可能性もある。

断面⑫の北側溝部分の断面観察では、側溝掘方埋土 45 層は坂道路盤土 41 層に覆われており、側溝が敷設された時期は、41 層が形成された時期より古いことがわかる。

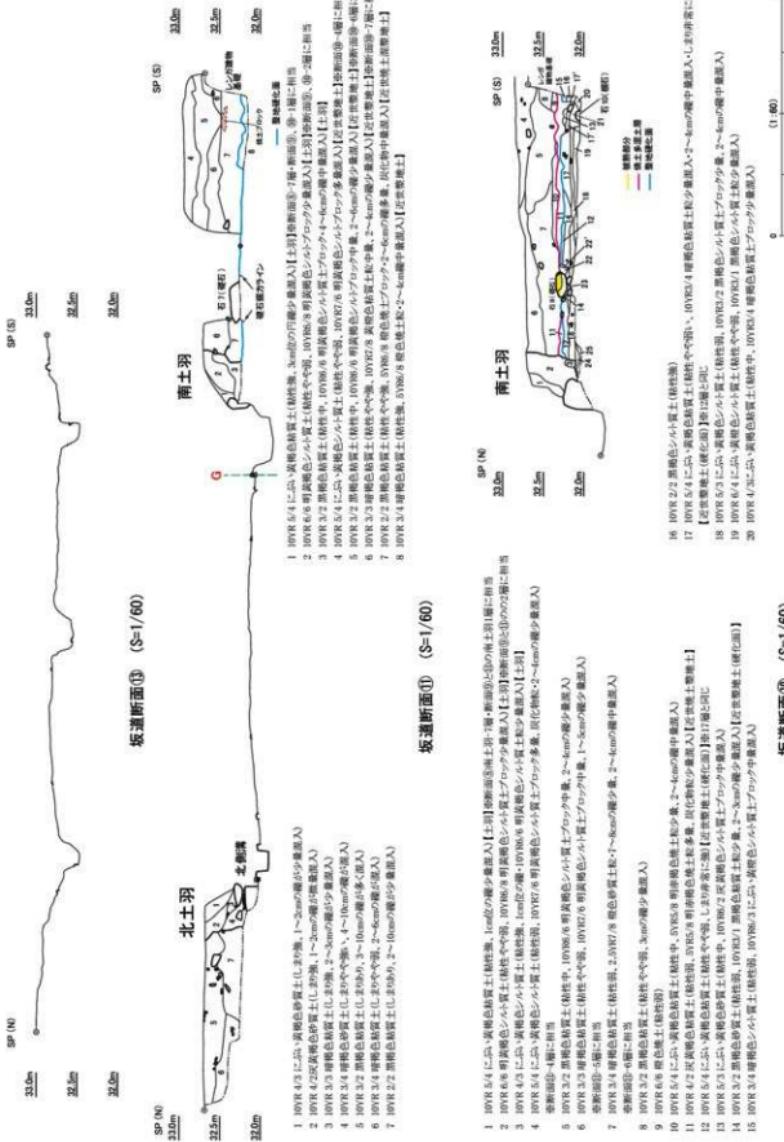
#### 法面 (第 205 ~ 212 図、第 22・23 表)

法面下部は戸室石や川原石、凝灰岩を併用した土留石積になっている。南面の門側壁石垣付近は 4 段に構築されているが、以東は 2 段積みで東端部は 1 段になっている。北面はやや構造が異なっており、番所階段付近は 2 段であるが、以東は大型の石材を 1 段で構築している。法面上部は北面・南面共に土羽になっており、表面に黄褐色土が盛土されていた。また、黄褐色土上面には、黒味を伴う土が検出さ

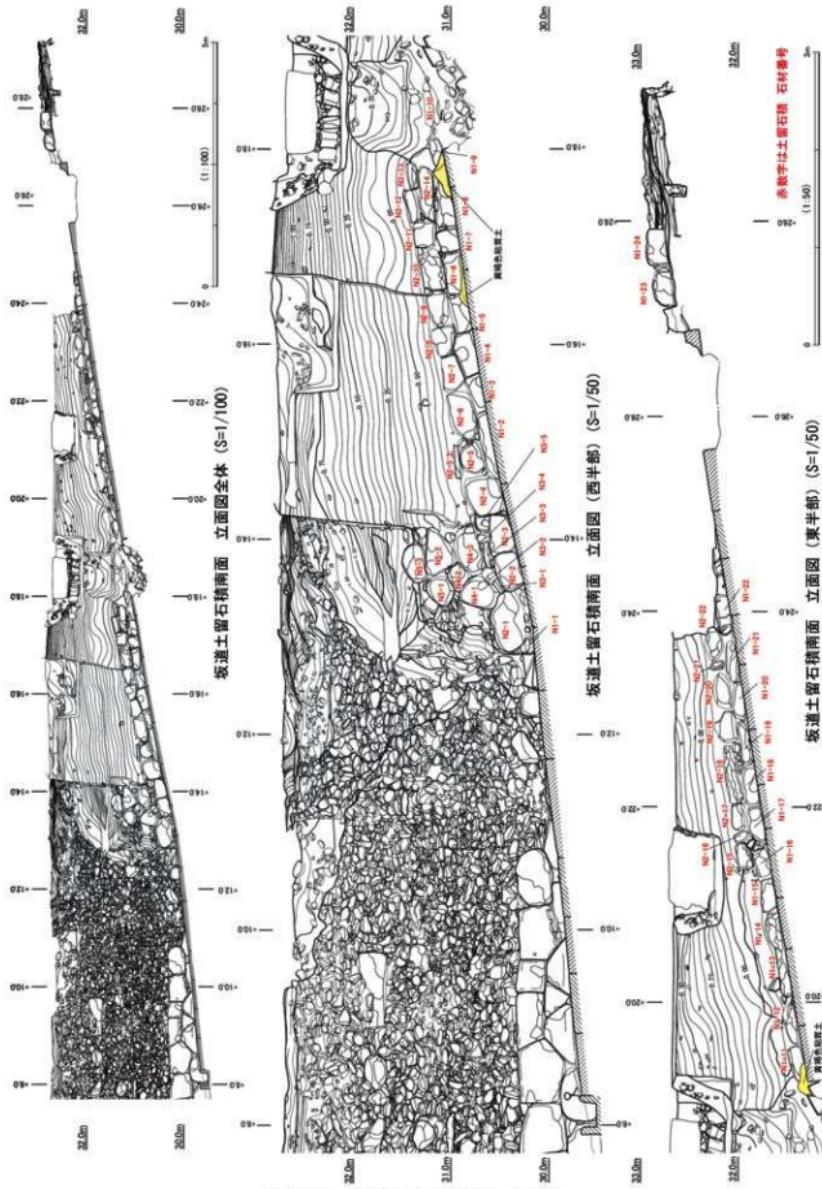




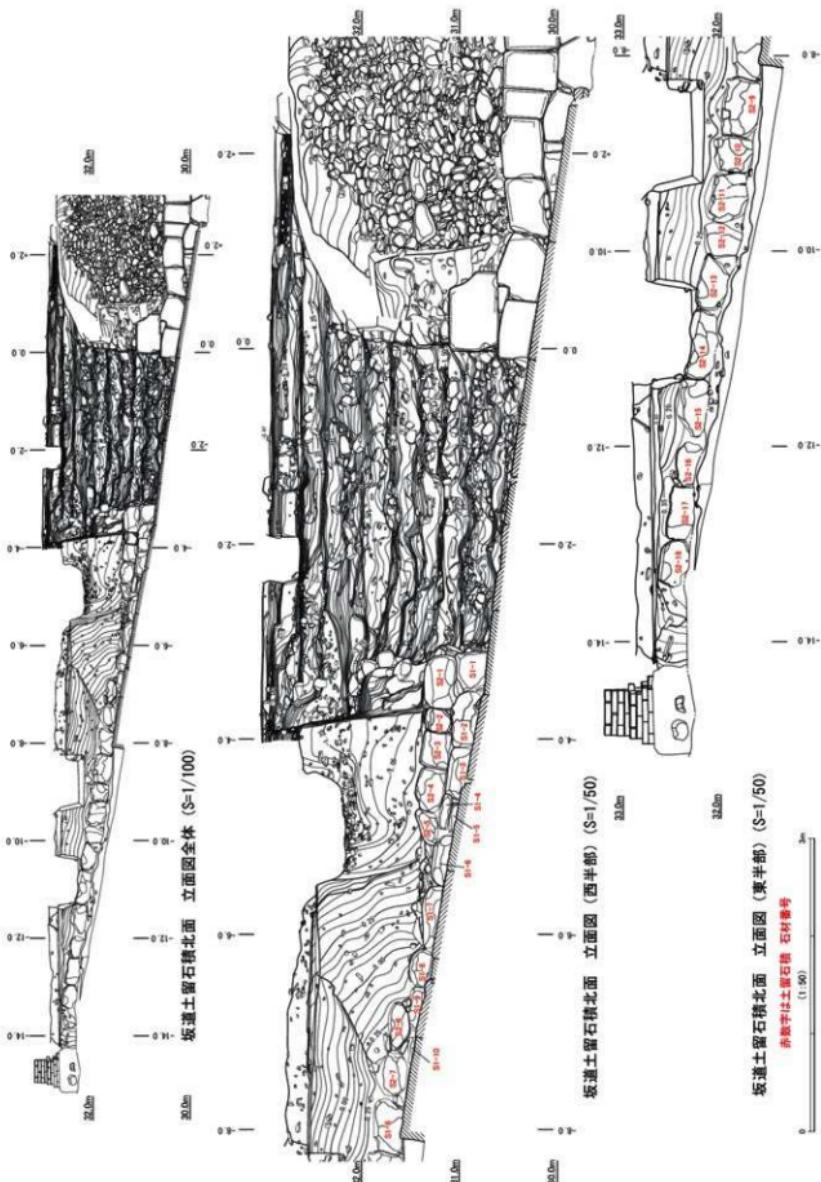
第 207 図 坂道 断面図



第 208 図 坂道 15 断面図 6



第209図 坂道土留石積南面 立面図



第210図 坂道土留石積北面 立面図

第21表 板側倒溝石材観察表

| 石材<br>番号 | 高さ<br>(cm)<br>(外寸) | 幅<br>(cm)<br>(外寸) | 奥幅<br>(cm)<br>(外寸) | 奥幅<br>(cm)<br>(外寸) | 厚さ<br>(cm)<br>(外寸) | 深さ<br>(cm)<br>(外寸) | 角度    | 石種別        | 備考 (加工状況・欠損状況等)   |
|----------|--------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------|------------|---|
| S03-1    | 71.6               | 42.0              | 26.6               | 25.5               | —                  | 14.6               | 8.40  | ■■■■石 (赤)  | 底面亜裂複数。南側面や西側面中央に亀裂。  |
| S03-2    | 40.9               | 42.3              | 26.7               | 23.5               | —                  | 14.7               | 9.05  | ■■■■石 (青)  | 底面南東側から西にかけて亀裂。   |
| S03-3    | 54.6               | 41.3              | 26.1               | 25.0               | —                  | 13.1               | 9.85  | ■■■■石 (赤)  | 南側面端やや北側面端表面やや欠損。   |
| S03-4    | 67.3               | 42.0              | 27.5               | 25.6               | —                  | 12.7               | 9.35  | ■■■■石 (赤)  | 南側面欠け。北側面中央部若干欠損。   |
| S03-5    | 66.6               | 42.3              | 27.4               | 25.3               | —                  | 13.2               | 9.35  | ■■■■石 (赤)  | 底面東西に欠損。底面東西に亀裂。  |
| S03-6    | 54.8               | 41.2              | 26.2               | 23.6               | —                  | 14.7               | 7.70  | ■■■■石 (赤)  | 北側面欠損。外側上端部亀裂箇所欠け。  |
| S03-7    | 48.4               | 41.6              | 26.9               | 23.6               | —                  | 14.3               | 8.40  | ■■■■石 (中間) | 南側面欠損。外側上端部亀裂箇所欠け。  |
| S03-8    | 99.0               | 32.6              | 20.3               | 21.9               | —                  | 13.4               | 6.30  | ■■■■石      | 底面東側から西にかけて亀裂。北側上端部亀裂欠け。                                    |
| S03-9    | 22.1               | —                 | —                  | —                  | —                  | 11.7               | 4.00  | ■■■■石 (赤)  | 側面北側端のみ存在。三角形状の平面(底面に傾めこまれている)。                             |
| S03-10   | 85.2               | 30.6              | 18.2               | 21.6               | 21.2               | 14.9               | 6.35  | ■■■■石 (白)  | 側面底部の南北ともに亀裂。南側のやや東側に亀裂。北側は欠損なし。                            |
| S03-11   | 88.2               | 36.4              | 23.0               | 20.5               | —                  | 13.5               | 10.4  | ■■■■石 (青)  | 底面の東西にかけて亀裂。  |
| S03-12   | 95.2               | 35.1              | 23.0               | 22.5               | —                  | 17.2               | 9.20  | ■■■■石 (白)  | 北側上端部から西にかけて欠損激しい(北側上端は全体的に欠損)。底部西側に迷がたな跡所あり。また中央から西にかけて亀裂。 |
| S03-13   | 88.4               | 37.9              | 23.4               | 19.4               | —                  | 16.2               | 10.05 | ■■■■石 (赤)  | 底面南側面に約 20 × 19 cm の欠損あり。また数本の亀裂あり。北側上端部は欠損。                |
| S03-14   | 84.4               | 36.8              | 25.1               | 25.6               | 20.9<br>(可視範囲)     | 17.5               | 11.20 | ■■■■石 (白)  | 側面下部の南北ともに亀裂。南側のやや東側に亀裂。北側は欠損なし。                            |
| S03-15   | 103.7              | 35.2              | 24.3               | 23.4               | 24.0               | 18.0               | 9.20  | ■■■■石 (白)  | 側面下部の南北ともに亀裂。北側上端部は全体的に破損。側面西側面から中央付近にかけて亀裂。                |
| S04-1    | 64.1               | 41.6              | 26.4               | 26.2               | —                  | 13.3               | 5.05  | ■■■■石 (赤)  | 南側面欠損。北側中央部から南東側に亀裂。  |
| S04-2    | 63.2               | 41.9              | 26.3               | 24.4               | —                  | 14.4               | 5.60  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部亀裂。中央やや西側、北に亀裂。  |
| S04-3    | 57.6               | 41.9              | 27.0               | 24.8               | —                  | 13.2               | 5.05  | ■■■■石 (赤)  | 北側面・内側面上部欠損。内側面多欠損。   |
| S04-4    | 65.5               | 42.4              | 29.1               | 24.9               | —                  | 13.6               | 5.90  | ■■■■石 (赤)  | 外側上部複数亀裂。底面西側から更に亀裂。  |
| S04-5    | 101.5              | 41.5              | 27.6               | 27.1               | —                  | 13.9               | 7.05  | ■■■■石 (赤)  | 北側上部内側部欠損。北側やや東側から南側ややなど亀裂。                                 |
| S04-6    | 70.2               | 41.1              | 26.1               | 24.0               | —                  | 14.6               | 4.95  | ■■■■石 (青)  | 北側中央に亀裂。上端部複数亀裂。  |
| S04-7    | 63.9               | 42.6              | 26.7               | 24.9               | —                  | 14.4               | 4.10  | ■■■■石 (赤)  | 南西側、南東側。南側中央より上部欠損。底面東に亀裂。                                  |
| S04-8    | 62.5               | 42.4              | 27.4               | 23.0               | —                  | 13.4               | 11.10 | ■■■■石 (赤)  | 南側面欠損。底面東西にわたり亀裂。   |
| S04-9    | 88.0               | 42.9              | 27.1               | 24.6               | —                  | 14.6               | 13.70 | ■■■■石 (赤)  | 底面から中央付近にかけて亀裂。   |
| S04-10   | 98.2               | 41.6              | 26.1               | 24.5               | —                  | 14.3               | 10.90 | ■■■■石 (赤)  | 南側面欠損。  |
| S04-11   | 75.2               | 41.7              | 26.1               | 23.7               | —                  | 14.8               | 9.20  | ■■■■石 (赤)  | 南側上部やや西欠損。  |
| S04-12   | 61.8               | 42.0              | 26.1               | 24.1               | —                  | 13.4               | 9.45  | ■■■■石 (赤)  | 底面東付近に 2.5 cm 程度の穴あり。南側上端部欠損。                               |
| S04-13   | 85.4               | 41.5              | 26.2               | 24.4               | —                  | 14.3               | 9.10  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部東側やや欠損。南西側欠損。  |
| S04-14   | (39.8)             | 41.8              | 27.2               | 24.8               | 19.4               | 14.9               | 9.80  | ■■■■石 (赤)  | 東側面・上部共に大きくなびく亀裂。   |
| S04-15   | (30.6)             | 41.2              | 26.6               | 23.7               | 17.5               | 13.1               | 11.05 | ■■■■石 (赤)  | 西側面・上部共に大きくなびく亀裂。南側上端部に欠損。                                  |
| S04-16   | 57.7               | 41.7              | 26.4               | 25.4               | —                  | 15.2               | 9.90  | ■■■■石 (赤)  | 南側上部に豊富ややあり。南側上端部の両端にやや欠損。                                  |
| S04-17   | 78.8               | 41.4              | 26.1               | 24.4               | —                  | 14.6               | 9.55  | ■■■■石 (赤)  | 南側上部に豊富ややあり。南側上端部の両端にやや欠損。                                  |
| S04-18   | 52.1               | 41.0              | 26.5               | 25.9               | —                  | 14.5               | 9.70  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部に豊富。北側西側面に豊富ややあり。南側上端部に欠損。底面中央に亀裂。                     |
| S04-19   | 73.2               | 41.2              | 26.3               | 23.2               | —                  | 15.6               | 9.70  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部から西にかけて豊富あり。また西南面に欠損。北側端面に豊富。                          |
| S04-20   | 45.1               | 41.9              | 25.8               | 24.9               | —                  | 14.4               | 9.30  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部に豊富。   |
| S04-21   | 57.4               | 41.2              | 25.9               | 23.4               | —                  | 14.8               | 8.85  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部に豊富ややあり。また西に欠損。  |
| S04-22   | 66.4               | 40.8              | 26.1               | 24.7               | —                  | 15.6               | 8.95  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部中央から東に豊富あり。また東端部は欠損。北側上端部はやや欠損。                        |
| S04-23   | 50.6               | 41.8              | 26.0               | 23.9               | —                  | 14.9               | 9.20  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部中央と東端に欠損。北側上端部東は欠損激しい。                                 |
| S04-24   | 58.1               | 41.4              | 26.2               | 21.6               | —                  | 15.4               | 9.60  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部に欠損。   |
| S04-25   | 49.8               | 41.8              | 26.0               | 22.3               | —                  | 15.6               | 9.65  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部東端にやや欠損。   |
| S04-26   | 62.8               | 40.6              | 25.8               | 21.5               | 19.7               | 15.9               | 8.75  | ■■■■石 (赤)  | 南側上端部にやや欠損。   |
| S04-27   | —                  | —                 | —                  | —                  | —                  | —                  | —     | ■■■■石 (赤)  | 東側面のみ残存。  |

第22表 板側土留石積石材観察表1

| 石番号   | 石種別        | 縦長<br>(cm) | 横長<br>(cm) | 持長<br>(cm) | その他の特徴                          |
|-------|------------|------------|------------|------------|---------------------------------|
| N1-1  | ■■■■石      | 54         | (5)        | —          | 正面は自然面。                         |
| N1-2  | ■■■■石      | 12.5       | 66.5       | —          | 正面は自然面。                         |
| N1-3  | ■■■■石      | 17         | 38         | —          | 正面は自然面。                         |
| N1-4  | 川原石        | 23.5       | 42.5       | —          | 正面・右面は自然面。                      |
| N1-5  | ■■■■石      | 17         | 35.5       | —          | 正面は自然面(下面にスス付着)。                |
| N1-6  | ■■■■石      | 18.5       | 39         | —          | 正面は自然面。                         |
| N1-7  | ■■■■石 (赤)  | 22         | 23         | —          | 正面は割れ面(黒いノミ加工・少しノミ痕入り)。右面は自然面。  |
| N1-8  | 川原石        | 12.5       | 46         | —          | 正面・上面・左面は自然面。表面に不規則な網目状構造がみられる。 |
| N1-9  | ■■■■石      | 8.4        | 29.8       | —          | 正面は自然面。                         |
| N1-10 | 川原石        | 11.5       | 45         | —          | 正面は自然面。                         |
| N1-11 | 川原石        | 12         | 35         | —          | 正面・上面・右面は自然面。                   |
| N1-12 | 川原石        | 12         | 46.5       | —          | 正面は自然面(左半分)と割面(右半分)。少しノミ痕入り。    |
| N1-13 | ■■■■石 (青)  | 10         | 36         | —          | 正面は割れ面(黒いノミ加工)。                 |
| N1-14 | ■■■■石 (青)  | 14         | 38.5       | —          | 正面は割れ面。                         |
| N1-15 | ■■■■石 (青)  | 14         | 30         | —          | 正面・上面は自然面。右面・左面は割れ面。            |
| N1-16 | ■■■■石 (中間) | 14         | 23         | —          | 正面・上面は自然面。                      |
| N1-17 | 川原石        | 15         | 33.5       | —          | 正面は自然面。                         |
| N1-18 | 川原石        | 12.5       | 38         | —          | 正面・右面は自然面。                      |

第23表 坂道土留石積石材観察表2

| 番号            | 石種別     | 幅員<br>(cm) | 横長<br>(cm) | 厚長<br>(cm)  | その他特徴   |
|---------------|---------|------------|------------|---|---|
| N1-19         | 川原石     | 7          | 37         | -   | 正面・左面は自然面。正面に施錠にあつたくぼみあり。                           |
| N1-20         | 川原石     | 12.5       | 36.5       | -   | 正面・右面・左面は自然面。                                       |
| N1-21         | 戸室石(赤)  | 12         | 40.5       | -   | 正面は自然面。   |
| N1-22         | 川原石     | 15         | 37.5       | 27.5  | 正面は削面(赤色化(被熱?)と一部自然面。上面・右面は自然面。正面左下部に剥離あり。          |
| N1-23         | 戸室石(赤)  | 28         | 36         | -   | 正面は削面(ノミ削少々)。右面は削面。左面は自然面。上面・後面は自然面と削面(軽いノミ加工)。     |
| N1-24         | 戸室石(青)  | 17.5       | 36         | -   | 正面・右面・左面(削面)は軽いノミ加工。後面は自然面と削面。上面は軽いノミ加工(凹凸無い)。左側削離。 |
| N2-1          | 川原石     | 28         | 58         | -   | 正面は自然面。表面に不規則な網目状構造がみられる                            |
| N2-2          | 戸室石(赤)  | 22.5       | 34.5       | -   | 正面・上面・左面は自然面。                                       |
| N2-3          | 戸室石(中間) | 25         | 41         | -   | 正面は自然面。   |
| N2-4          | 戸室石(赤)  | 31.5       | 36.5       | -   | 正面・右面は自然面。上面は自然面(左半部)と削面(右半部)。                      |
| N2-5          | 川原石     | 22         | 27         | -   | 正面・右面は自然面。  |
| N2-6 上        | 川原石     | 6          | 33         | (6.5)   | 正面・上面・右面・左面・下面は自然面。                                 |
| N2-6 下        | 戸室石(赤)  | 23         | 44         | -   | 正面・右面は自然面。  |
| N2-7          | 戸室石(赤)  | 24.5       | 35         | -   | 正面は軽いノミ加工。右面・左面は削面。                                 |
| N2-8          | 戸室石(青)  | 23         | 29         | -   | 正面は削面。右面は自然面。                                       |
| N2-9          | 戸室石(赤)  | 19         | 32         | -   | 正面は自然面。右面・下部は削面。                                    |
| N2-10         | 戸室石(青)  | 21.5       | 33.5       | -   | 正面は軽いノミ加工と自然面(右下部)。左面は削面。右面は自然面。                    |
| N2-11 戸室石(赤)  | 23      | 24         | -          | 正面は軽いノミ加工。右面は自然面。左面は削面。                               |   |
| N2-12 戸室石(青)  | 16      | 33         | -          | 正面・右面・左面・下部は削面。                                       |   |
| N2-13 戸室石(青)  | 6       | 27         | -          | 正面・右面・左面・下部は削面。                                       |   |
| N2-14 戸室石(中間) | 13      | 55.5       | -          | 正面・上面・下部は削面。  |   |
| N2-15 戸室石(赤)  | 12      | 25.5       | (30.5)     | 正面・右面は削面。上面は標準仕上げ。左面は削込みノミ加工(凹凸が無い部分あり)。正面下部・上面に欠けあり。 |   |
| N2-16 戸室石     | 15      | 9          | -          | 正面・左面・右面は自然面。上面・右面は削面。                                |   |
| N2-17 戸室石(赤)  | 10      | 26         | -          | 正面・右面は削面。正面上面に欠けあり。平滑な仕上げ跡あり。延びるの転用石材か?               |   |
| N2-18 戸室石(赤)  | 12      | 39         | -          | 正面は削面。延びるの転用石材か?                                      |   |
| N2-19 川原石     | 12      | 29         | -          | 正面・上面・右面・左面・右下は自然面。                                   |   |
| N2-20 川原石     | 13.5    | 35         | -          | 正面・右面・左面・右面は自然面。                                      |   |
| N2-21 戸室石(青)  | 15      | 8.5        | -          | 正面・右面・左面は削面。  |   |
| N2-22 戸室石(赤)  | 14      | 30         | 22         | 正面・上面・右面は自然面。表面に不規則な網目状構造がみられる                        |   |
| N3-1          | 3       | 15         | (9)        | 正面・上面・右面は自然面。   |   |
| N3-2 戸室石      | 0.5     | 15         | 16         | 正面は削面。上面・右面は自然面。                                      |   |
| N3-3          | 6       | 24.5       | -          | 正面は自然面と削面(下部)。左面は削面。正面を下部に剥離。                         |   |
| N3-4          | 川原石     | 13         | 6          | (11)  | 正面は自然面。   |
| N3-5 川原石      | 15      | 14         | -          | 正面・上面・右面・左面は自然面。                                      |   |
| N4-1          | 31      | 31         | -          | 正面・上面・右面・左面は自然面。                                      |   |
| N4-2          | 19      | 26         | -          | 正面・右面・左面・下部は自然面。                                      |   |
| N4-3 川原石      | 25      | 47.5       | -          | 正面は自然面と削面(左端)。  |   |
| N5-1 川原石      | 23.5    | 27         | -          | 正面・右面・下部は自然面。   |   |
| N5-2 戸室石(青)   | 27      | 46         | -          | 正面・右面・左面・下部は削面。上面は平滑に仕上げている(点状のノミ加工)。                 |   |
| N5-3 戸室石(青)   | 26      | 38.5       | -          | 正面は自然面と削面(右端・左端)。右面・左面・右面は削面。                         |   |
| S1-1          | 38      | 35         | -          | 正面は自然面と削面。正面は削面。正面中央にスジ状ノミ加工。正面右側と右面に黒色付着物。           |   |
| S1-2 破灰岩      | 27      | 52.5       | -          | 正面は自然面。   |   |
| S1-3 川原石      | 17.5    | 47         | -          | 正面は自然面と削面(左端)。  |   |
| S1-4 戸室石(青)   | 9       | 32.5       | -          | 正面・上面・右面・左面は削面(正面・上面は軽いノミ加工)。延びるの転用石材か?               |   |
| S1-5 川原石      | 7.5     | 28         | -          | 正面・右面は自然面。左面は削面。                                      |   |
| S1-6 川原石      | 15      | 47.5       | -          | 正面は自然面。上面は自然面と削面(右端)。                                 |   |
| S1-7 川原石      | 18      | 53         | -          | 正面・上面・右面は自然面。表面に不規則な網目状構造がみられる                        |   |
| S1-8 戸室石(赤)   | 18.5    | 36.5       | -          | 正面・上面・右面は自然面。   |   |
| S1-9 川原石      | 15.5    | 42         | -          | 正面・右面は自然面。  |   |
| S1-10 川原石     | 3       | (30.5)     | -          | 正面は自然面。   |   |
| S2-1 戸室石(赤)   | 40      | -          | -          | 正面は削面。上面は自然面。表面に黒色付着物あり。                              |   |
| S2-2 戸室石(赤)   | 21.5    | 22.5       | -          | 正面は削面と自然面(上部・右下部)。上面は削面と自然面。左面は削面。正面左下部と右上部に鉄錆付着。     |   |
| S2-3 戸室石(青)   | 28      | 36         | -          | 正面は削面。上面は軽いノミ加工。                                      |   |
| S2-4 戸室石(赤)   | 30      | 46         | -          | 正面・上面は自然面と削面。上面に茶色い付着物あり(頬)。                          |   |
| S2-5 川原石      | 16      | 32.5       | -          | 正面は自然面と削面(中央下部から上面にかけて)。上面は自然面。                       |   |
| S2-6 川原石      | 18      | 45.5       | -          | 正面・右面は削面。上面は自然面。                                      |   |
| S2-7 戸室石(赤)   | 26      | 33         | -          | 正面は削面と自然面(下部)。施錠による亀裂。                                |   |
| S2-8 戸室石(赤)   | 32      | 48         | -          | 正面は自然面。上面は自然面と削面。                                     |   |
| S2-9 戸室石(赤)   | 38      | 57         | -          | 正面・上面・右面は削面(正面に軽いノミ加工。方形穴六個)。                         |   |
| S2-10 戸室石(赤)  | 39      | 35         | -          | 正面削離。上面は削面。   |   |
| S2-11 川原石     | 30      | 51         | -          | 正面は自然面(施錠による亀裂あり)。左上部に剥離。                             |   |
| S2-12 川原石     | 18      | 32         | -          | 正面・上面は自然面。  |   |
| S2-13 川原石     | 32      | 56.5       | -          | 正面・右面は自然面。右面は削面。上面は自然面と削面(右端)。                        |   |
| S2-14 戸室石(赤)  | 29      | 67         | -          | 正面は削面(上部)と自然面(下部)。上面・右面・左面・後面は削面。上面に打矢。               |   |
| S2-15 戸室石(赤)  | 26      | 58         | -          | 正面・上面は自然面。右面は自然面と削面。                                  |   |
| S2-16 戸室石(赤)  | 26.5    | 43.5       | -          | 正面・上面は自然面。正面左下部に白い付着物(コンクリートか?砂ではない)。                 |   |
| S2-17 川原石     | 27      | 54         | -          | 正面は自然面。正面中央部に白い付着物(コンクリートか?砂ではない)。                    |   |
| S2-18 戸室石(赤)  | 25.5    | 46         | -          | 正面は自然面と削面(左上部)。上面・右面は自然面。右面は削面。                       |   |

() は、埋没により可視範囲を計測

れており、坂道機能時に、黄褐色土が腐植土壤化したものと考えられる。また、これら土羽盛土表面の一部には三和土が貼り付けられており、表面の補修に用いられた可能性がある。

なお、土羽盛土は、近代レンガ・コンクリート基礎取り上げ後の壁面の精査により、その断面を観察したものである。断面では、焼土を大量に含む特徴的な層が見られ、この上に造成土層が確認できる。そして、この造成土層上に土羽盛土が構築されており、坂道の構築過程を追うことができる。焼土を大量に含む層は、坂道の南北に広く検出されている。また、造成土には大量の礫が含まれる範囲があり、断面⑥-13層や断面⑦-33層で礫混じり層を確認した。ただし門部の側壁石垣の裏込め栗石層に相当する層は確認されなかった。断面④-9層から近世前期の土器類が出土している。この土層は坂道土留石積の裏込め土より古く、側壁石垣の古い段階の裏込め栗石より新しい造成土である。

#### 坂道の変遷

調査では、坂道廃絶時の路面あるいは路盤土の検出と、一部掘り下げにより下部構造の確認、法面の断面観察を行った。変遷としては、①坂道が構築された段階、②坂道に延石が設置され雁木坂となっていた段階、③延石が抜かれ整地された段階、④埋め立てられた段階、の順を確認した。②については、当初から延石が設置されていたかは不明であるが、改修が行われていたことが推定された。③については、抜取穴1の埋土に近代の鉄砲の薬莢が大量に含むことから、明治期となり鼠多門等が旧陸軍の管轄になった以後の時期が想定される。また、抜取穴の埋土には、石材チップ片が大量に出土しており、南側溝における凝灰岩製側溝への改修と関係している可能性がある。④については、鼠多門が焼失した明治17年(1884)以降であり、閉塞石垣構築時の石材加工の状況を窺わせる戸室石チップ片が、坂道の横断溝周辺で検出されている。

### 3. 平坦面（第213・214図）

延石抜取穴9を境に、坂道の傾斜が終了し、以東において通路は平坦面部分に入る。しかし、溜橋や土管など近代以降の造作により、通路の存在を示す路盤土などは削平されている。

近代の土管を取り上げた溝の壁面を精査し、断面⑩や⑪を実測した。断面⑩では南北の側溝に向かつて傾斜する坂道路盤土(41、42層)が検出されているが、通路中央部では削平されている状況である。また、断面25でも同層は検出されていない。また、断面⑩では91層とした戸室石チップ層が検出され、石材加工が行われていたことが窺える。三和土南側でもチップ層が確認されている(第271図)。なお、同図では10層が、緩やかに盛り上がっていることから、坂道東端部北側には土手状の遺構が存在していた可能性もある。

坂道北側溝の延長部は上面プランの検出に留まったが、方形遺構壁面で確認された断面⑩では抜取穴の幅が広く、石材の幅が一樣でないことが窺える。なお、断面⑩より、平坦面における北側溝は、石材が抜かれた後は、①整地(39層)、②石92～94の石列を設置、③石96(戸室石)の設置の順に進んだことが推定される。石96は、溝に土砂が及ばないように置かれた可能性がある。

断面⑩、⑪、⑫は近代遺構の壁面を精査し、近世造成土を検出したもので、断面⑩では東側に向かつて造成土が傾斜しており、斜面部を造成して平坦にしていった状況が窺える。また断面⑪では、大量の炭化物を含有する層(11層)を検出した。



坂道 延石抜取穴 1 断面 (北から)



坂道 延石抜取穴 6 断面 (北から)



坂道 北側溝 (西から)



坂道 南側溝 改修ライン検出状況 (北西から)



坂道 土留石積南面 (南から)



坂道 土留石積北面 (北から)

第 211 図 坂道写真 2



坂道 北土羽断面④（西から）



坂道 北土羽断面⑤（東から）



坂道 北土羽断面⑨（西から）



坂道 南土羽断面⑩（西から）



坂道 南土羽断面⑪（西から）



黄褐色粘質土検出状況（南西から）

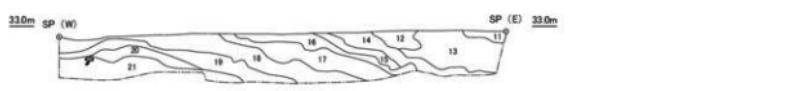
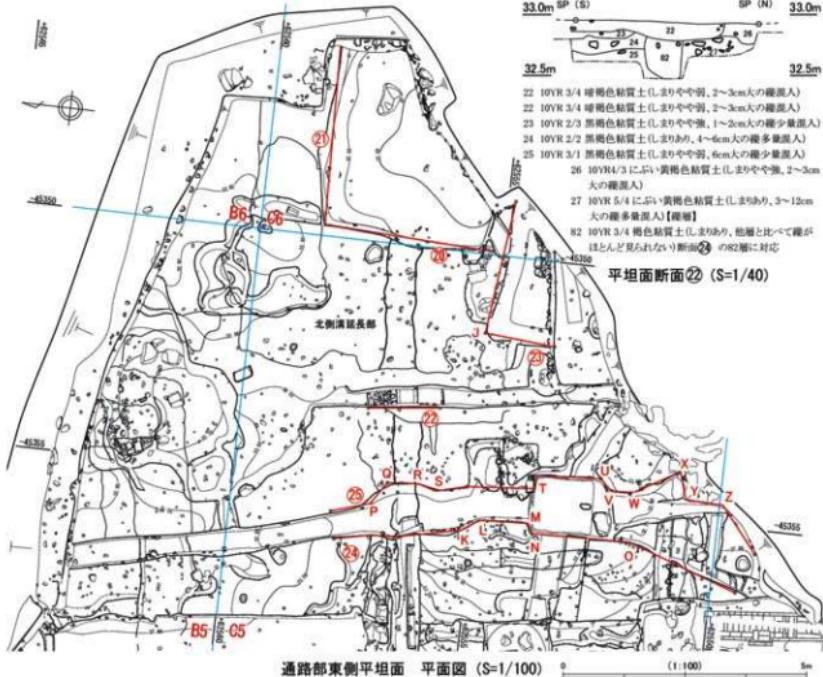


坂道 北側溝東端部断面⑩（東から）

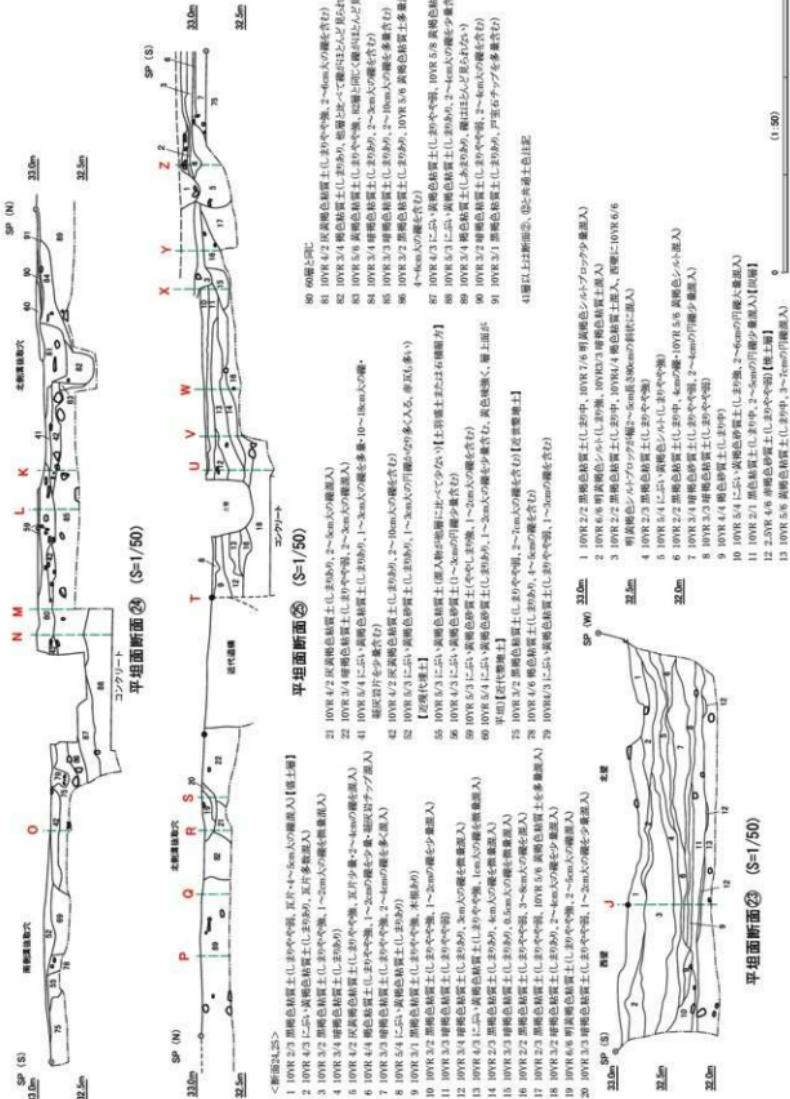


坂道 埋土内石材出土状況（北から）

第212図 坂道写真3



第 213 図 平坦面 平面図・断面図



第214図 平坦面断面図

## 第6節 鼠多門周辺の遺構

### 1. 番所

番所の建物遺構については、近代以降の改変を受けて取り除かれたものと思われ、礎石の可能性があるとして検出できたものは、4石に過ぎない(第216図)。東西に3つ並ぶ礎石は、東西の礎石の芯々で3.8mを測る。最も西にある礎石から次の礎石までは約1.3mを測り、瓦等を大量に廃棄した近代の土坑により失われているが、もう1石東端の礎石との間に存在したとすると、約1.3m間隔で4石が並ぶことになる。東端の礎石については、自然石で平坦な面を上に向けており、方形を描く鉄鋸のような痕跡が認められ、一辺約10cmの方形の柱痕跡と見られる。他の2石にはそのような痕跡は残されていない。

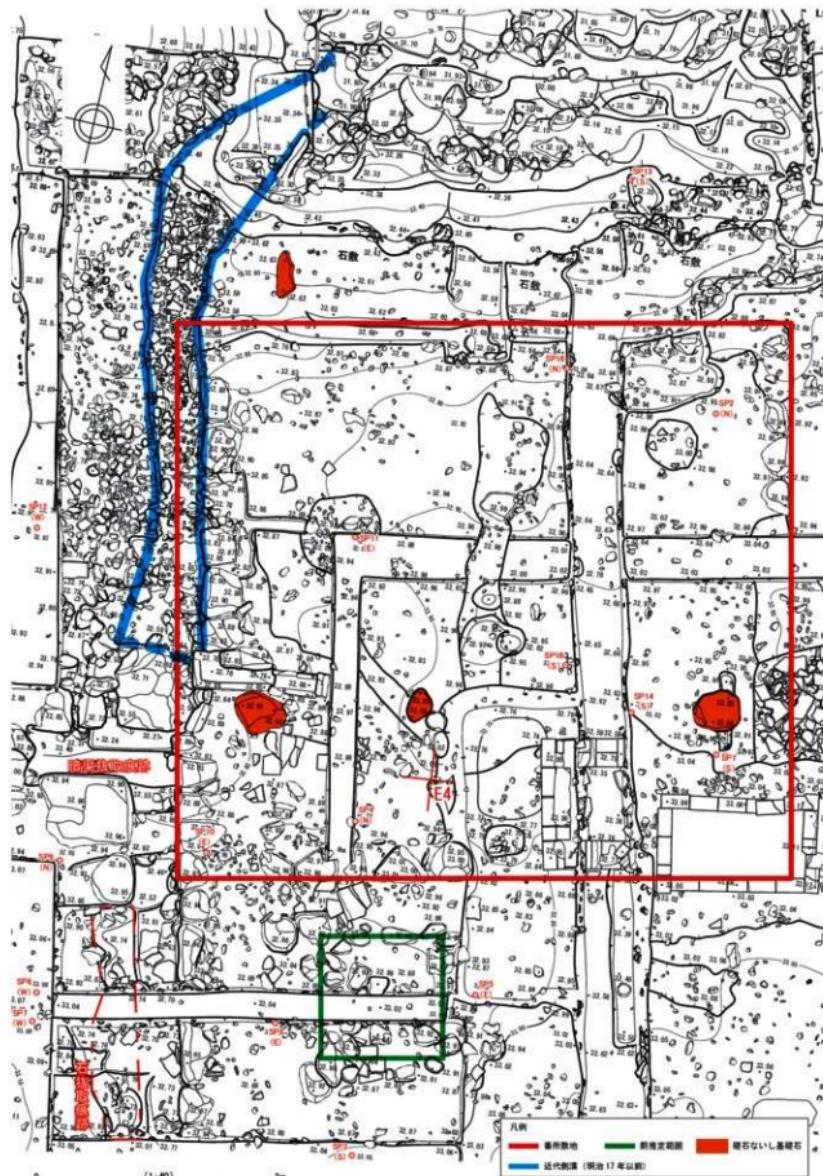
東端の礎石の大きさは直径約30cmの略円形を呈し、幅約60cmの掘方の中に設置されている。この礎石から北へ約2.2mの箇所で礎石の抜き取り痕跡を検出している。平面は圓化していないが、断面図でその位置を示した(第217図)。ただし抜取り跡が検出面から約10cm程度と浅いことや西方向に同じような痕跡は確認できていないため、同一建物かどうか確定できない。これらの礎石は、最終段階の番所に関わるものと思われるが、江戸期のものか近代になって改変されたものかについては確定できない。

北西側にある縦長の礎石については、上記の3石よりも一段低い位置にあり、番所階段の石段の下になるものと見られ。古い時期のものかあるいは番所に庇が付いていたとすれば、その礎石を受ける基礎石といった性格のものの可能性も想定できる。なお、東の方には同じような遺構は検出できていない。

番所の建物遺構については不明な点が多いという結果となったが、番所が建っていたと想定した場所には、周囲と区画する石列及び石列の抜き取り痕跡を確認した。その区画よりも内側は、基壇状に周囲より若干、約10cm弱高くなっていた。基壇状の高まりは、東西に約5m、南北に約4.5mを測る。赤線で囲った範囲(第217図)がそれにあたる。



第215図 遺構検出状況全景（北東から）



第216図 遺構全体平面図

北辺の番所階段と接する箇所には延石が収まっていたと見られ、平面に見る直線的なラインと番所を南北に貫いていた近代の土管暗渠掘方の土層断面図(第220図)に見られる形状から想定した。そのすぐ背面(南側)には、東側で凝灰岩の残欠を3石程度、西側でも凝灰岩の破片を確認している。延石が置かれていた時と同時期のものかそれ以前のものは不明だが、そのほかの辺で凝灰岩を確認したのは、西辺の土層断面図作成箇所(第218図)で、それ自体が最終段階の区画する石とすると、約10cm強高さが足りない。その上に石が置かれていたものと見られ、凝灰岩自体は古い段階のものとも考えられる。

東辺では平らな部分を外側に向けて置いた自然石を3石確認したほかは、抜き取り痕跡や瓦を廃棄した土坑、監獄署のレンガ積の排水溝等に壊されていた。南辺は、東側を瓦廃棄土坑に切られていたが、西側は残っており、これも平らな面を外側に向けて置いた自然石である。近代以降、西辺の北側については若干狭められるという改変を受けているとみられるが、江戸期からこの基壇状の高まりは存在していたと見られる。

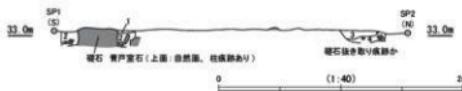
基壇状の高まりの西辺には石組溝が取り付いている。青線(第216図)でその推定範囲入れたが、その場所が側溝となって、番所階段側に水を落とすという構造になっている。側溝の底面には細かい約1～4cm大の礫が敷かれ、上面には釉薬瓦を含む陶磁器等が出土する。西肩にはしっかりととした石列は確認できないが、約10cmの大きめの礫が認められた(第218・219図)。東辺にも同様な遺構があつた可能性はあるが、区画の石を検出したことにどめている。南辺については、後述の廻遣構と考えられる石列との間に幅30～50cm程度の隙間があり、細かい礫で作られた硬化面が存在する。区画の石列とは約5cmのレベル差しかなくかなり浅い。番所の屋根の構造は不明だが、南北方向の切妻屋根だとすると、南辺には排水構を持たないかもしない。

西辺の側溝は、若干区画が狭められた最終段階のものと考えられる。少しくぼんだ側溝底面は、前段階の石列があった箇所で、それを利用しているものと見られ、約30cmの深さを測る。ちょうどその狭められた南端に番所区画の内部から凝灰岩製の内法幅約10cmの浅い石組み溝が取り付いている(第219図)。石組溝は約1.1mほどで止まるので、屋根から落ちる雨水を流すようなものではなく、建物内部の排水を流すような施設であると想定している。番所階段側へ流す部分には、凝灰岩の板石が立てられ、排水口が作られていた。この排水口は、番所階段が埋め立てられる前に機能していたものと見られるが、江戸期においても同様な遺構があつたかどうか、段階側へ水を落としていたかは不明である。

番所の区画が狭められた箇所の西側には、暗渠を取り除いた痕跡を確認した。その痕跡は幅約40cmで、底面は32.24mを測る。西面の石垣から突き出ている石樋につながっていたものと見られ、その痕跡は形状と固く締まっていることなどから、おそらく石樋を抜取ったものと思われる。石樋の厚さを約10cmと仮定すると、内底面のレベルは32.34mとなり、西面の石垣から突き出ている石樋の内底面のレベル32.23mよりも高くなってしまい、矛盾しないものと見られる。その痕跡の番所側には、石積が見られるところから、これ以上は東側に伸びていなかつたか、あるいは埋め立てられたものとみられる。

暗渠を抜いた後には、一辺約50cmの方形の戸室石が2石置かれ、排水溝のコーナーを作っているよう見える。そこから西側へ石列は伸びていくように見えるが、その西側の調査区では確認できていない。南側へは石組溝が確認でき、東肩は区画の石列でさらに番所の範囲外へも石組溝は延び、調査区外へと延びていく(第216図)。区画から南側の石組溝は、西肩の石列は取り除かれているが、東肩は残されており、深さは約30cmを測る。この石組溝については、土蔵に関わる可能性もあるが、暗渠を抜いた部分の改修等、極めて不明確なところが多く、判然としない。

基壇状の高まりの南辺から南側に約40cm離れて約1m四方の石列が確認できた(第216図緑線)。基壇状の高まりを形成する石列のように整えられたものではなく、自然石をただ並べたという感じである。絵図には番所の南側に廻が描かれており、おそらく廻に関する遺構ということになる。石列の区画内に甕を埋めたような痕跡は確認できない(第217図)。おそらく桶等が設置されていたと思われる。



- 1 10YR4/4 灰色粘土質土 (しまり強)
- 2 10YR3/4 暗褐色粘土質土 (しまり強, 1~10cm 大の円錐やや多く含む)
- 3 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト (しまり強, 2cm 大の円錐含む)
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質土 (しまり強, 4cm 大の円錐・無葉瓦片混入)

D 4 番所東側 確石等 土層断面図 ( $S=1/40$ )



D 4 番所東側 確石等

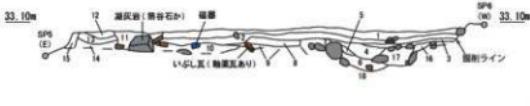


- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト (しまりあり)【近代の表土か (M15かそれ以前)】
- 2 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト (しまりあり), 暗褐色シルトが小ブロックで混入【近代帶地土】
- 3 10YR5/2 灰黄褐色土 (しまりあり)【近世帶地土か】
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (しまりあり, シルト質)【近代堆土か (M15かそれ以前)】
- 5 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト (しまりあり)【近世堆地土】

E 3 番所南外辺 (廻か) 南北セクション東面 土層断面図



D 4 番所東側 確石等 土層断面図 ( $S=1/40$ )



土層図内の例例  
■ 黒 ■ 石 ■ 鉄筋

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト (しまりあり)【近代の表土か】
- 2 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト (しまりあり), 暗褐色シルトが小ブロックで混入【近代帶地土】
- 3 10YR5/2 壤灰色シルト (しまりあり)【近代の表土か】
- 4 10YR6/3 にぶい黄褐色土 (しまりあり, シルト質)【近代か】
- 5 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土砂層 (少々じるぎ, 3~5mm 大の粗砂)
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (しまりあり, 粘砂)
- 7 10YR4/2 灰黄褐色土 (しまりあり)【廻削削除力】
- 8 10YR8/4 皮黃褐色シルト (しまりあり, 黄褐色シルトブロックを含む)【近代帶地土】
- 9 10YR6/2 硫酸灰黃褐色土 (しまりあり, 1cm 前後の礫・0.5cm 程度の礫・2~3cm 大の礫・5cm 大の礫 [石破き層として認識], 瓦小片・陶器片小片で囲くする)

- ※1 ~ 9 級: 近代か  
 10 10YR6/3 にぶい黄褐色土 (しまりあり・難透)  
 11 10YR5/2 灰黄褐色土 (しまりあり)砕かなり新しいものか? 現代?  
 12 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (しまりあり)  
 13 10YR4/2 灰黄褐色土 (しまりあり, シルト質)※1 級と同一か  
 14 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト (しまりあり・廻灰色シルトブロックを含む)  
 ※2 級と同一 砕か ~ 14 級: 近代か  
 15 10YR6/3 にぶい黄褐色土 (しまりあり)【瓦層の隙方にかわらるものか】  
 16 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト (しまりあり)【石積の抜取堆土】  
 17 10YR6/4 にぶい黄褐色土 (しまりあり, シルト質)【石積の抜取堆土か】  
 18 10YR5/2 灰黄褐色粘土質土 (しまりあり)【塗の底面, 塗り付けてあるか】

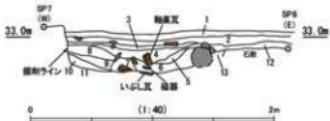
E3 番所南西隅 石組溝から便所 東西セクション北面 土層断面図 ( $S=1/40$ )



東側 土層断面

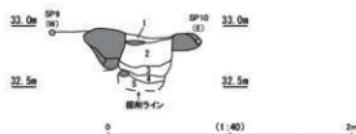
西側 土層断面

第 217 図 番所基礎石・廻基礎・石組溝等土層断面図・写真



- 1 10YR5/2 黄褐色シルト（しまりあり）【近代の表土か】
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト（しまりあり、炭化物色シルトが小ブロックで混入）【古代整地土】
- 3 10YR5/2 深灰色シルト（しまりあり）【近代の表土か】
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色土（しまりあり、シルト質）【古代か】
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色粘砂層（ややしまる、3～5cm大の粗砂）
- 6 10YR5/2 灰黄褐色土（粘性あり。しまりあり、微砂）
- 7 10YR5/2 灰黄褐色土（粘質、しまりあり）【石礫の抜き取り痕か】
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色粘シルト（しまりあり）【木植の根跡土】
- 9 10YR5/3 にぶい黄褐色土（しまりあり、シルト質）【石礫の根跡土】
- 10 10YR5/2 灰黄褐色土（しまりあり）
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土（しまりあり）【近世盛土か】  
表層の底面に「あし瓦」が敷いてあるように見える
- 12 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト（しまりあり）
- 13 10YR5/2 灰黄褐色土（しまりあり）【石組溝東側石積泥炭】

番所南西隅 石組溝 土層断面図 (S=1/40)



- 1 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト（しまりあり）
- 2 10YR5/2 灰黄褐色土（しまりあり、微砂）
- 3 10YR6/2 灰黄褐色土（しまりあり、微砂）
- 4 10YR5/2 灰黄褐色粘質土（しまりあり）【底底の貼り付け粘土か】
- 5 10YR6/2 灰黄褐色粘質土（しまりあり、シルトっぽい）【底底か（石面み以前）】

番所西辺外 石組溝 土層断面図 (S=1/40)



番所南西隅 石組溝 土層断面写真



番所西辺外 石組溝 土層断面写真



- 1 10YR7/2 黄褐色シルト（しまりあり）【近代整地土】
- 2 10YR6/2 灰黄褐色土（しまりややあり）2' 層に5層が混じる
- 3 10YR6/6 明黄色土（しまりあり、7.5YR6/6 細色砂が10cm程度の層状に多く含む【施けている?】）【古代か】
- 4 10YR6/2 灰黄褐色土（しまりややあり、炭粒少含む）【底底灰岩の輪郭か】
- 5 10YR5/1 周辺褐色土（しまりなし）、炭片・遺物多く含む
- 6 10YR5/1 周辺褐色土（しまりなし）、炭片・遺物多く含む、5層より粘質でやや硬い
- 7 10YR6/4 にぶい黄褐色粘質土（しまりあり、ブロックで塊状の落ち込みの西側に直す）
- 8 10YR6/1 灰褐色土（しまりなし）、炭粒少含む
- 9 10YR5/1 周辺褐色粘質土（しまりややあり）
- 10 10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土（しまりあり、シルト質）【近世盛土】



番所北側 石組溝等 土層断面写真

- 11 10YR7/4 にぶい黄褐色粘シルト（しまりあり）【近世盛土】
- 11' 10YR5/2 周辺褐色粘質土ブロック混にぶい黄褐色粘シルト（京II）と同じか
- 12 10YR6/2 灰褐色土（しまりあり）
- 13 10YR6/2 細密灰褐色土（しまりあり）【根固めか】平面で円形範囲あり

番所北側 石組溝等 土層断面図 (S=1/40)

第218図 番所西辺外側石組溝等土層断面図・写真



番所遺構等検出状況（西から）



番所西辺 砥灰岩製石組溝及び丸瓦出土状況（南から）



番所東辺 瓦廃棄土坑（南から）

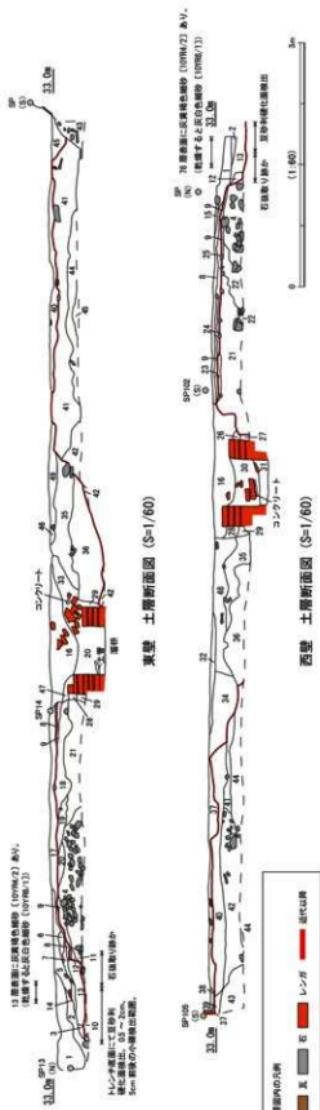


番所西辺 石組溝及び暗渠等検出状況（西から）



番所西辺 石組溝内蔵等検出状況（東から）

第219図 番所遺構全景等写真



第 220 図 番所東側近代暗渠掘方土層断面図

1. IWR 7.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 黄褐色土を多く含む、部分的な赤褐色土を含む。部分的な赤褐色土を含む。
2. IWR 8.4に於ける黄褐色土 (IWR 8.2に於ける黄褐色土) 全部が含む。1cmの厚さで多く含む。
3. IWR 9.2に於ける黄褐色土 (IWR 9.0に於ける黄褐色土) 全部が含む。
4. IWR 9.3に於ける黄褐色土 (IWR 9.1に於ける黄褐色土) 全部が含む。
5. 2.5m 6/3 (IWR 7.2)に於ける黄褐色土 (IWR 7.0に於ける黄褐色土) 2 ~ 3cm 大きな塊状。
6. 2.5m 6/4 (IWR 7.2)に於ける黄褐色土 (IWR 7.0に於ける黄褐色土) 0.5cm の細かい塊状。
7. 2.5m 6/4 (IWR 7.2)に於ける黄褐色土 (IWR 7.0に於ける黄褐色土) 0.5cm の細かい塊状。
8. 2.5m 6/4 (IWR 7.2)に於ける黄褐色土 (IWR 7.0に於ける黄褐色土) 0.5cm の細かい塊状。
9. IWR 8.3に於ける黄褐色土 (IWR 8.1に於ける黄褐色土) 塗装の剥離、塗装の剥離。
10. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 塗装の剥離。
11. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の小規模な隙間設置を含む。
12. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の小規模な隙間設置を含む。
13. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の小規模な隙間設置を含む。
14. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土、隙間設置を含む。
15. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
16. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土、レンガ接着剤を含む。
17. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) ブロック、隙間設置を含む。
18. IWR 8.2に於ける黄褐色土 (IWR 8.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
19. IWR 8.3に於ける黄褐色土 (IWR 8.1に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
20. IWR 8.4に於ける黄褐色土 (IWR 8.2に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
21. IWR 8.5に於ける黄褐色土 (IWR 8.3に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
22. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
23. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
24. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
25. 2.5m 6/2に於ける黄褐色土 (IWR 6.0に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
26. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
27. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
28. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
29. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
30. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
31. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
32. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
33. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
34. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
35. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
36. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
37. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
38. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
39. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
40. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
41. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
42. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
43. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
44. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
45. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
46. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
47. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
48. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。
49. IWR 8.0に於ける黄褐色土 (IWR 7.8に於ける黄褐色土) 0.5cm 厚の白褐色土。

D 4 番所附段~番所 土層断面図 (S=1/60)

## 2. 番所階段

### 番所階段の概要（第222～223図）

合計9段分の階段基盤を確認した。階段の石材はすべて抜取られており残存していない。階段の間口は3.04m(最下段)、奥行4.4m、1段目下から9段目上端までの階高は約2.3mを測り、階段両端の土留石積が袖石となっている。検出した石材抜取り跡から推定される階段の石材は、1段目から8段目は不整形材、9段目は直方体状の石材(延石)である。階段1段分の寸法は、踏面約50cm、蹴上約30cmと推定されるが、階高を段数で等分した通常の階段と異なり、1～5段目と6～9段目で若干寸法が異なる。なお階段の名称は、最下段を1段目、最上段を9段目とした。

### 番所階段1～8段目（第232図）

整地土(灰黄褐色粘質土)を削り込み階段基盤が形成されている。踏面先端に据えられていた石材はすべて抜取られ、1段当たり6～8石分の抜取り跡を確認した。抜取り跡は歪な半円～楕円形の窪みで、裏込め、根固めが所々に遺存していた。

遺構から推定される階段1～5段目1段分の寸法は、踏面1尺6寸(48.5cm)、蹴上9寸(27.2cm)である。番所階段は、坂道に対して直交方向に位置しているため、1段目は坂道の下手である西側の蹴上が9寸と復元できるのに対し、坂道の上手である東側の蹴上は地面とほぼ同レベルとなる。石抜取り跡から推定される石材の個数は、1段目6石、2・3段目7石、4・5段目8石である。

一方、階段6～8段目1段分の寸法は、踏面1尺7寸(51.5cm)、蹴上7寸5分(22.7cm)と推定される。1～5段目と比較すると、踏面は3cm広く、蹴上は4.5cm低い。石抜取り跡から推定される石材の個数は、6～8段目いずれも8石である。

### 番所階段9段目、平坦面（第223図）

番所階段9段目の基盤上では、1～8段目のような歪な半円～楕円形に窪んだ石材抜取り跡は確認できない。窪みは確認できずほぼ平坦で、石材据方の境目と推定される隆起部分が1カ所確認できた。抜取り跡の状況から、9段目の石材は直方体状の石材(延石)と推定される。遺構から推定される階段の寸法は、踏面1尺2寸(38.8cm)、蹴上7寸5分(22.7cm)である。

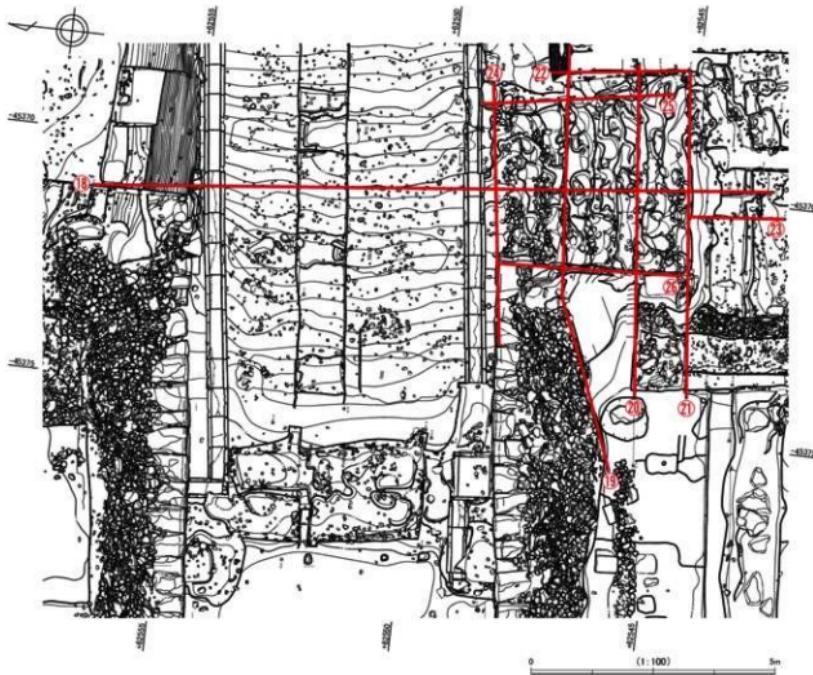
また、番所階段と番所建物の間には、間口約4.5m、奥行約0.7mの平坦面が確認できる。表面は、石敷で舗装され、間口4.4m、奥行30～55cmの範囲で遺存している。番所階段9段目石材の上端は平坦面と同レベルであると推定しており、9段目延石から番所建物まで約114cmを測る。

### 石段側面の土留石積（第229・230図）

大型の川原石や戸室石の割石を用いた1～3段の石積で、高さ40～60cm。裏込め栗石は伴わず、天端は粘性土で被覆され、番所階段の袖石ともなっている。番所階段の石段当たり付近の石材表面には変色箇所(シミ)が確認できる。東面(西壁)は側壁石垣(南)東隅角部と接続し、石積はほぼ完存している。一方西面(東壁)は、石材の一部が抜取られている(抜き取り跡を検出)。

### 番所階段の廃絶時期（第224～228図、232図）

鼠多門焼失(明治17年[1884])以降に埋め立てられた鼠多門・坂道埋土の下層に番所階段部の埋土が堆積することから、番所階段が先行して埋め立てられていたことが確認できる。階段石材等を抜取り後、にぶい黄褐色系の粘質土等で埋め立てられ、側壁石垣(南)北面石垣延長線上の番所階段開口部は、戸室石の割石材や大型川原石、戸室石製石溝部材、凝灰岩部材等で土留(裏込め層なし)し、坂道への埋土崩落を防止している。番所階段埋土からは薊莢が出土しているため、埋立て時期は遅っても明治初年以降と推定される。明治15年(1882)玉泉院丸に陸軍監獄署が新築されることを契機として、番所建物の撤去、番所階段の埋め立てが行われたと推定される。



| 図面番号 | 図面名称                  | 図版番号  |
|------|-----------------------|-------|
| ⑯    | 門・坂道埋土、番所階段埋土堆積状況（南北） | 第224図 |
| ⑯    | 番所階段埋土堆積状況（東西①）       | 第226図 |
| ⑯    | 番所階段埋土堆積状況（東西②）       | 第227図 |
| ⑯    | 番所階段埋土堆積状況（東西③）       | 第228図 |
| ⑯    | 番所階段東壁土層断面            | 第228図 |
| ⑯    | 番所階段間平坦面付近南北土層断面      | 第228図 |
| ⑯    | 番所階段土留石積（明治）立面図       | 第231図 |
| ⑯    | 番所階段土留石積西面（東壁）立面図・写真  | 第229図 |
| ⑯    | 番所階段土留石積西面（西壁）立面図・写真  | 第230図 |

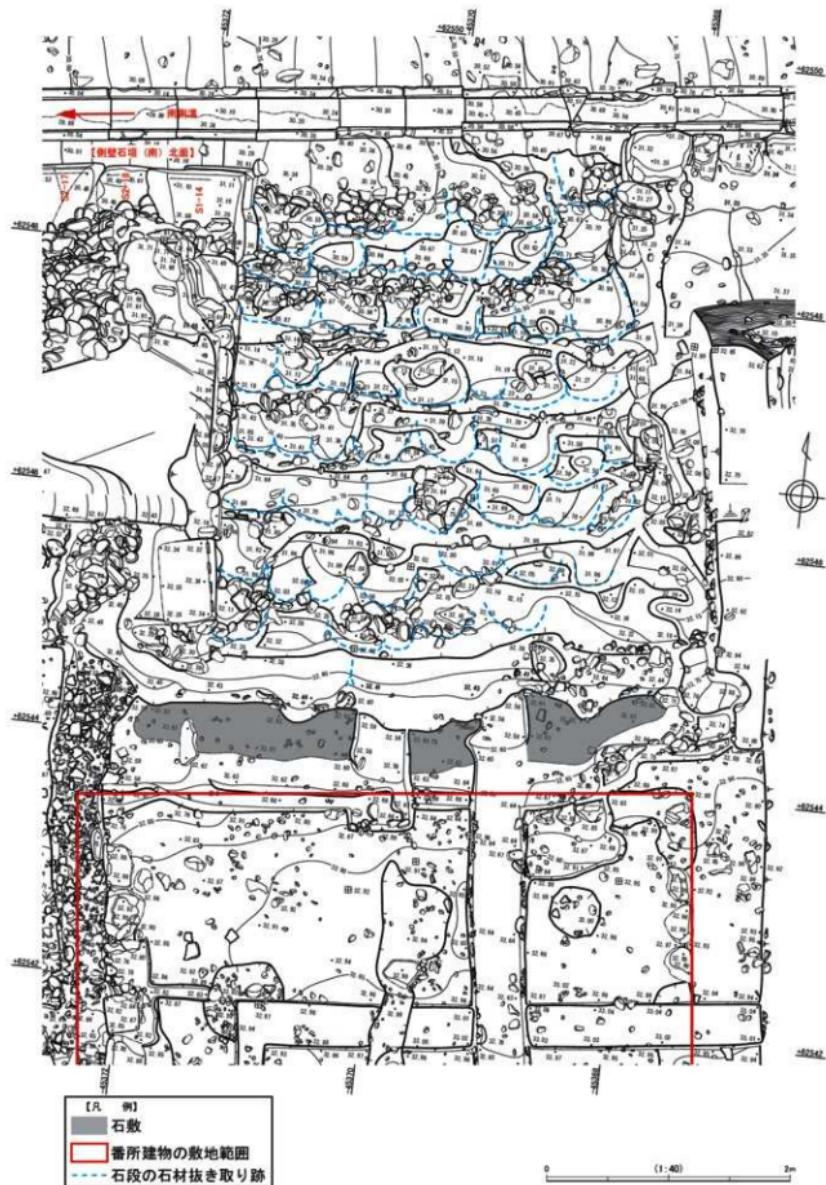


番所階段掘削作業（北東から）



番所階段掘削作業（南東から）

第221図 番所階段土層断面・石積立面図位置図



第222図 番所階段平面図

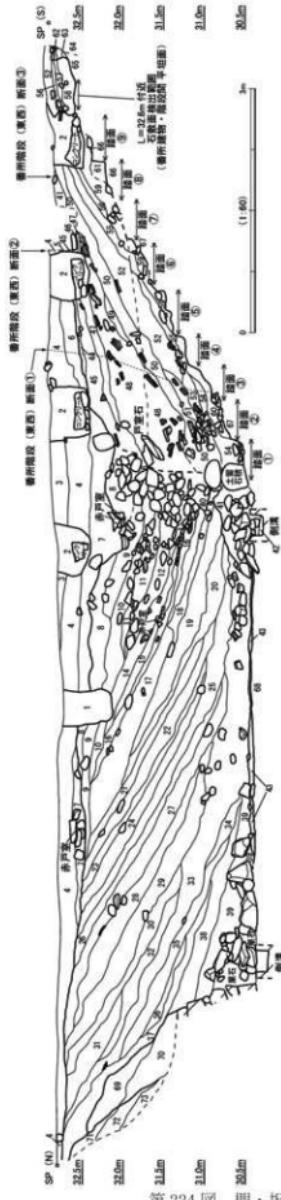


番所階段 全景 (北から)



番所建物・階段間平坦面 石敷検出状況 (東から)

第 223 図 番所階段写真



第224図 門・坂道理土、番所階段埋土堆積状況（南北）土層断面図

【参考】  
 ① 所属色：虎斑色（10R 10/2）に5% 黄色チオブロッカ、糊剤、封箱用糊  
 ② 色番号：10R 10/2  
 ③ 色名：虎斑色（10R 10/2）（虎斑色シルバーブロッカ含む）  
 ④ 説明：【香料吸着抑制剤】  
 ⑤ 原産国：日本  
 ⑥ 制造者：日本染料(株)  
 ⑦ 用途：主に紙の表面に付着する香料を吸着する。  
 ⑧ 特徴：紙の表面に付着する香料を吸着する。  
 ⑨ 例：虎斑色（10R 10/2）



門・坂道埋土理土 (南北：上半) 堆積状況 (南西から)



門・坂道埋土理土 (南北：下半) 堆積状況 (南西から)

53 10W 4/2 正西側地盤土 (10W 5/4 にない) 黄褐色砂質土プロック、黄褐色、地土質、瓦片、瓦砾等の小碎石等の土層を有する。17層目に於ける。

54 10W 4/3 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土上部) 10W 8/3 黄褐色砂質土プロック、黄褐色、地土質、瓦片、瓦砾等の小碎石等の土層を有する。17層目に於ける。

55 10W 4/2 正西側地盤土を含む土層。17層目に於ける。

56 10W 5/4 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

57 10W 4/2 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

58 10W 4/2 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

59 10W 3/2 黑褐色土 (しまなし)、砂質土、10W 6/8 正西側地盤土。

60 10W 4/2 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

61 10W 3/2 黑褐色土、表面より地盤土が剥離し、開設石取扱便土。

62 2.5/1 4/2 用耕地黑褐色土、10W 6/8 正西側地盤土。

63 10W 4/2 用耕地黑褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

64 10W 8/3 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

65 10W 4/2 正西側地盤土を含む土層。20W 20W では、この層面上に石礫層が厚く、1cm程の豆粒状の目立つ。

66 10W 4/2 に古い黑褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

67 10W 4/2 正西側地盤土を含む土層。10W 6/8 正西側地盤土。

68 10W 4/2 用耕地黑褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

69 2.3/1 5/6 黑褐色砂質土 (10W 5/1 黄褐色砂質土プロック)、黒褐色砂質土プロック、黒褐色砂質土。

70 2.3/1 6/4 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

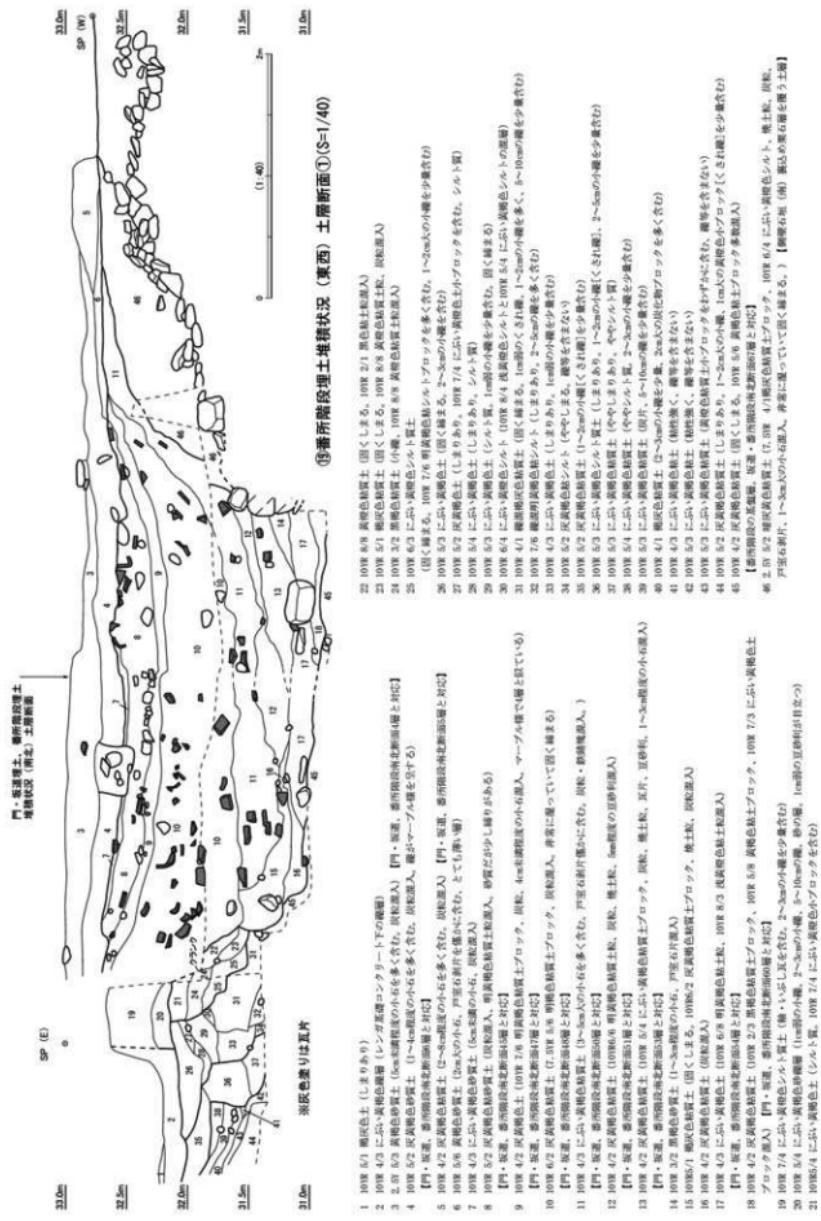
71 2.3/1 4/2 に古い黒褐色土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

72 10W 6/8 正西側地盤土 (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

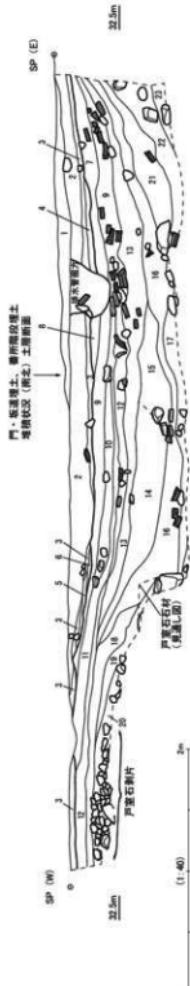
73 10W 2/1 黑色シルト (10W 6/8 正西側地盤土) 17層目に於ける。

第 225 図

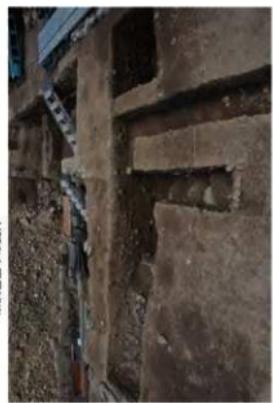




第226圖 番西階段烟土堆積剖面（東西）土壤剖面圖



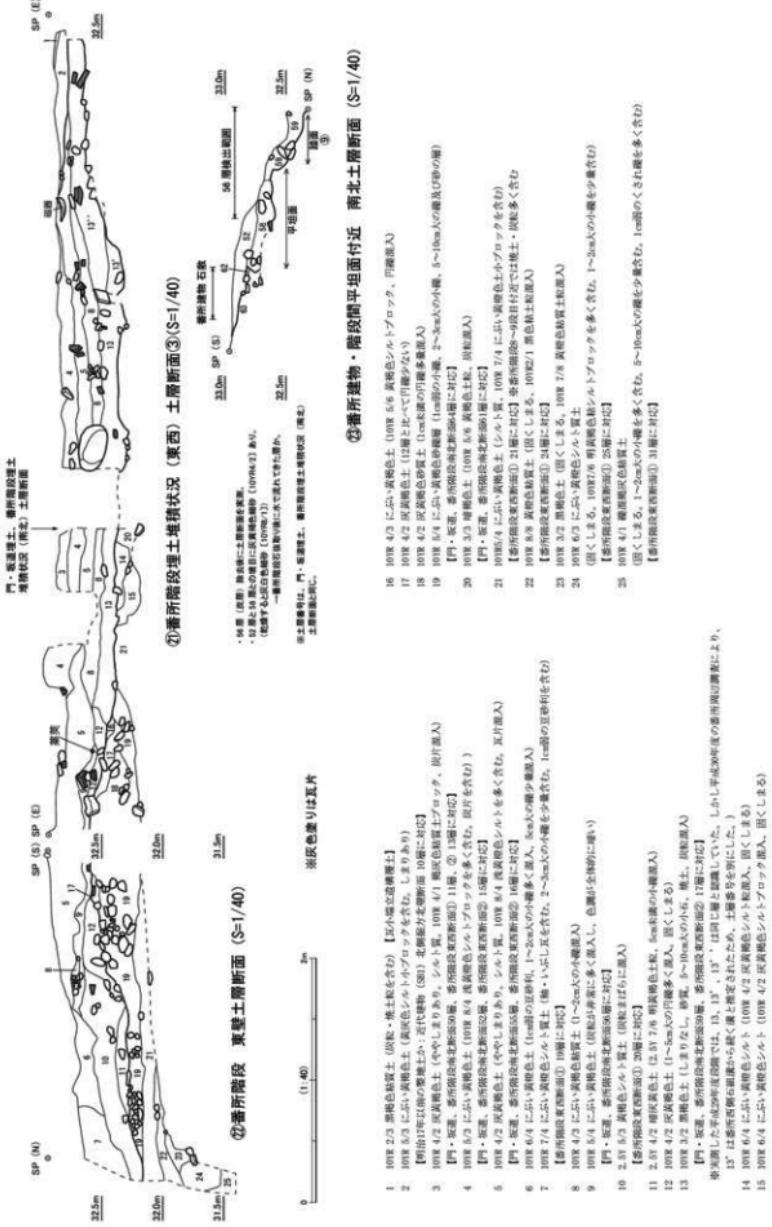
②番所段段埋土堆積状況（東西）土層断面②(S=1/40)



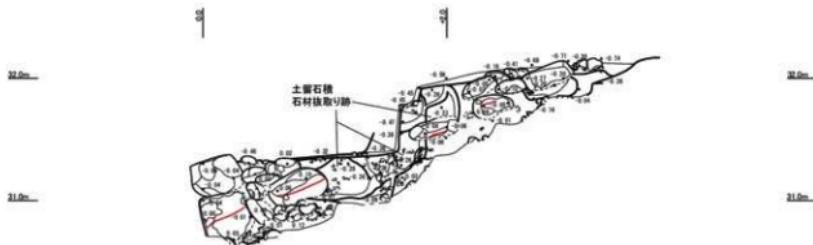
番所段段埋土（東西②）堆積状況（南から）



戸窓石壁片 検出状況（南から）



第 228 図 番所段階埋土堆積状況 (東西) 土層断面図 ③



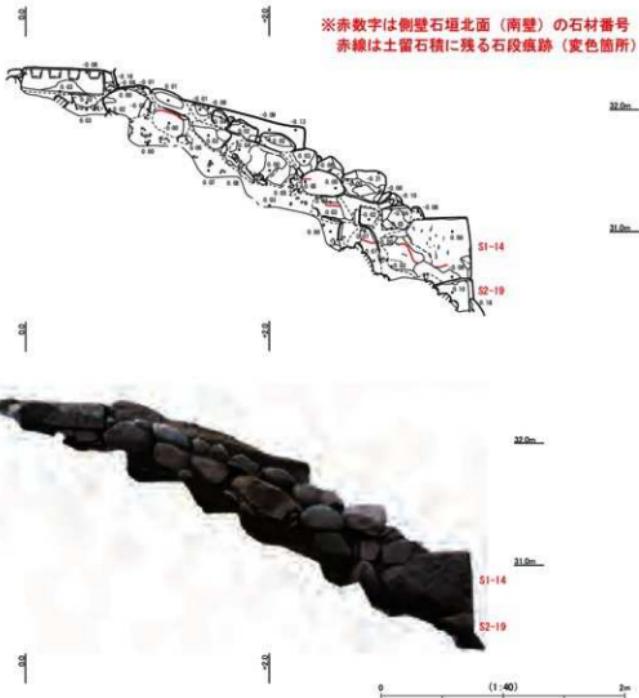
\*赤線は土留石積に残る石段痕跡（変色箇所）



A photograph showing a large pile of discarded stones and debris, likely from a demolition site, with a blue fence visible in the background.

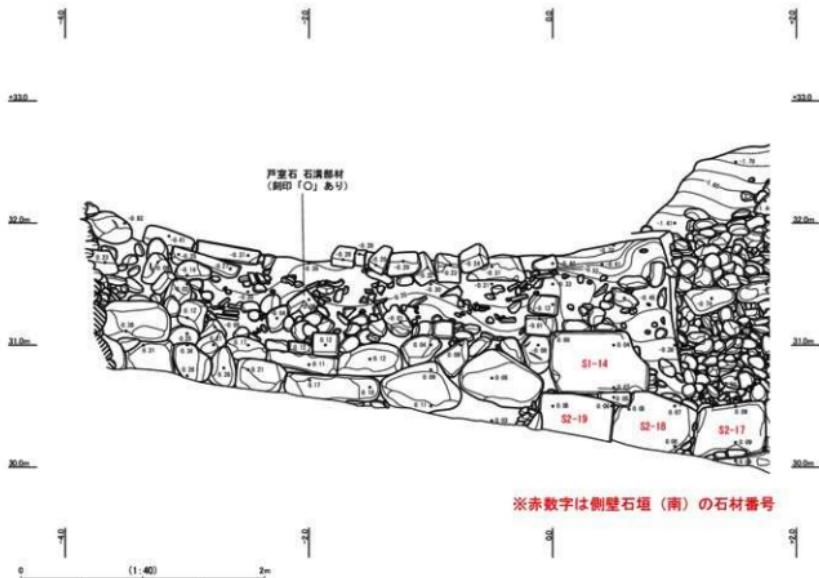
### 番所階段全景 土留石積西面（北西から）

第 229 図 番所階段土留石積西面（東壁）立面図・写真



番所階段全景 土留石積東面（北東から）

第230図 番所階段土留石積東面（西壁）立面図・写真



土留石積検出状況（北から）



土留石積検出状況（北西から）

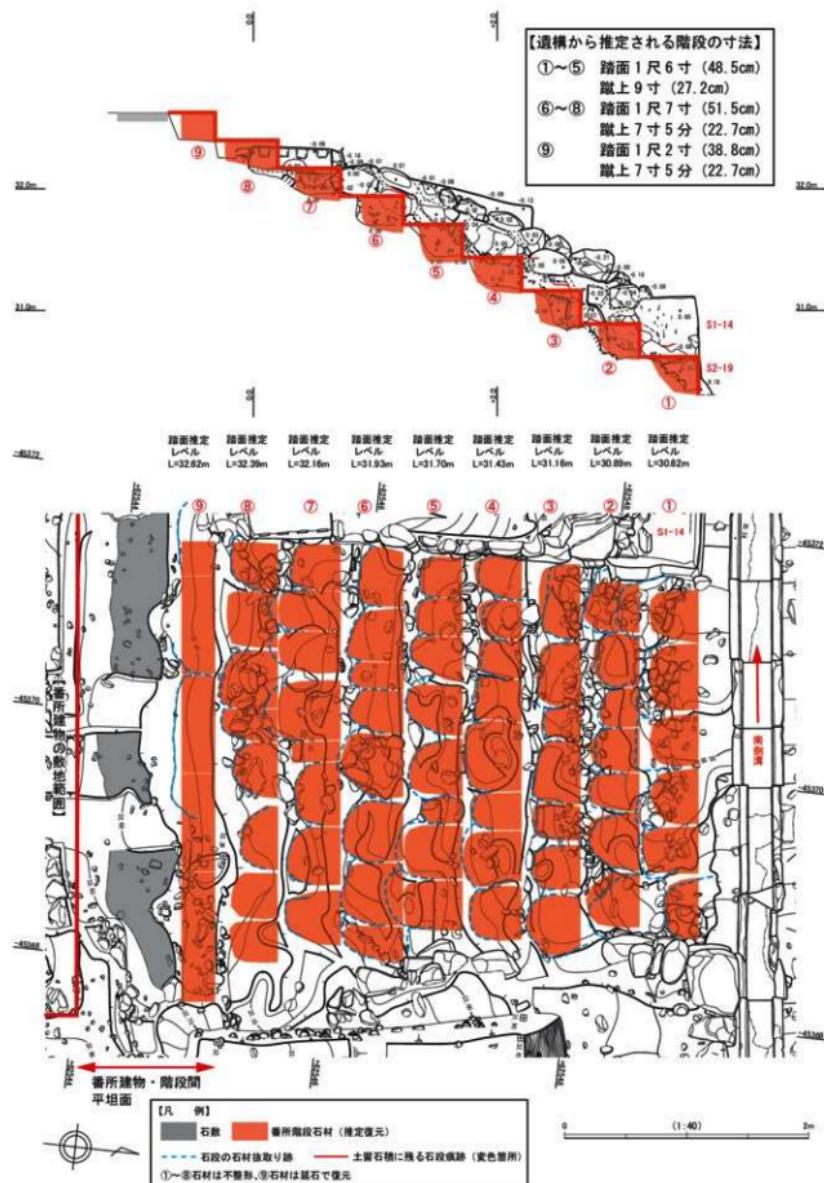


土留石積検出状況（北東から）



刻印のある石溝部材検出状況（北西から）

第 231 図 番所階段土留石積立面図



第 232 図 番所階段模式図

## 第7節 近代以降の遺構

### 1. 閉塞石垣

#### (1) 閉塞石垣について

##### 閉塞石垣の築石（第233～239図）

閉塞石垣とは、明治時代に旧陸軍が玉泉院丸を監獄署の用地とするため、鼠多門から紅葉橋に至る坂道を埋め立て平坦な敷地を造成する際に、玉泉院丸西面の石垣開口部(鼠多門統土蔵北石垣[石垣ID:6100W]と鼠多門統土蔵南石垣[石垣ID:6110W]の間)を閉塞した石垣のことである。閉塞石垣の石材は、鼠多門の通路部分である側壁石垣の石材を解体して転用していることから、明治17年(1884)の鼠多門焼失後に構築されたものである(側壁石垣については第4節参照)。

閉塞石垣の築石石材は、すべて戸室石である。詰石については、川原石(円礎)、戸室石の割石両方が使われており、第3段目中央部に設置されている土管の周囲には、やや大振りの川原石・戸室石の詰石が使用されている。段毎の石材数は、第1段28石、第2段21石、第3段19石、第4段20石、第5段20石、第6段18石、第7段19石、第8段13石、第9段14石、第10段9石である。第1段～第10段の合計で181石あった。大振りの石材は下段で目立ち、側壁石垣で角石であった石材は第9段、第10段で使用されている。

閉塞石垣の最下段である第10段は根石に相当し、鼠多門正面列の鏡柱礎石、脇柱礎石、延石を撤去後、近世整地土・延石痕跡埋土(明治)の上に跨り地面に直接据付けられていることを確認した。根石直下に胴木は確認できないが、延石痕跡埋土中で確認された凝灰岩溝部材や戸室石部材は根固めとして入れられた可能性がある。

##### 鼠多門・坂道の埋め立てと閉塞石垣裏込め層（第240図、第3節第40～43図）

閉塞石垣背面の裏込め層には、栗石として小振りな円礎が使用されている。栗石は1～2.5m幅で確認しており、人頭大の円礎、閉塞石垣に転用されなかった築石、明治再加工時の端材、地覆石、敷石など築石以外の石材も混在している。

鼠多門・坂道は、坂道の北東側から流し込まれた黒褐色系土と黄褐色系土(門・坂[明治]埋土)により埋め立てられている。土層の観察から、閉塞石垣の築石据付け、裏込め栗石層の施工と鼠多門・坂道の埋め立てが一連の作業で行われていたことを確認した。第9段背面の栗石層は幅1.5～2m程度で、それより上段の栗石幅は狭まり、第7段背面の栗石幅は1m程度である。第6段背面は栗石層が殆どなく、築石背面まで門・坂(明治)埋土で覆われている。第5段より上段の背面には、再び栗石層が幅1～2mで施工されている。

##### 閉塞石垣解体工事等について（第234図）

鼠多門開口部を復元するために、閉塞石垣解体を土木部発注工事で施工した。足場設置等周辺の環境整備や、石材前面への個別石材番号を記したガムテープ貼付作業は工事で実施した。解体直前には石材上面へ番号を墨入れしたが、これは解体調査の進捗状況に合わせて研究所が実施した。石材の個別番号は、「第1段1石目」を「1-1」と表記し、石材に記入した。裏込め層出土の石材は「1-50」のように50番台以降の番号を付した。なお、通常の石垣修築工事であれば、隣接する石材関係を明らかにするため、解体作業前に石垣前面に格子状の墨打ちを工事側で施工するが、今回は解体のみなので墨打ちは行っていない。

裏込め層の調査と並行して栗石の撤去を研究所が実施し、築石の全体形状が露出したところで、段毎に石材検出状況写真を撮影した。第1段及び第8段については写真測量により平面図を作成した。平成27年度は7月から解体作業に着手し、第9段まで解体した。最下段である第10段は、平成28年度に解体した。解体後の石材は、洗浄後に個別石材観察ならびに写真撮影、石材カードの作成を行っている。石材観察・

石材カード作成等の詳細は第4節を参照されたい。

## (2) 明治の石材再加工について

### 閉塞石垣構築時の石材再加工（第241～245図、第24、25表）

閉塞石垣は粗加工石積であるので、元来切石であった側壁石垣石材を転用するために、支障となる石材の頂点等を打割りやノミ加工で合端調整したり、適度な大きさにするために矢割りしている石材(三角形矢穴痕あり)を確認している。閉塞石垣181石の内、第24、25表に掲載した102石(閉塞石垣の56%)は、閉塞石垣構築時に再加工していることが確実な石材である。矢割りした石材の中には、1石に接合する石材も確認している(1-2・1-6・1-60)。

石材の正面周囲が打割られているものは、据付け時に支障となる部分を再加工した事例だけでなく、焼損等による亀裂により剥落しそうな部分を石積み時に予め除去した石材もあると推測される。

なお、閉塞石垣の石材正面の加工については、側壁石垣当初のA類、B類石材の調整や鉛付着状況がそのまま残存していることから、閉塞石垣として全体を統一した意匠的調整はなされていない。

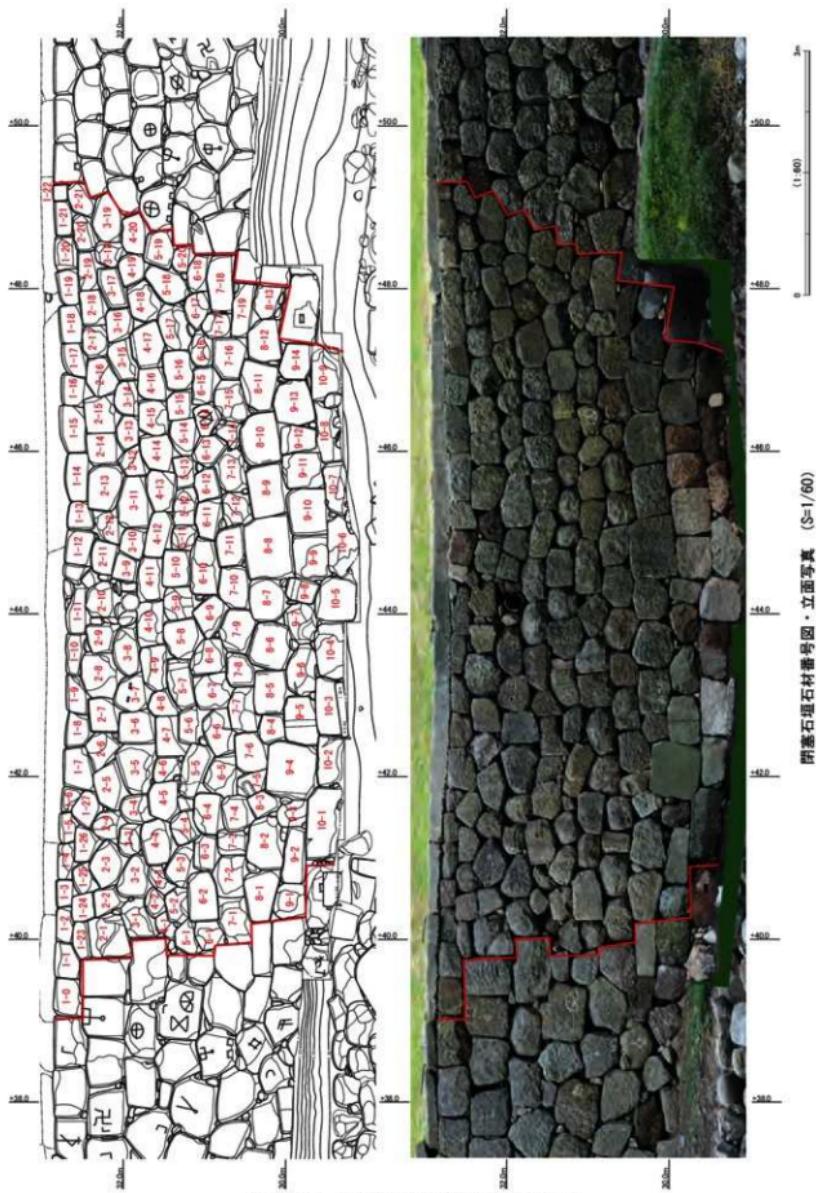
### 鼠多門・坂道周辺での石材再加工（第246～248図）

栗石で埋められた門背面の横断溝跡を中心とした、鼠多門・坂道周辺には、戸室石剥片や粉末、三角形矢穴痕が残る端材、集積された側壁石垣解体石材が濃密に分布していることから、当地点周辺で側壁石垣解体石材を再加工していたと推定される。それら再加工を示す石材等の直上が門・坂(明治)埋土で被覆されていることから、鼠多門・坂道周辺での石材再加工は、閉塞石垣構築直前まで行われていたと推定される。

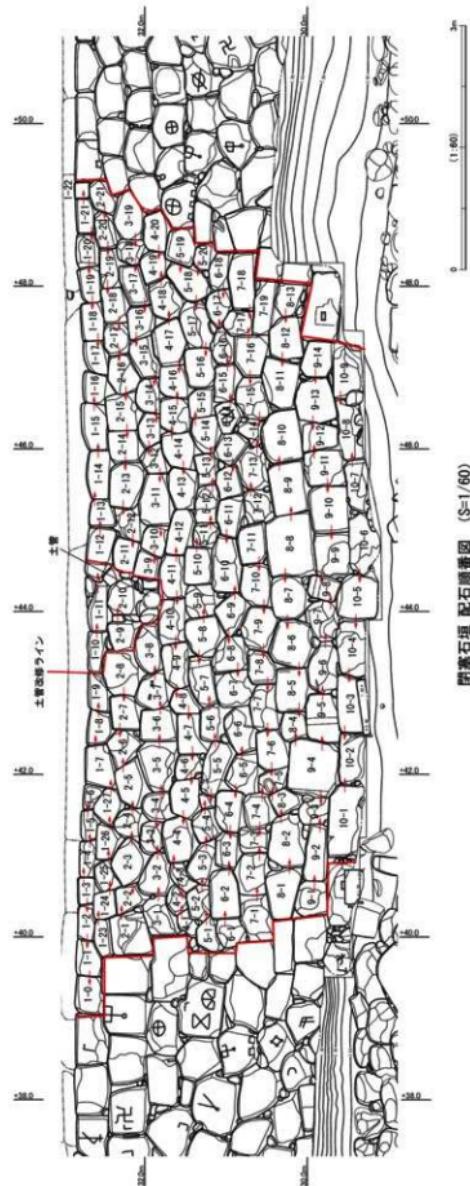
側壁石垣の配石概念図作成により、側壁石垣上部の解体された石材数は、約470石と想定される。その内、181石は閉塞石垣に転用されている。残り約290石は他所の石材として転用、もしくは放置・廃棄されたと推定される。坂道周辺では、延石に再加工した石材(石材6)、延石に再加工するための矢穴割付墨線が引かれた築石(石材95)等を確認しており、これらは他所で転用するための石材と推定される。また解体石材と残存石垣(遺構)との接合関係の確認により原位置復旧した石材(第4節参照)が、鼠多門直下の堀跡(石材49、53、54)や横断溝跡周辺の解体石材集積箇所(石材35)から出土しており、これらは放置・廃棄された石材と推定される。

墨書がある石材は、2-51、2-54(地覆石?)、10-3(角石を矢割りした閉塞石垣石材)、カ(築石を延石に再加工)、6(延石に再加工)、95(築石を矢割りするための割付線あり)、以上6石確認した。10-3「△」以外はすべて「傘」が墨書されている。石材10-3、6は三角形矢穴痕がある割面に墨書きされていることから、明治再加工時の墨書きと推定される。自然科学分析の結果、墨はアスファルトと同定された。なお石材6は、復元工事で、側壁石垣(南)第9段裏込め層の押え石として再利用した。

調査区内で確認した近代建物の礎石・根固め等に転用されている石材は、未決監で30石、元倉庫で8石確認している。それらの内、未決監礎石等に転用されている石材では、石材加工状況や被熱痕跡等から側壁石垣の切石材と推定される石材が9石確認され、それ以外に多くの粗加工石等が確認される。側壁石垣の根石以外で粗加工石が使用されるのは、側壁石垣(北)東面の敷石と想定されるので、粗加工石の多くは側壁石垣以外から搬入された石材と推定される。



第 233 図 閉塞石垣石材番号図・立面写真



第234図 閉塞石垣配石順番図・解体作業写真

閉塞石垣配石順番図 (S=1/60)



第8段 石材解体作業

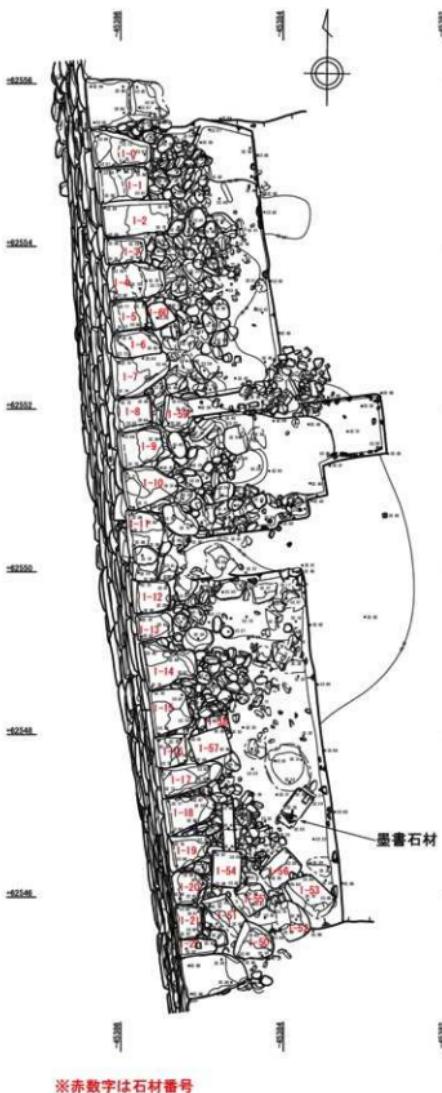


第8段 解体石材重量計測作業

第2段 基礎の裏込め石除去作業



閉塞石垣解体作業写真



閉塞石垣第1段 背面盛土掘削作業（北西から）



閉塞石垣第1段 解体前状況（北西から）

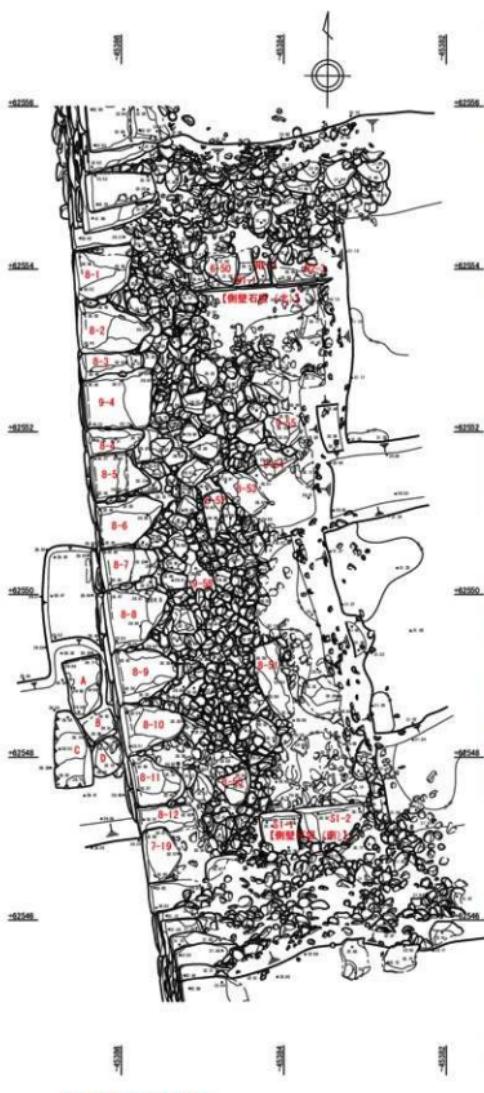


閉塞石垣第1段 解体前状況（南東から）



閉塞石垣第1段 背面盛土内墨書き石材検出状況（東から）

第235図 閉塞石垣第1段平面図・写真



第236図 閉塞石垣第8段平面図・写真



第2段 解体前状況 (南から)



第2段 解体前状況 (北から)



第2段裏込層 石材検出状況 (南西から)



第3段中央部 土管据付状況 (西から)



第3段 解体前状況 (南から)



第3段 解体前状況 (北から)



第4段 解体前状況 (南から)



第4段 解体前状況 (北東から)

第237図 閉塞石垣解体前状況写真1



第5段 解体前状況 (南東から)



第5段 解体前状況 (北から)



第6段 解体前状況 (南から)



第6段 解体前状況 (北から)



第7段 解体前状況 (南から)



第7段 解体前状況 (北から)



第9段 解体前状況 (南から)



第9段 解体前状況 (北から)

第238図 閉塞石垣解体前状況写真2



第10段 据付時掘方 挖削後状況 (南から)



第10段 解体前状況 (南東から)



第10段 解体前状況 (北東から)

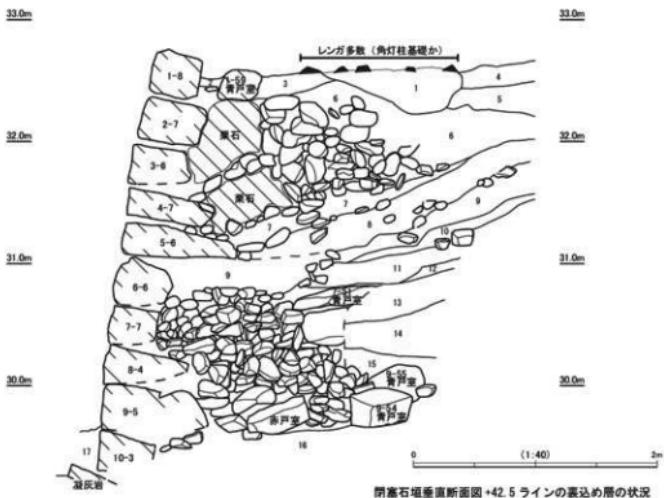


第10段 解体前状況 (北西から)

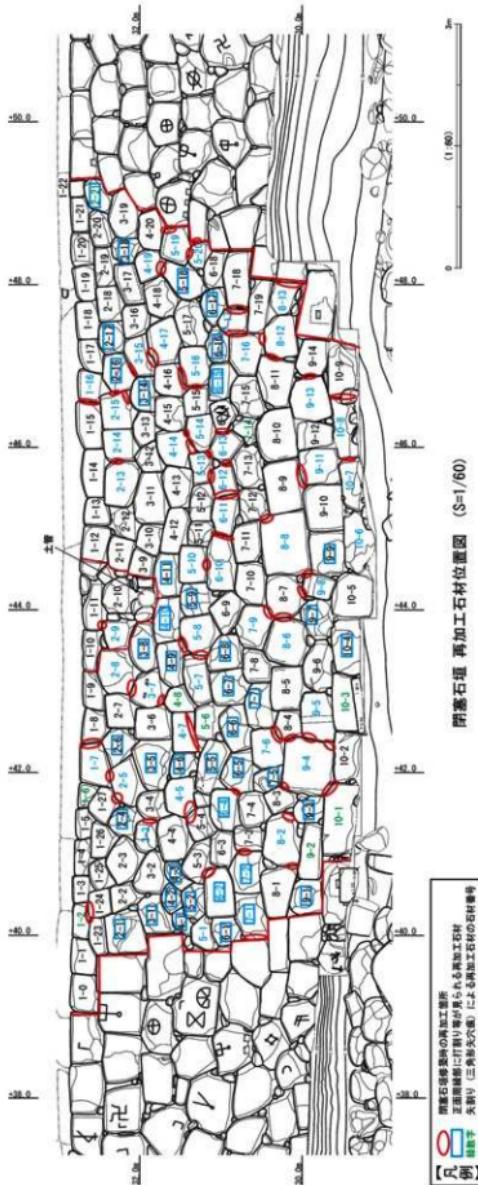


第10段 石材解体後状況 (北西から)

第239図 閉塞石垣解体前状況写真3



第240図 閉塞石垣裏込め層断面図・堆積状況写真



第241図 閉塞石垣再加工石材配置図・接合石材写真



接合する石材 (A類) 相立状況 (上面)



接合する石材 (A類) 相立状況 (正面・右面)



接合する石材 (A類) 相立状況 (正面)

閉塞石垣で使用されていた大型石材 (三角形矢穴で矢印)



2-5 解体前状況 (西から)



2-5上面 再加工状況



2-9 解体前状況 (西から)



2-9上面 再加工状況



2-13 解体前状況 (西から)



2-13右面 再加工状況



4-17 解体前状況 (西から)



4-17上面 再加工状況

第242図 閉塞石垣 再加工石材写真1



4-19 解体前状況 (西から)



4-19下面 再加工状況



5-7 解体前状況 (西から)



5-7右面 再加工状況



5-19 解体前状況 (西から)



5-19右面 再加工状況



5-20 解体前状況 (西から)



5-20右～上面 再加工状況

第243図 閉塞石垣 再加工石材写真2



7-6 解体前状況 (西から)



7-6下面 再加工状況



7-16, 7-17, 7-18 解体前状況 (西から)



7-17右面 再加工状況



7-17左面 再加工状況



4-10 解体前状況 (西から)



8-6 解体前状況 (西から)



8-6右面 再加工状況

第244図 閉塞石垣 再加工石材写真3



8-8 解体前状況 (西から)



9-4 解体前状況 (西から)



9-4左面 再加工状況



9-5 解体前状況 (西から)



9-5左面 再加工状況

第 245 図 閉塞石垣 再加工石材写真4



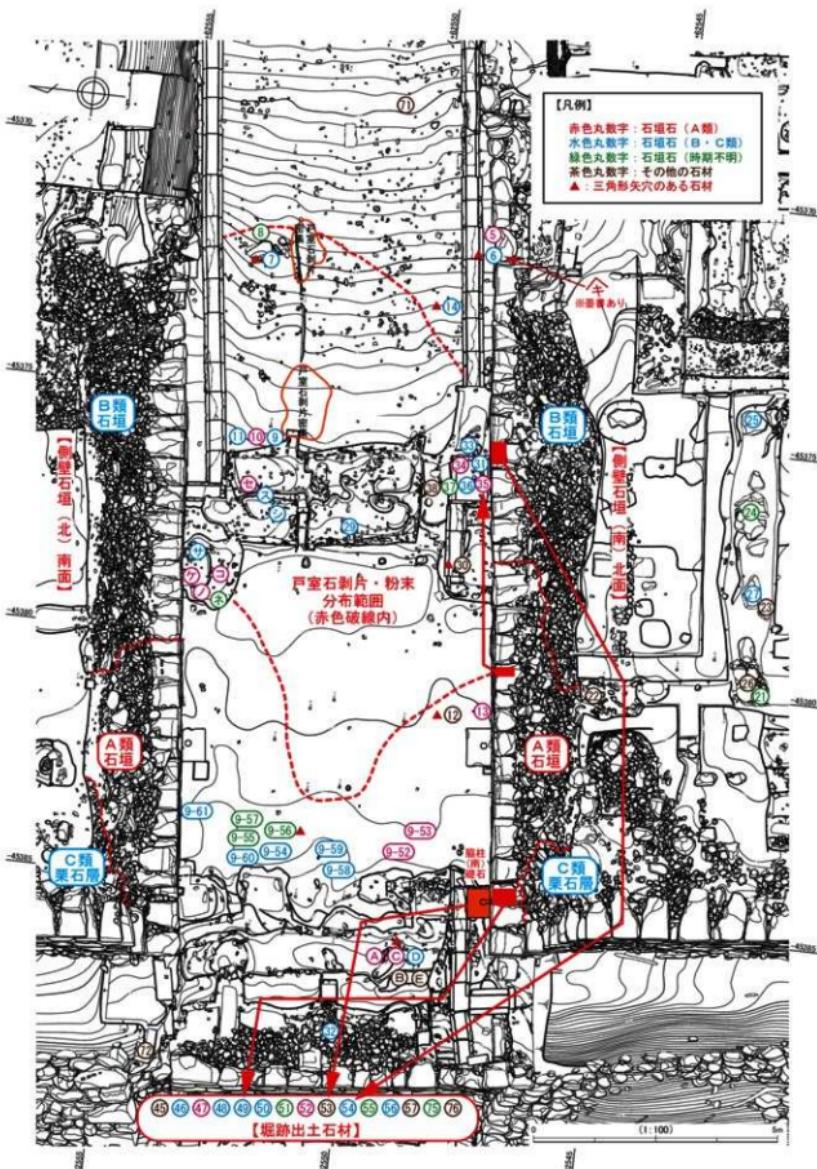
第246図 近代遺構に転用された石材位置図

【凡例】※石材番号は、石材一覧表と一致する。

|       |            |
|-------|------------|
| 赤色丸数字 | 石目石 (A種)   |
| 水色丸数字 | 石目石 (B・C種) |
| 緑色丸数字 | 石目石 (焼附不規) |
| 青色丸数字 | その他の石材     |
| △     | 三角形矢印のもの石材 |

近代遺構に転用された石材位置図 (S=1/150)

| 【未決監の石材 - 根固めに転用されていた石材について】      |          |
|-----------------------------------|----------|
| 以下の石材は、各々上下に積まれていた。(若い歴史が上に位置する)。 |          |
| 15・65                             | 16・66・67 |
| 18・68・69                          | 19・20・70 |
| 21・26                             | 23・27    |
| 43・60                             | 44・61    |



第247図 門部周辺戸室石再加工石材分布図



臨柱（北）礎石（石材53）出土状況（縦跡から）



石材6（墨書あり）出土状況（北から）



石材35・36出土状況（北から）



側壁石垣石材再加工業 推定範囲全景（北西から）



横断溝周辺 戸室石剥片・粉末検出状況（南東から）



三角形矢穴痕跡が残る端材出土状況（南から）



石材95上面に残る墨書・矢穴割付線



石材95に残る三角形矢穴痕

第248図 側壁石垣旧石材出土状況、再加工状況

第24表 閉塞石垣 再加工石材一覧表

| No.     | 石材 | 解体<br>部材数 | 部材名 | 石加工     | 岩石種 | 石表面        | 配石頭位置 | 再加工面     | 再加工方法   | 再加工状況   |
|---------|----|-----------|-----|---------|-----|------------|-------|----------|---|---|
| 1-1~2   | 1  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  |            |       | 上面、下面    | 尖削り、削り  | 1-2・1-4・1-60 (削治再加工前)は1つの石材。大型石材を適度な大きさに分割して使用。(1-60は閉塞石垣第1段の複合面) |
| 2-1~6   | 1  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  |            |       | 下面       | 尖削り   | 1-2・1-6・1-60 (削治再加工前)は1つの石材。大型石材を適度な大きさに分割して使用。(1-60は閉塞石垣第1段の複合面) |
| 3-1~7   | 1  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (南) 北面第9段  | 左面    | 打削り?     | 左隣の「6右面」との合端調整。   |   |
| 4-1~16  | 1  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 左面    | 打削り?     | 1-15・1-17間(落とし込むため)左面全面を打削り(三角形欠陥削除付き?)。                              |   |
| 5-2~2   | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類? |            | 正面    | 打削り?     | 2-1正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 6-2~4   | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 正面    | 打削り?     | 2-4正面周縁部を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 7-2~5   | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  | (北) 南面第5段  | 上面    | /ミ       | 右上:1-2、左上:1-2との合端調整のため、小突起を除去。  |   |
| 8-2~6   | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(中間) | A類? |            | 正面    | 打削り?     | 2-6正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 9-2~8   | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (南) 北面第10段 | 下面    | 打削り?     | 左下:3-7上面との合端調整。   |   |
| 10-2~9  | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (北) 北面第10段 | 上面    | /ミ       | 右上:1-1との合端調整。   |   |
| 11-2~12 | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (北) 南面第6段  | 右面    | 削り       | 2-13右隣の「右隣:2-14正面」との合端調整。   |   |
| 12-2~14 | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (南) 北面第10段 | 上面~左面 | 削り       | 右隣の「2-13右隣:2-14正面」との合端調整。   |   |
| 13-2~15 | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (北) 南面第5段  | 右面~下面 | 削り       | 右隣:2-16、右下:3-14との合端調整。  |   |
| 14-2~16 | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 正面    | 打削り?     | 2-16正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。その後「1-8」との合端調整。                          |   |
| 15-2~17 | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | ?   |            | 正面    | 打削り?     | 2-17正面の全面を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 16-2~21 | 2  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 正面、下面 | 尖削り、打削り? | 下面は適度な大きさにするために尖削り(二角形欠陥あり)。正面は全面を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。その後「1-8」との合端調整。 |   |
| 17-3~1  | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類? |            | 正面    | 打削り?     | 3-1正面周縁部を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 18-3~3  | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  |            | 正面、右面 | 打削り?     | 3-3正面周縁部を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。右隣:2-3との合端調整。                            |   |
| 19-3~3  | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(中間) | B類? |            | 正面    | 打削り?     | 3-5正面の右隣全面を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。その後「1-8」との合端調整。                        |   |
| 20-3~7  | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (北) 南面第8段  | 上面、左面 | 削り       | 上の2ミ、左下:4との合端調整。  |   |
| 21-3~6  | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 正面    | 打削り?     | 3-6正面周縁部を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 22-3~14 | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類? |            | 正面    | 打削り?     | 3-14正面のほぼ全面を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。                                      |   |
| 23-3~15 | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  | (北) 南面第6段  | 上面    | 打削り?     | 左上:2-16との合端調整。  |   |
| 24-3~18 | 3  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類? |            | 正面    | 打削り?     | 3-18正面周縁部を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 25-4~1  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | ?   |            | 正面    | 打削り?     | 4-1正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 26-4~2  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類? |            | 正面    | 打削り?     | 4-2正面の広範囲を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 27-4~3  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類? |            | 正面    | 打削り?     | 3-3正面のほぼ全面を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。                                       |   |
| 28-4~5  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(中間) | B類  | (北) 南面第7段  | 左~下面  | 削り       | 4-5正面左端点と左下:5~4との合端調整。  |   |
| 29-4~6  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  | (北) 南面第9段  | 正面    | 打削り?     | 4-6正面下端点を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 30-4~7  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 下面    | 打削り?     | 下の5~6との合端調整で大きくなっている(穴欠陥なし)。  |   |
| 31-4~8  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類? |            | 下面    | 尖削り?     | 適度な大きさにするために尖削り(三角形穴欠陥あり)。  |   |
| 32-4~9  | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  |            | 正面    | 打削り?     | 4-9正面上端点を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 33-4~10 | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  | (北) 南面第5段  | 正面    | 打削り?     | 4-10正面周縁部を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 34-4~11 | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | ?   |            | 正面    | 打削り?     | 4-11正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。その後「1-8」との合端調整。                          |   |
| 35-4~14 | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 上面~左面 | 削り       | 右下:5~14正面との合端調整。  |   |
| 36-4~17 | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 上面    | 打削り?     | 上の3-15正面との合端調整。   |   |
| 37-4~19 | 4  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  | (北) 南面第7段  | 左~下面  | 打削り?     | 左下:5~18正面との合端調整。  |   |
| 38-5~1  | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 下面    | 尖削り?     | 適度な大きさにするために尖削り(三角形穴欠陥あり)。  |   |
| 39-5~2  | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(中間) | A類? |            | 正面    | 打削り?     | 5-2正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 40-5~4  | 6  | 繩石        | 切石  | 戸室石(中間) | A類  |            | 正面    | 打削り?     | 5-4正面左半分を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 41-5~5  | 7  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  | (北) 北面第6段  | 正面    | 打削り?     | 5-5正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 42-5~6  | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 下面    | 尖削り?     | 適度な大きさにするために尖削り(三角形穴欠陥あり)。  |   |
| 43-5~7  | 5  | 大塊石       | 切石  | 戸室石(青)  | C類  | (北) 南面第11段 | 右面    | 削り       | 右隣:5左端と5-7右隣(江戸側:左端)との合端調整。   |   |
| 44-5~8  | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(中間) | B類  | (北) 北面第4段  | 上~左面  | 削り       | 左上:4正面下端との合端調整。   |   |
| 45-5~9  | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | ?   |            | 正面    | 打削り?     | 5-9正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。  |   |
| 46-5~10 | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 下面    | 削り       | 5-10正面下端点と下の6~10との合端調整。   |   |
| 47-5~11 | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | ?   |            | 正面    | 打削り?     | 5-11正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 48-5~12 | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(中間) | ?   |            | 正面    | 打削り?     | 5-12正面全体を打削り(機械による亀裂範囲を予め除去)。   |   |
| 49-5~13 | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | B類  |            | 下面    | 削り       | 5-13右下端点と6-13左上との合端調整。  |   |
| 50-5~14 | 5  | 繩石        | 切石  | 戸室石(青)  | A類  | (南) 北面第9段  | 上~左面  | 削り       | 5-14左上端点と左上:4~14正面との合端調整。   |   |

第25表 閉塞石垣 再加工石材一覧表

| No. | 石材番号 | 形状 | 部材名 | 再加工 | 岩石種     | 石垣時期 | 割石位置      | 再加工面    | 再加工方法  | 再加工状況   |
|-----|------|----|-----|-----|---------|------|-----------|---------|--------|---|
| 51  | 5-16 | 5  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類   | (南) 北面第8段 | 上～右面    | 削り     | 9-16を上・頂点と左上～4-16下面との合端調整。                        |
| 52  | 5-18 | 5  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | B類   | (南) 北面第1段 | 正面      | 打削り?   | 5-18正面下半端面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                  |
| 53  | 5-19 | 5  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | B類   | (北) 南面第1段 | 右面      | 削り     | 5-19右上と右隣の右斜との合端調整。                               |
| 54  | 5-29 | 5  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類   | (南) 北面第1段 | 正面～右面   | 削り     | 5-29正面と右隣の右斜との合端調整。                               |
| 55  | 6-1  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | ?    |           | 正面      | 打削り?   | 6-1正面と右隣の正面との合端調整。                                |
| 56  | 6-2  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類   | (北) 南面第7段 | 正面、右面   | 削り     | 6-2右下点と左上点と下端との合端調整。正面上面半端面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。 |
| 57  | 6-3  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 6-3正面と右隣の正面との合端調整。                                |
| 58  | 6-4  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | B類   | (南) 北面第4段 | 正面、右面   | 打削り?   | 6-4右下点と左上点と下端との合端調整。正面上面半端面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。 |
| 59  | 6-5  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 6-5正面周縁部を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                    |
| 60  | 6-6  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | ?    |           | 正面      | 打削り?   | 6-6正面周縁部を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                    |
| 61  | 6-7  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 6-7正面周縁部を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                    |
| 62  | 6-8  | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 6-8正面周縁部を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                    |
| 63  | 6-10 | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | A類   | (南) 北面第8段 | 右面      | 削り     | 6-10右面(江戸期の正面)と右-11左面との合端調整。                      |
| 64  | 6-11 | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | A類   | (南) 北面第5段 | 右面      | 削り     | 江戸期は各1正面と、6-12は左面で合端し、一つの右材、戸室石が周縁部に付けて分離して使用。    |
| 65  | 6-12 | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | A類   | (南) 北面第5段 | 上面      | 削り     | 右-5～12下端(左下端)との合端調整。                              |
| 66  | 6-13 | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類   | (北) 南面第6段 | 正面、右面   | 削り     | 6-13右下端と右隣6-14正面と、6-13左下端と左隣6-12右面との合端調整。         |
| 67  | 6-15 | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | A類   | (南) 北面第8段 | 正面、右面   | 打削り    | 6-15右面と右隣6-16正面との合端調整。正面は打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。    |
| 68  | 6-36 | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 6-16正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                      |
| 69  | 6-17 | 6  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 6-17正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                      |
| 70  | 7-1  | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | B類   |           | 正面、左面   | 打削り    | 7-1正面を右隣石との合端調整。正面は打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。          |
| 71  | 7-2  | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類?  |           | 正面、右面   | 打削り?   | 7-2右面点と隣7-3左端との合端調整。正面は打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。      |
| 72  | 7-5  | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | ?    |           | 正面      | 打削り?   | 7-5正面と7-3の合端調整。                                   |
| 73  | 7-6  | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | B類   | (南) 北面第1段 | 下面      | 削り     | 7-6下面点と右-4～7の合端調整。                                |
| 74  | 7-7  | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | B類?  |           | 正面      | 打削り?   | 7-7正面全体を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。その後削り／ミ加え。           |
| 75  | 7-9  | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | ?    |           | 下面      | 削り     | 7-9下面点と右下端との合端調整。                                 |
| 76  | 7-12 | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | B類?  |           | 正面      | 打削り?   | 7-12正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                      |
| 77  | 7-13 | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 7-13正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                      |
| 78  | 7-14 | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | B類?  |           | 上面      | 欠削り    | 幅度な大きさに寸法するために欠削り(三角形矢穴版あり)。                      |
| 79  | 7-16 | 7  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | B類   |           | 正面～下端   | 削り     | 7-16右上と右隣の右下との合端調整。                               |
| 80  | 7-17 | 7  | 端石  | 切石? | 戸室石(青)  | ?    |           | 右面、左面   | 打削り    | 転用合わせで入れられた石材。右左側面側と再加工されている。                     |
| 81  | 8-2  | 8  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | B類   | (北) 南面第5段 | 右面、左隣は? | 打削り    | 8-2左隣は8-1右端、8-2右面と8-3左面との合端調整。                    |
| 82  | 8-6  | 8  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | B類   | (北) 南面第7段 | 右面      | 削りの跡?  | 右隣8-7との合端調整。                                      |
| 83  | 8-8  | 8  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | B類   | (北) 南面第3段 | 右面      | 打削り    | 右上-7-12との合端調整。                                    |
| 84  | 8-12 | 8  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | C類   | (北) 南面第9段 | 左～右面    | 削り     | 8-12左上と右隣の右11との合端調整。                              |
| 85  | 8-13 | 8  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | ?    |           | 右面      | 削り     | 8-13右面(江戸期の正面)と右隣石材との合端調整で、全面削り。                  |
| 86  | 9-1  | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | ?    |           | 正面      | 打削り?   | 9-1正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                       |
| 87  | 9-2  | 9  | 角石  | 切石  | 戸室石(青)  | C類   |           | 上面      | 欠削り    | 幅度な大きさに寸法するために欠削り(二角形矢穴版あり)。                      |
| 88  | 9-3  | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | ?    |           | 正面      | 打削り?   | 9-3正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                       |
| 89  | 9-4  | 9  | 角石  | 切石  | 戸室石(青)  | A類   | (北) 南面第4段 | 右面      | 削り     | 左上-8-3、右上-8-4、左下-10-1、右下-10-2との合端調整。              |
| 90  | 9-5  | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | C類   | (南) 北面第7段 | 左面      | 削り     | 9-5左面(江戸期右面)と左隣9-4右面との合端調整。                       |
| 91  | 9-6  | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | A類   |           | 正面～左面   | ノミ     | 幅度な大きさに寸法するために削削削り(二角形矢穴版なし)。                     |
| 92  | 9-7  | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | ?    |           | 正面      | 打削り?   | 9-7正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                       |
| 93  | 9-8  | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | C類   | (北) 南面第7段 | 右面、左面   | 削り     | 左上-8-7、右上-8-9との合端調整。                              |
| 94  | 9-9  | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(青)  | A類?  |           | 正面      | 打削り?   | 9-9正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                       |
| 95  | 9-11 | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | B類   | (北) 南面第4段 | 正面、左面   | 打削り    | 9-11左上と右隣の右9との合端調整。                               |
| 96  | 9-13 | 9  | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | B類   | (北) 南面第7段 | 正面～右面   | 打削り    | 9-13右面と9-14左面との合端調整。                              |
| 97  | 10-1 | 10 | 角石  | 切石  | 戸室石(青)  | C類   |           | 右面、後面   | 削り、欠削り | 右面は9-4との合端調整で削り。後面は幅度な大きさに寸法するために欠削り(二角形矢穴版あり)。   |
| 98  | 10-3 | 10 | 角石  | 切石  | 戸室石(赤)  | C類   |           | 右面、下面   | 欠削り    | 前面な大きさに寸法するために削削削り(正面江戸期右面)、右隣に二角形矢穴版あり。          |
| 99  | 10-4 | 10 | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | A類   |           | 正面      | 打削り    | 10-4正面を打削り(焼損による亀裂範囲を予め除去か)。                      |
| 100 | 10-6 | 10 | 端石  | 切石? | 戸室石(青)  | B類?  |           | 下面      | 削り     | 幅度な大きさに寸法するために削り(二角形矢穴版なし)。                       |
| 101 | 10-7 | 10 | 端石  | 切石  | 戸室石(赤)  | B類   |           | 右面      | 削り     | 10-7右面(江戸期は正面)と右隣の10-9との合端調整。                     |
| 102 | 10-8 | 10 | 端石  | 切石  | 戸室石(中間) | ?    |           | 右面      | 削り     | 転用合わせで入れられた石材。10-8右面(江戸期は正面)と右隣の10-9との合端調整。       |

※1 再加工方法について 「「削り」…ゲンゾウウで「矢」を打ち込むことにより石を削る方法(穴尖端が確認できる)。

「「打削り」…ゲンゾウウで直接面に打つる方法(打点が確認できる)。

「「ノミ」…ノミ等の鋸状工具で石をつる方法(ノミ端が確認できる)。

「「欠り」…一般用工具を割りきれないが、人為的に石が割られているもの。

※2 「割石位置」が空巣の石材は、鋼製石斧復元工事で再利用しなかった石材。

※3 「閉塞石粗裏込み巣出の欠削り」(三角形矢穴版あり)、石材は本表の対象外である。

## 2. 金沢陸軍監獄署

### (1) 概要

金沢城跡は、明治6年(1873)に兵部省(陸軍省)の管轄となり、歩兵第七連隊が置かれているが、当時玉泉院丸が旧陸軍によってどのような使われ方をしたのかについては良く分からぬ。明治15年11月には金沢陸軍監獄署が玉泉院丸の地に落成し、以降、監獄署として使われることとなる。

監獄署になるまで、そしてその後の様子を知ることのできる文書が、防衛研究所戦史研究センターが保管する資料の中に若干ではあるが残されている。それらの文書から金沢陸軍監獄署の変遷を追ってみたい。以下の旧陸軍に関する事実については、特に断りのないものについては、防衛研究所戦史研究センター保管の陸軍省の文書から得たことによる。

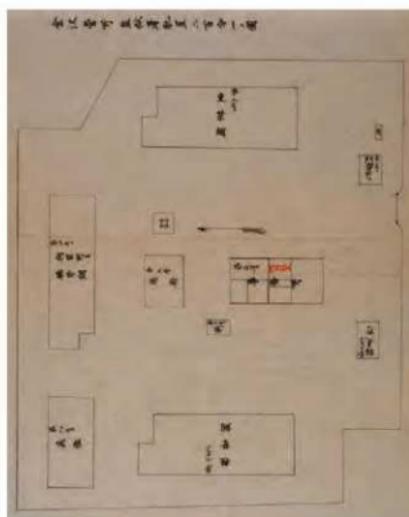
鼠多門の南北にあった土蔵については、修理を加えながら旧陸軍によって被服庫として使用されていたことが明治10年の文書から見て取れる。文書には鼠多被服庫の名称で出てくることから、鼠多門を指している可能性もあるが、その文書には屋根を「杉柿葺」と書いている。鼠多門には鉛瓦が葺かれていたことは、明治初年の写真や石垣等に溶けた鉛が付着し、それは明治17年の焼失に伴うものと考えられるため、土蔵のことを指していると判断した。同年には鼠多門橋が朽ちるがままになっており、撤去されている(森田平次(日置謙校訂)1976『金澤古蹟志(上)』)。これについては、使えなくなったから撤去されたのではなく、明治11年には明治天皇の北陸地方への行幸があり、警備上の観点から撤去された可能性もあるのではないかと考えられる。

明治13年には、西南戦争戦没者の慰靈のために建立された、兼六園にある明治紀念之標のために、金沢城内にある建築用途に適さない石材を下げ渡す旨の文書が見られる。明治紀念之標には庭園に使用される景石が多数あることから、玉泉院丸庭園にあった景石等を運び出したとされており、すでに鼠多門橋は撤去されていることから、石川門側から兼六園に持ち込まれた可能性が高い。

屋根の修繕をした土蔵も、明治15年にはついに撤去されている。度重なる修理を行っても旧陸軍が使用するには難しかったようである。その後、監獄署の建物が建てられることとなるが、その敷地がどこまでであったのかは良く分からぬ。

第249図は、明治16年の事務所に取り付ける棚についての文書に付属する図面となるが、右下のコーナー部が鼠多門の北東隅を示していると考えられる。そこから上方、東の方へ線が描かれ、途中に門のような表現がある。その位置はおそらく坂道の始まる箇所と考えて良いと思われる。監獄署が出来たころにはまだ、坂道は機能していたか少なくとも埋立てられてはいなかったことが分かる。この図面は、玉泉院丸の北部でもさらに北半の状況であるが、北部の南半、鼠多門への坂道より南側に建物が建てられていないかどうかについては、この図面からは分からない。

明治17年の鼠多門が焼失する前には、監獄署の敷地が狭隘のため一段低い箇所を盛土したが、そ



第249図 「金沢営所監獄署二百分の位置図」『金沢営所監獄署事務所内倉庫ニ棚取設之儀ニ付同(陸軍省大日記)』(防衛研究所戦史研究センター蔵)

の箇所が窪地となったことから地形を修繕したいとの文書が見られる。この一段低い箇所とは番所階段部分である可能性もあろうと考えている。

鼠多門は、倉庫兼囚徒の作業場として使用されていた。焼失後、その代替として鼠多門の北東隅に重なるように倉庫が明治18年に建てられている。また、焼失したことにより外部との障壁がなくなってしまったことから、鼠多門の開口部に柵を作りたい旨の文書が見られるが、実際に造られたかどうかは不明である。調査でもそのような明確な遺構は検出できていない。結果として閉塞石垣が積まれている。

鼠多門の跡地とそこから東に延びる坂道については埋め立てられたものと考えられるが、金沢陸軍監獄署は明治22年に名古屋鎮台に一度吸収され廃止されている。その後、明治31年に第九師団が創設され金沢城に司令部が置かれると、再び金沢陸軍監獄署が玉泉院丸に新たに新設されている。大正12年には衛戍拘禁所が師団司令部内に移転することから、監獄署は廃されたと見られる。

第250図は明治39年の図面となり、玉泉院丸庭園の池泉が右上部に表現されている。それ以外の玉泉院丸の大半は金沢陸軍監獄署の敷地として描かれている。監獄署の敷地は、さらに図面の左の方に坂道が描かれるが、明治31年に鼠多門が埋め立てられるというが、それは鼠多門の前面のいもり堀ではなく、北側の方、現在の丸の内園地側にある堀が埋め立てられ、坂道が出来そこから現在の丸の内園地のほうにつながっており、そこに表門等が存在していた。

さて、ここで報告する遺構は、明治15～22年を仮に第1期監獄署とすると、明治31年に新設され大正12年まで存続していたものは第2期監獄署となる。第2期監獄署は、玉泉院丸の池泉があつた箇所を除き全体に広がり、北側には現在の丸の内園地に降りる坂道が設けられ、その先に表門が設けられている。後述するレンガ基礎の建物については、第2期の建物ということになる。

## (2) 元倉庫・馬糧庫

元倉庫は、鼠多門焼失後の明治18年に建てられた建物で、倉庫として使用されていた鼠多門の機能を代替するものであった。その後、大正12年には、第九師団司令部の所有となり、大正13年から馬糧庫として使用され、戦後に撤去されている。

馬糧庫の遺構については、手掘りにより調査を始めた際に検出した遺構であり、コンクリート等を確認した後、重機掘削により周囲の公園整備に伴う盛土等を除去した。東西に長い建物で、その規模は外



第250図 「金沢衛戍監獄署配置図」(部分)『建物模様替ノ件(陸軍省肆大日記)』(防衛研究所戦史研究センター蔵)

郭で5.9m×9.6mを測り、礎石の芯まで測ると5.44m×9.12mとなり、ちょうど3×5間の建物となる。床面は、すべて残っているわけではなかったが、西側から2.7mのところに南北の仕切りがあり、それより西側はアスファルトの床面、東側はコンクリートの床面となっていた。

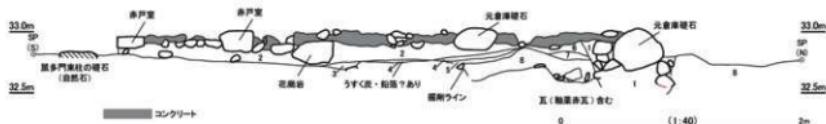
建物の周囲を排水溝が取り囲んでおり、その排水溝の構造は、底面にコンクリートを薄く流し、両側には方形の凝灰岩を置くという構造となっていた。吐水口は西面石垣の部分で2箇所作られており、南側の部分は天端石を半円形に削り込んでいる。北側は天端石を削り込むことはなく、コンクリートが天端石の上にも及んでいた。これは、天端石が鼠多門の建っていた部分は高く、それよりも北側は一段低くなっていることによるものと見られる。凝灰岩のほとんどは取り去られていたが、西面石垣にわずか



第251図 馬糧庫平面図



B2 元倉庫平面図 (S=1/80)



- 1 10YR 4/1 薄灰色土 (元倉庫北側帯脛方)
- 2 10YR 4/1 黒褐色土 (にじみ、黄褐色 (10YR 7/4)、2 ~ 3mm 大の小ブロック含む。)  
黒褐色 (10YR 2/1) 2 ~ 3mm 大の小ブロック含む。)
- 3 10YR 3/1 黑褐色土 (灰岩含)
- 4 10YR 4/3 にじみ、黄褐色土 (船白?)を塊状に含む。炭粒含む。)
- 5 10YR 4/3 にじみ、黄褐色土 (シルト質)
- 6 10YR 4/1 薄灰色土 (にじみ、黄褐色 (10YR 7/4) 2 ~ 3mm の小ブロック含む。)  
黒褐色ブロック (10YR 2/1) (2 ~ 3mm の小ブロック含む)
- 7 10YR 5/3 にじみ、黄褐色土 (シルト質、いし込瓦含む)
- 8 10YR 4/2 深黄褐色土 (K(軒裏赤瓦) 含む)  
【1 ~ 4 ~ 6 層は明治 17 年の黒多門焼失以降の堆積。5 ~ 7 + 8 層は明治 17 年黒多門焼失前の堆積と考えられる。】

B2 元倉庫土層断面図 (S=1/40)

第 252 図 元倉庫平面図・土層断面図



金沢陸軍監獄署の遺構検出状況（北東から）



馬糧庫検出状況（東から）

第 253 図 馬糧庫・元倉庫写真 1



元倉庫礎石検出状況（東から）



元倉庫土層断面（東から）



馬糧庫・元倉庫東辺凝灰岩製側溝（南から）

第254図 馬糧庫・元倉庫写真2



第255図 接見所・監獄署柵平面図



金沢陸軍監獄署 接見所及び元倉庫（馬檻庫）検出状況（南から）



金沢陸軍監獄署 檻基礎検出状況（南東から）

第 256 図 接見所検出状況等写真

に残っており、状態の良いものを測ると長さ約90cmで、幅約20cm厚さ15cm程度の緑色の凝灰岩でおそらく笏谷石と見られる。コンクリートについては、砂利の混ぜ方が少なく、モルタルに近い印象である。

東辺については、排水溝の底も凝灰岩で作られており、石組溝となっている。側石に使用されている石材の形状は西面石垣に残されていたものとよく似ている。幅は約15cmで長さは長いもので約90cmで、厚さは約10cmの方形である。底石として使用されている凝灰岩は幅約35cm、長いものは約80cmの長さがある。また、若干中央がくぼんで皿状になっている。石組側溝専用として作られたものではなく、転用材ではないかと考えられる。途中で馬櫛庫に関連する石材が、この石組側溝の一部を壊していることから、倉庫が建てられる以前から存在していた可能性もある。

この石組側溝は、第252図にみるように倉庫の範囲を越えてさらに北側に延びている。この部分については、黄灰色の粘性シルトで埋められており、明治15年の監獄署落成に伴う整地土ではないかと考えているものに近く、この排水溝が西面の石垣の方位とずれている。倉庫と同時に作られたのではなく、元々石組溝が存在し、結果として倉庫についても方位がずれたのではないかと考えているが、石組溝がそもそも何のためのものかは分からぬ。スロイスの邸宅があった時の遺構の可能性もある。

コンクリート床を剥がしたその下は、大振りの礫、丸い川原石を敷き詰めた状態となっていた。この厚い礫層は、アスファルトの床下よりもコンクリートの床下の方に多かったと思われる。これらアスファルトとコンクリートの床が建築当初からのものかどうかは不明であるが、礫層を取り去ると、明治18年に建てられた倉庫の基盤となつた層が検出できた。側柱の建物であり、礎石は東西に6石、南北に4石検出しその間を礫層で埋めていた。

#### (3) 接見所・柵

接見所とは、身柄を拘束されている被疑者や被告人が、家族や知人、または弁護士などの外部の人と面会する建物になる。

検出した接見所は、第2期監獄署になって新たに建てられたものと考えられる。第1期監獄署では、第249図のように接見所は東西棟で鼠多門への通路部の北側邊にある。第2期監獄署は、第250図のようになに鼠多門があつた箇所で、元倉庫の南辺に接している。検出した石列の外郭で3.4m×5mを測る。西側の1辺は失われている。その石列の中には、礎石になるような規模の石は確認できず、その石列自体も掘り込みをもつて埋められているようなものではなく、検出面に張り付いたような状態である。石列の幅は約50cmを測る。おそらくその石列の上に木の土台が置かれていたものと考えられる。

柵は、西面の石垣天端石の上に方形のコンクリートの基礎が、調査範囲内すべてに載せられていた。玉泉院丸北西柵石台石垣のところで、入口が確認できている(第273図)。柵の控えとして約2.5m間隔で長さ約1.6mのコンクリートが並んでいる。柵が建っていた箇所にはところどころ鉄筋が現れていたが、コンクリートの中全体に鉄筋が入っているものではない。

#### (4) 未決檻

未決檻とは、裁判で有罪か無罪かが確定しないものが留置される拘置所ということになる。

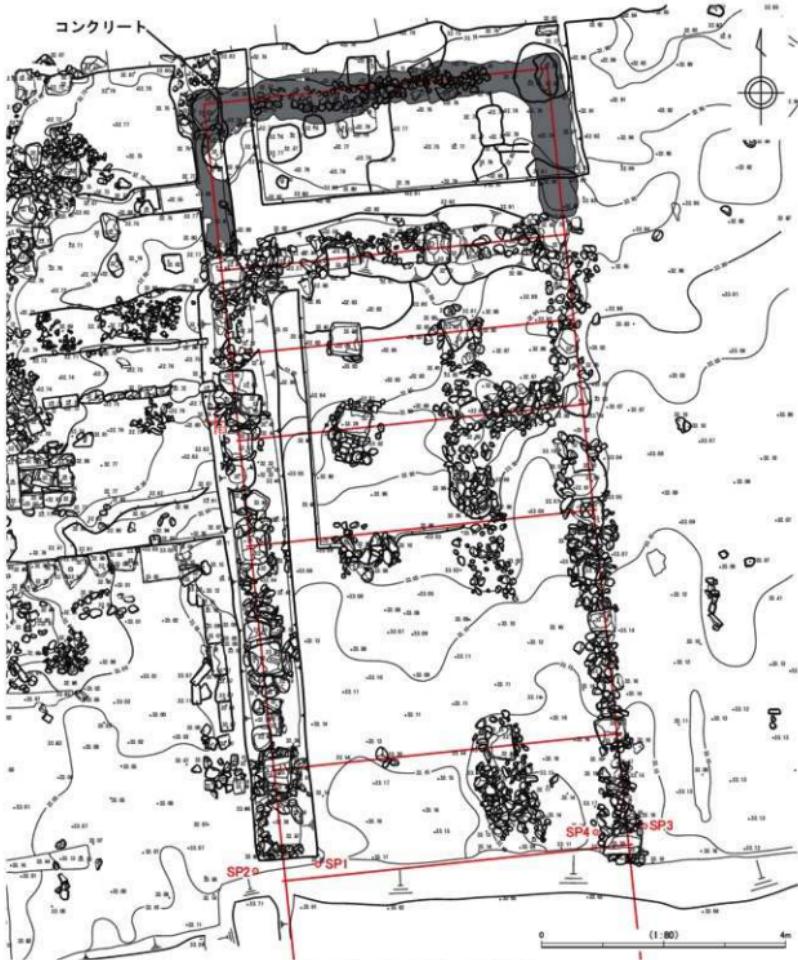
未決檻と見られる遺構は、鼠多門の通路部よりも南側で検出された(第257図)。その規模は、外郭で東西6m、南北は13.5m以上で、北端についてはコンクリート基礎を用いて拡張しているものと見られる。南側については調査区外にさらに延びているので不明である。

コンクリート基礎については、当初はおそらく存在せず、第九師団が入ってきて新たに監獄署が新設される際に拡張され作られたものと推定する。その部分の規模は6m×2.8mで、鉄筋は入っておらず、調査時には人力で破碎することができた。そのコンクリートを取り除くとその下から礎石が北東と北西隅に確認できた。また、その礎石の間には石列を確認している。礎石については、拡張する際に当初は礎石で建物を拡張しようとしたが、埋め立てた箇所に近く、沈んだことから、コンクリートをもって安定化を図つたものではないかとも考えられる。礎石と礎石の間の石列については、当初は側壁石垣の

栗石が見えているものとも考えたが、コンクリート基礎の基礎石といった性格かもしれない。

座標北を基準とすると、5.4度西偏する。未決檻の掘方は布堀となっており、柱が立つ部分には礎石を設置してある。礎石と根固めを外していくと、最も底面には自然石の戸室石を置いてある箇所があり、精査をしてみたが、近代になって入れられたとは考えにくいものも数基確認できた。今回報告はしていないが、下層造構に伴う可能性もある。

礎石を検出した部分は東西3間×南北6間以上となっており、江戸期の土蔵と重なっている部分もあることから、調査当初は土蔵の基礎の一部をそのまま使用していることも想定したが、側壁石垣の石材を転用したものもあり、鼠多門焼失後に新設されたことは、明らかである。



第257図 未決檻礎石等平面図



金沢陸軍監獄署の遺構（南から）



金沢陸軍監獄署 未決檻等写真

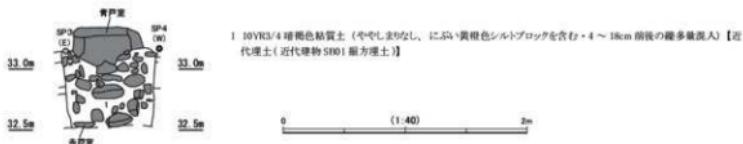
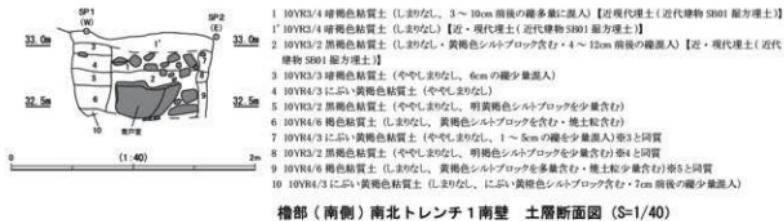
第 258 図 未決檻等写真

かつての南西石垣の調査の際にも、土蔵の基礎を確認しており、その時の調査状況を考えると、土蔵基礎を使用している可能性は低いものと見られる。

礎石の並びを赤線で示したが、途中で1間分空いているのが分かる。そして東側から石列が「L」字状に伸びてきている。反対側も同じように伸びてきているので、上部の構造を示しているものと考えられ入口部分の可能性もあるが、類例等、今後の課題としたい。

南端の状況を示す土層断面図(第259図)である。明治10年に二ノ丸に建てられた倉庫の仕様書が残っているが、それによると幅1尺で2尺を掘りたて8寸の石を6尺間隔で置いて、間を鉛で突き固めるとある。それと比較すると、幅が約80cmで深さ60cmを測り、礎石との間には10cmから20cm程度の礎が、土と混ぜて入れられている。

未決監について、鼠多門との切り合いから明治17年以降に建てられたことは間違いがなく、第2期監獄署の時にはレンガ基礎の建物のようにコンクリートが多用される状況があることから、明治22年の名古屋鎮台に吸収される前までに建てられたものと推定したい。また、未決監には明治10年代の旧陸軍の建物遺構の特徴を見ることができる。



南北トレンチ1南壁 土層断面 (基礎石設置状況)



南北トレンチ2南壁 土層断面 (礎石設置状況)

第259図 元未決監掘方南側土層断面図・写真

## (5) レンガ基礎

### 概要

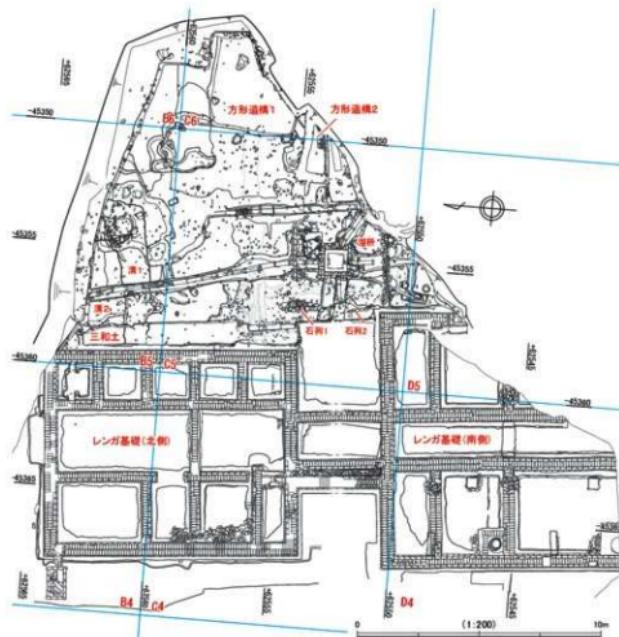
通路(坂道)上面で検出したレンガ基礎について報告する。調査では、基礎を検出後、デジタルカメラにより写真撮影を行い、Agisoft Metashape Professional ver. 1.5.2及びQGIS ver. 2.18.14を使用して平面・立面のオルソ写真を作成し、平面図・立面図の作図を行った。写真撮影後、復元整備で影響を受ける範囲について、刻印の有無などを確認しながらレンガを取り外した。取り外したレンガについては、寸法を計測するとともに、表面の調整等について観察し記録を行った。レンガ基礎は、北側と南側の棟に分かれ、その間に接続部がある。北側は南北約10.5m、東西約8.4m、南側は南北約10m(検出延長)、東西約10.5mである。基礎の列ごとにアルファベットの番号を付し、レンガを取り上げた。

### レンガ基礎北側 (第 263・265・267・268 図)

外郭で幅広のA～D基礎と、内部を区画し、幅が狭いE～O基礎からなる。A1-G基礎境や、区画①からは割れたレンガが大量に出土した。F列は1段のみ敷設されたものである。

基礎の構築は、地盤を溝状に布掘りし、コンクリートを充填し硬化させ、この上にレンガを積み上げるものである。幅は、全ての基礎において下2段は広く、外郭部では2枚半積み(1枚は長手1個分、半は短辺1個分)、内部区画は2枚積みとなり、これより上は、外郭部が2枚積み、内部区画が1枚半積みとなる。天端が不明確のため、当初の段数は不明であるが、B列では下2段+上8段の10段が残存する。

積み方は、小口積みと長手積みを交互に段を進めて積む積み方である。また、出隅部には羊羹を用いず七五を用いており、水野(2013)によれば、この積み方は「オランダ積み」又は「七五追出しイギリス積



第 260 図 レンガ基礎・平坦面 全体図

み」と呼ばれるものである。ただし、厳密には「オランダ積み」の出隅部の処理は、長手段に注目すると、隅から①七五・小口・長手・長手、②七五・長手・長手と1段おきに積み方を変えていく方法をとるとのことであるが(八木1934)、本基礎は、出隅部の長手段の積み方は一定であり、「イギリス積み」の呼称を用いるのが適当であると考えられる。

なお、C1基礎から、「泉州堺」の墨書きもつレンガ、G基礎の下から2段目には「三百」と墨書きされたレンガが出土している。建築の際の基準となる墨打ち線は、当基礎では確認できなかった。

明確な改修痕跡はA1とA2基礎境にある。A1基礎のレンガは大きく、目地材は硬く、レンガより非常に剥がれにくい特徴がある。これはB2、I、R基礎も同様である。A1基礎は改修後に設置されたものである。改修後のコンクリート基礎下には、戸室石等の大量の石片が敷かれており、第201、272図で示した、重厚な基礎柱がコンクリート基礎を支えている状況が検出された。地盤沈下を防ぐために設置されたものと考えられるが、基礎7の平面が長方形状を呈するほかは、1辺40~70cmの方形状を呈し、長さは基礎6で約1mを測る大型のものである。基礎柱下には、さらに石が敷いてある。

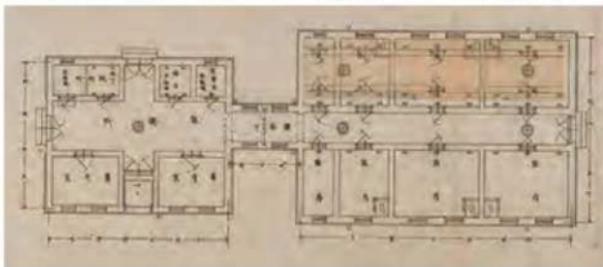
接続部では、R、P、Q基礎がある。P、Q基礎は幅が狭い。レンガ基礎とコンクリート基礎と方向軸がやや異なる。P基礎は列の歪みが大きい。RとQ基礎の隙間に、大量の割れたレンガが投入されていた(区画④)。Q基礎の最下段より「足羽郡福井」の刻書をもつレンガが出土した。

#### レンガ基礎南側(第204・266~268図)

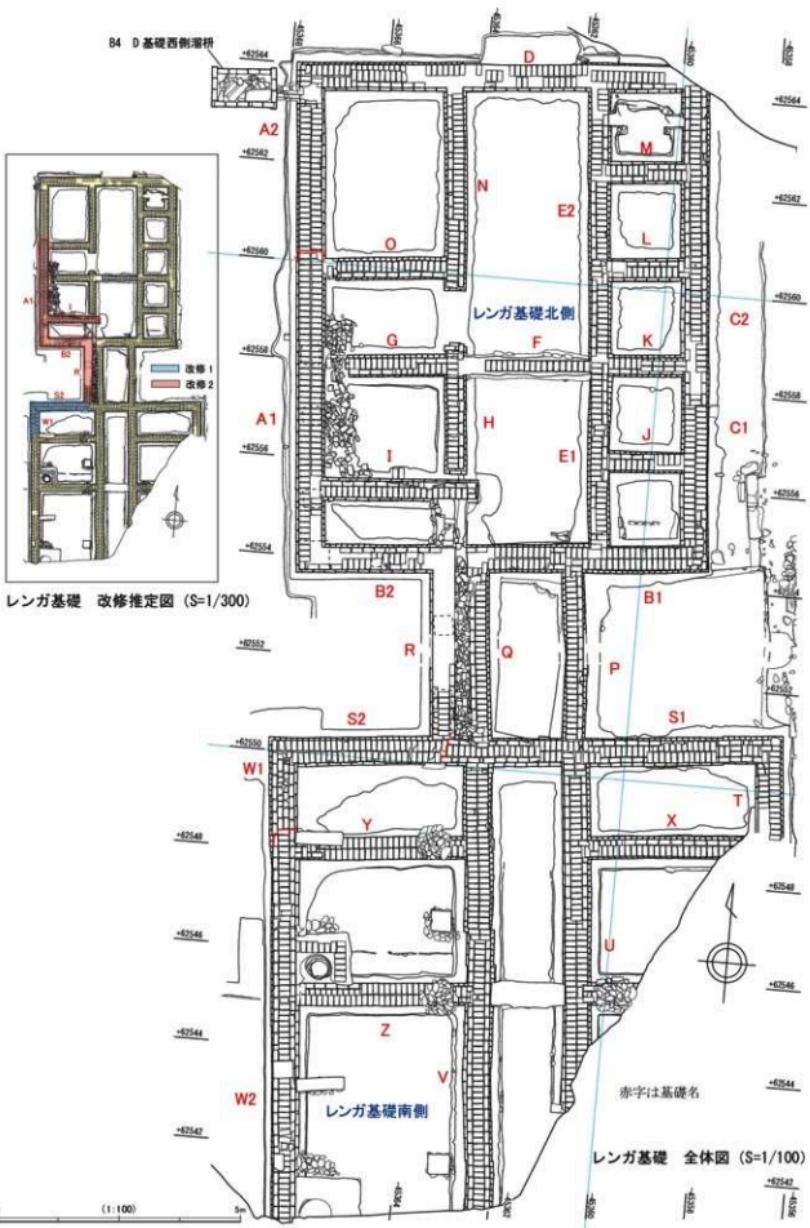
外郭部のW1、W2、S1、S2、T基礎と内部のU、V基礎は幅広で、内部のX、Y、Z基礎は幅が狭い。また、便所遺構と、なんらかの基礎の根固めの可能性のある礫の集積を、レンガ基礎上で検出した。V基礎は列の歪みが大きい。基礎の積み方は、北側と同様である。天端が不明確のため、当初の段数は不明であるが、最も段数の多いS1基礎で8段からなる。明確な改修痕跡はW1-W2基礎境、S1-S2基礎境で確認された。S2とW1基礎は改修時期が同じであり、下部のコンクリート基礎も同時期に改修されている。S2、W1基礎は、外面の「見える」面には割れたレンガを使用しないが、隠れる部分については、割れたレンガを充填させており特徴的であった。新旧関係は、W1-W2基礎境は不明確であるが、S1-S2基礎境では、S2レンガがS1レンガを切り込んで積まれている部分があり、S2基礎が改修後の基礎と推定される。また、S2-R基礎境では、R基礎の目地材の硬化度が非常に高いことから、R基礎が後出のものと推定される。

レンガ基礎の性格・時期等 このレンガ基礎は、第9図17より、建築当初は旧陸軍監獄署の建物基礎であったと判断できる。また、北陸財務局『第九師団関係資料』(金沢市史1999)に記載される「既」がこの建物と推定され、記載の建物履歴より、明治32年(1899)に新築された建物であることがわかる。また、この建物については平面図(第261図)が残っており、レンガ基礎上に建築された建物の部屋等について知ることができる。これによると、レンガ基礎北側が監視所、南側が既決闇、接続部は渡り廊下であったとみられる。平面図に示された部屋の配置と、レンガ基礎の配置は、ほぼ対応している。監視所の出入り口のうち、北面のものについては、D基礎中央北側に段部を確認している。

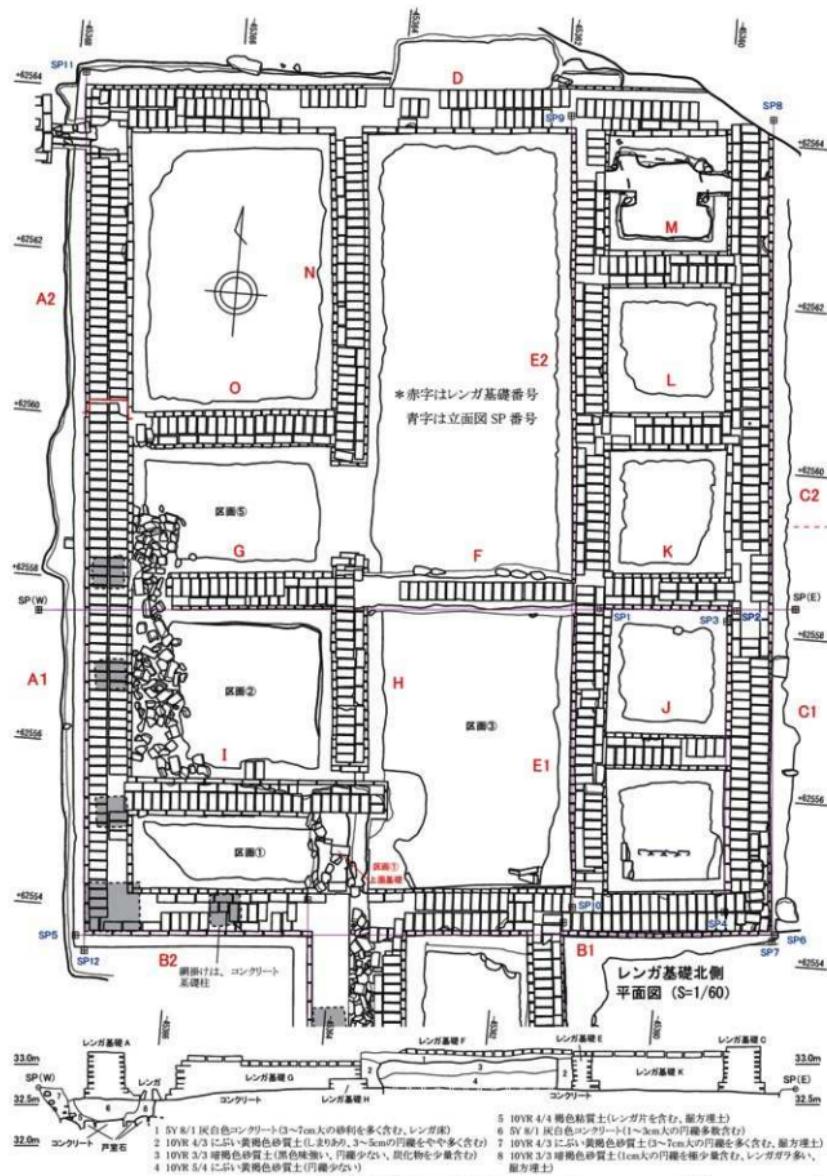
改修については、少なくとも2回あったことを確認し、第262図に改修1、改修2として示した。これらは、坂道の埋立て範囲及び周辺に相当し、

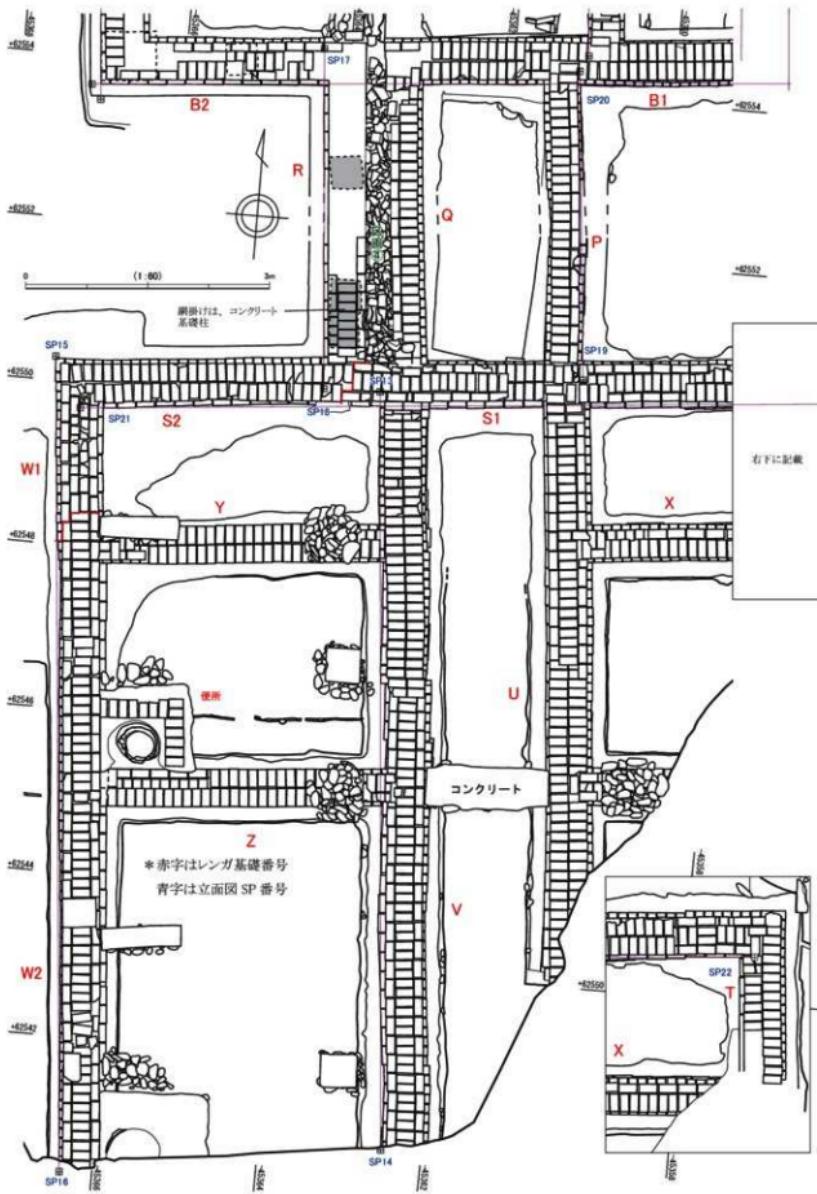


第261図 「金澤衛戍監獄既決闇及監視所並ニ渡り廊下平面図『建物模様替ノ件』明治39年(1906)防衛研究所戦史研究センター蔵

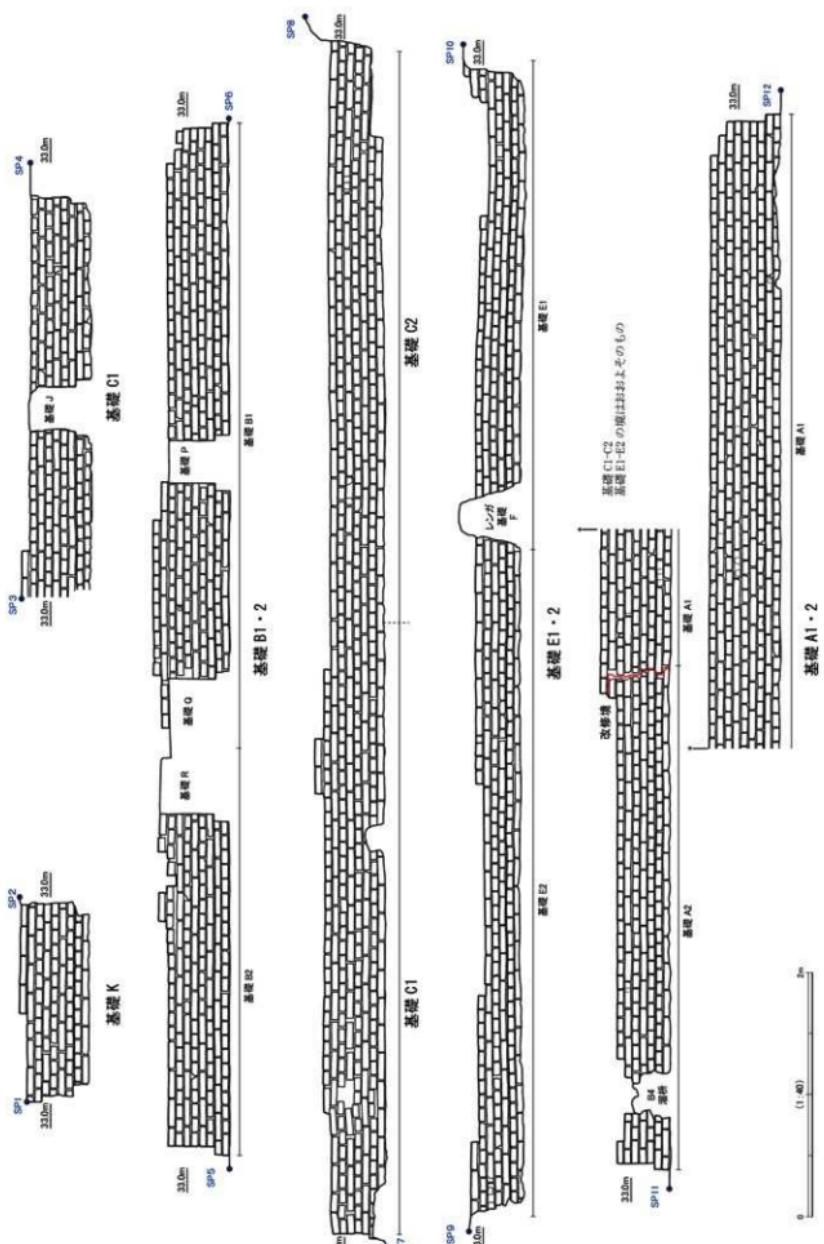


第262図 レング基礎 全体図

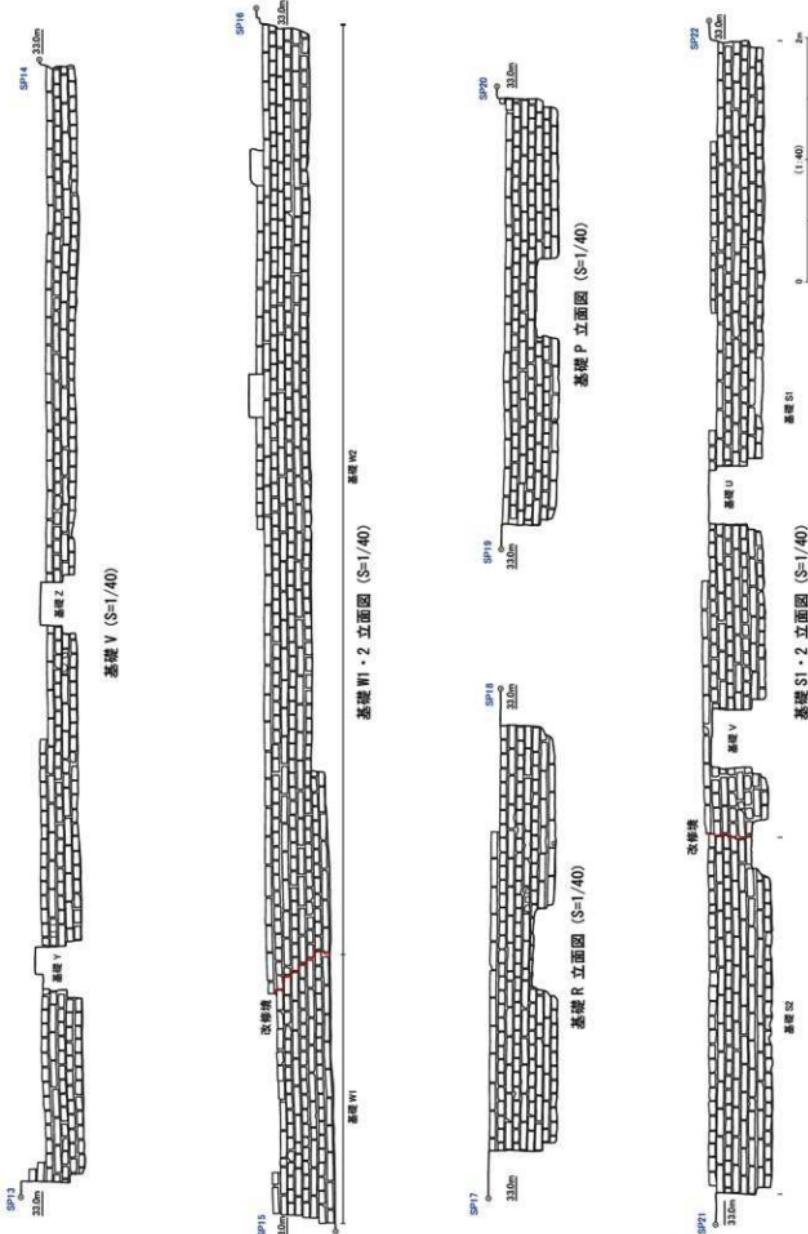




第 264 図 レンガ基礎南側 平面図



第265図 レンガ基礎 立面図1



第 266 図 レンガ基礎 立面図 2



レンガ基礎北側 (南東から)

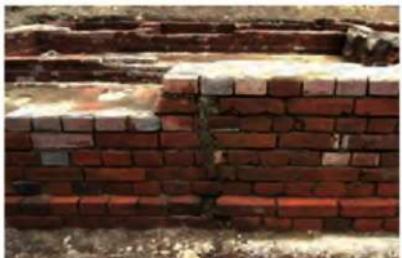


レンガ基礎南側 (北東から)

第 267 図 レンガ基礎写真 1



レンガ基礎北側 調査状況（北から）



基礎A1・A2 改修境（西から）



基礎S1・S2 改修境（南から）



基礎W1・W2 改修境（西から）



基礎B1（北から）



基礎V（南から）



基礎S1・U接合部（北西から）



基礎C2・J接合部、刻印検出状況（北から）

第268図 レンガ基礎写真 2

軟弱な埋立土上面に建築したため、基礎自体が沈下したこと等により改修したものと考えられる。改修1→改修2の順となる。この他、基礎侧面の観察により、E基礎の中央付近で積み方が、不整合の箇所を確認したが、施工単位の境なのか、改修を示すものか判断が難しい。また、A1-G境が壊されている点、N-H境が壊され開放しているなど、建物の一部改変の状況が見受けられる。改修1、2以外の部分については、明確な改修痕跡は確認できず、目地材もほぼ同じものであったため、一体構築の可能性が高いが、刻印レンガの出土量は基礎南側が圧倒的に少ない点については、時期差を示すものか原因を明らかにできなかった。なお、第261図の監視所や渡り廊下部分には、R及びI基礎に相当するものがなく、改修2については、この平面図が作成された後の時期のものと考えられる。さらにA1基礎下のコンクリート基礎下より、ステンレス製の釘が出土していることから、改修時期は昭和期まで下る可能性がある。

## (2) レンガ基礎周辺の遺構

### 三和土（第270・272図）

三和土は、レンガ基礎北側の北東隅周辺にて確認されたものである。レンガ基礎や溝1に切られている。厚さは5cm程度、レンガ基礎東側で良好に検出され、三和土直上から大量の土製品が出土している。周辺遺構の壁面からも水平に層状堆積している三和土が確認されており、検出範囲を図示した。明治期においてレンガ基礎建築以前に玉泉院丸に存在した建物の土間等の可能性がある。建物の候補として、第9回16で示された「スロイス御貸家」があげられる。

### 溝（第270・272図）

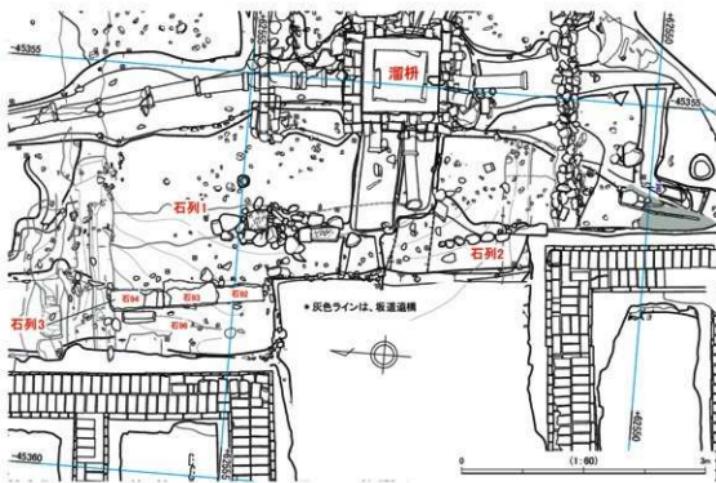
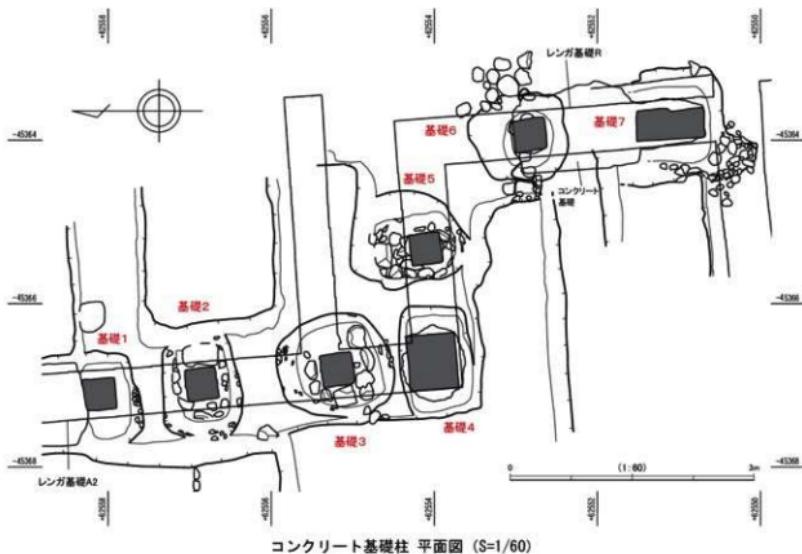
溝1は、レンガ基礎付近で、検出された溝で、東西方向を軸としている。三和土を切り、レンガ基礎に切られている。検出面での幅は約1mで、壁面はほぼ垂直に降下している。一部掘削を行い、検出面から54cm、標高32.36mまで掘削したが構底には到達していない。覆土は明るい色調である。東側では、調査区境付近で北方に軸を変えている。本遺構は、明治32年建築のレンガ基礎以前の遺構と推定され、可能性としては明治15年に建築された旧陸軍監獄署建物群の周囲を区画する施設との関係性が考えられる。溝2は、溝1に切られる遺構で、一部のみの検出のため、全体形状が不明であるが、幅は0.8~1m程度で南北方向に溝状を呈す。埋土は黒褐色粘質土である。

### 石列（第269・272図）

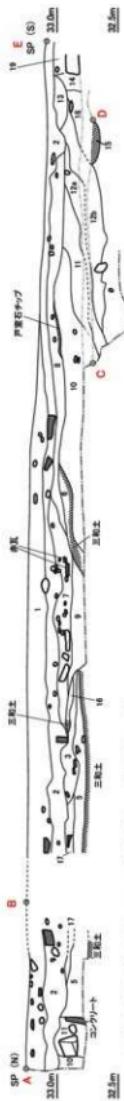
坂道の東端部付近で検出された近代の石列。石列1、石列2、石列3（石92~94）が検出されている。石列1は、坂道路盤土を切り込むように配置されたものである。ただし、坂道東端部埋め戻し土39層に切られている。延長1.5m程度で、列状の石の集積。石列2は坂道南側溝石材の抜取り後に置かれたもので、延長1.3m程度検出された。39層を切っている。石列3は坂道断面⑯、⑰に断面が図化されており、坂道埋戻土39層より新しいが、斜路埋土よりは古い。石94には根固め石があった。いずれも雁木延石状の戸室石石材である。これら石列は、いずれも坂道機能停止後で、坂道全体を埋め戻す前に設けられたものである。

### 方形遺構（第271・272図）

調査区東端部で検出された近代の遺構。方形遺構1は西辺約3.5m、深さ約70cmで、調査区外に続く。埋土は円礫を大量に含む特徴的なものである。方形遺構2は北西隅のみの検出であるが、深さは約1mある。埋土には大型の円柱状コンクリート廃材や、大量のレンガを含む。これら遺構の性格としては土取り穴等が考えられ、掘削後の崖地に大量の廃材を埋め込んだものと推定される。



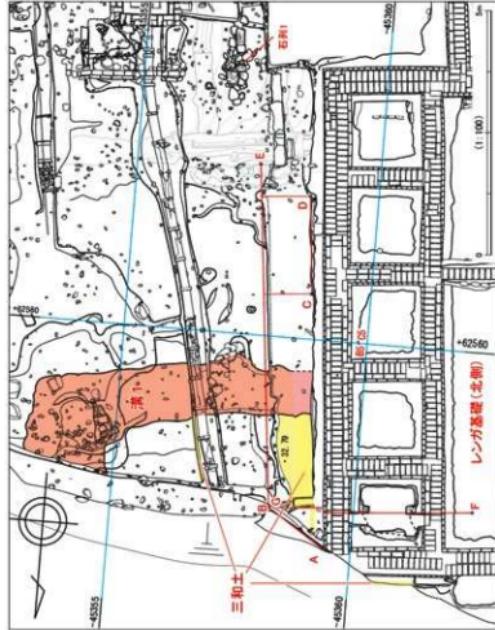
第269図 レンガ基礎間連及び周辺構造 平面図



1. 10YR 5/2 黄褐色砂質土(しまややや引く、3~5mmの砂を多く含む)、コブリットレングガ片  
風化土、風化土  
2. 7.5Y 5/4 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化多量、ガラス・アズベックク片等入、近傍代  
土  
3. 7.5Y 3/2 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化土  
4. 10YR 3/4 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
5. 10YR 3/3 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
6. 10YR 3/4 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
7. 10YR 5/4 に似る、黄褐色砂質土(3mm程度の10YR 3/2 黄褐色砂質土セグメント)  
8. 10YR 4/4 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
9. 10YR 5/4 に似る、黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
10. 10YR 4/3 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
11. 10YR 4/2 反応性粘土(10mm以上明瞭な色調)  
12. 10YR 6/6 有機質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
13. 10YR 6/6 黄褐色砂質土(3mm程度の10YR 3/2 黄褐色砂質土セグメント)  
14. 駐留地面面(42箇所)相当  
15. 10YR 7/4 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
16. 10YR 6/5 に似る、黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
17. 10YR 6/5 に似る、黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
18. 10YR 2/2 黄褐色砂質土(10mm以上明瞭な色調)  
19. 駐留地面面(44箇所)相当  
20. 10YR 6/6 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
21. 10YR 6/6 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む  
22. 10YR 6/6 黄褐色砂質土(やや引く、3mm以下)、風化度約7~8%の砂を含む

三和土及び開辺断面図 (S=1/40)

第270図 三和土平面図・断面図



三和土検出範囲及び周辺平面図 (S=1/100)



三和土 士質断面 (南から)



第 271 図 平坦面 近代造構 平面図・断面図



コンクリート基礎検出状況（北から）



コンクリート基礎下 石材出土状況（北から）



コンクリート基礎柱検出状況（南から）



三和土検出状況、溝 1 土層断面（西から）



三和土直上 土製品出土状況（西から）



石列 3（石94）、石96出土状況（南から）



石列 2 検出状況（北東から）



方形遺構 1（北から）

第 272 図 レンガ基礎写真 3

## 第8節 玉泉院丸北西櫓台石垣

### 1. 玉泉院丸北西櫓台石垣の概要

玉泉院丸北西に位置する平面方形の櫓台石垣であり、北・西方に面するいもり堀側に張出している。

玉泉院丸の西縁である鼠多門統土蔵下石垣は鉢巻き石垣状を呈しているが、櫓台石垣は堀から郭上面へと続く高石垣となっている。櫓台の規模は、上面で東西12.6m、南北12.4m、石垣裾の現道路面と天端との比高は7.3mを測る。高さに関しては、「鼠多門御門統御櫓台御石垣規合矩方絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)には「高サ水より五間三尺五寸」(約10m)と記載されている。

近世前期以来、絵図には建物や土壠は記載されておらず、「御城中毫分御絵図」(天保元年[1830]横山隆昭家蔵)や、「御城分間御絵図」(嘉永3年[1850]前田育徳会蔵)には「御櫓台」と記載されている。石垣の被災・修理履歴としては、安永3年(1783)の「積直」、寛政11年(1799)地震による「孕」、文化年中(1804~1818)「崩」、文化7年(1810)「出来」(修理完了)の記録が残る。現在残る石垣は、ほぼ全面金沢城石垣編年7期(享和~文化年間[1801~1818])の修築と推定している。

### 2. 石材の観察 (第273図、第26・27表)

櫓台石垣上面で、金沢城公園第三期整備事業に係る園地工事が施工されるため、平成30年度に測量調査(140m<sup>2</sup>:委託)を実施した。併せて櫓台石垣の天端石詳細観察を研究所職員が実施した。

調査対象とした石材は合計59石あるが、鼠多門統土蔵北石垣北端の石材(石材1、2)、押え石(石材1~後)、地覆石(石材58)を除いた55石が櫓台石垣の石材である。調査対象とした石材はすべて石材観察表に掲載した。

#### 櫓台石垣の天端石 (第274・275図)

すべて戸室石製の天端石である。55石の内、赤戸室は32石(52%)、青戸室は25石(45%)、中間は2石(3%)である。櫓台石垣の築石部は、正面略方形~俵形の粗加工石が使用されているが、最上段の天端石は方形基調の石材が多く、左右に隣接する石材同士が密着した切石が多数を占める。下辺は下段の石材形状に合わせた不整形の石材もある。隣接箇所がずれている石材の合端を観察すると、平刃状工具によるタタキ加工痕を確認できる。

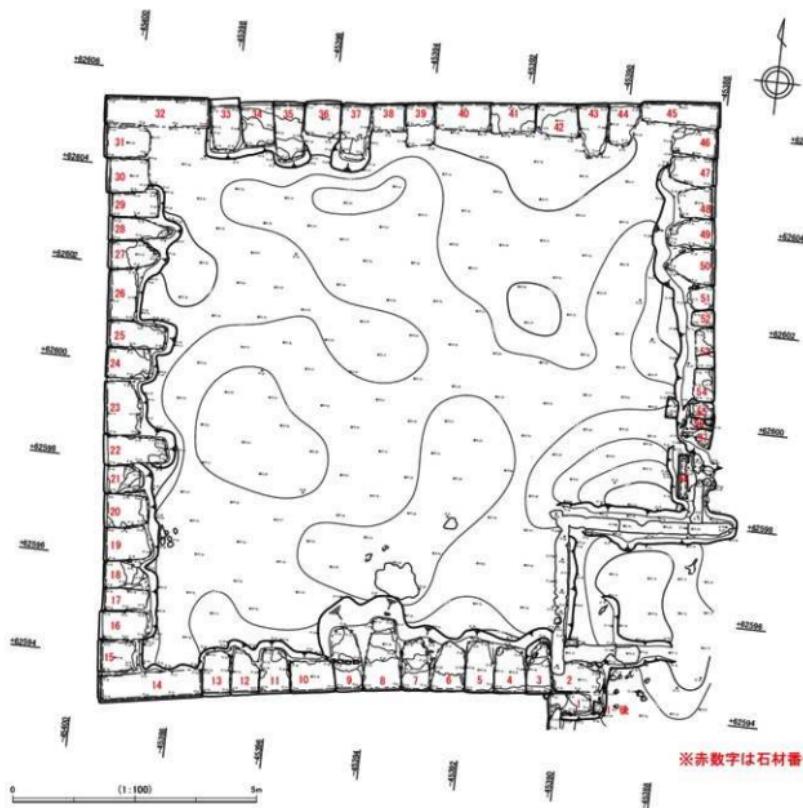
石材上面の加工痕では、正面側に幅1~5.5cm(平均3.5cm)のタタキ加工が通る石材を40石(73%)確認している。また上面の割面に三角形矢穴痕が残る石材(石材27)も確認している。

石材正面の加工は、築石はノミ等の先端が尖った棒状工具による粗いクレーター状の溝みや、線状のノミ痕が確認できる。一方、角石の加工は、築石と比べて打点が細かく、4辺には幅約3cm前後の周縁加工が施されている。周縁加工が4辺ともにあるのは、角石、角脇石と角脇石の隣の石であり、築石部では確認できず、ほとんどは上辺のみである。上辺に周縁加工が確認される石材が29石(4辺ともある石材含む)あり、天端石の53%に当たる。

櫓台石垣南東入隅部では転用材が使用されている(全体の7%:石材53、55、56、57)。石材53は転用前は地覆石であった可能性がある石材で、後面には部材が当たっていた切り欠き部分が遺存する。石材57は切石で上面に棱線を伴う。正面の周縁加工が明瞭ではないことから、元来は金沢城石垣編年5期(寛文~元禄年間頃[1661~1704])の石材と推定される。

#### 鼠多門統土蔵の痕跡

石材1、2は鼠多門統土蔵(北)石垣の天端石である。石材1上面には、縦12cm、横8.5cm、深さ9cmを測る方形のホゾ穴が穿たれ、正面中央付近には細い十字線が刻まれている。これらは鼠多門統土蔵(北)の建物北西隅の痕跡である。詳細は第2節を参照されたい。

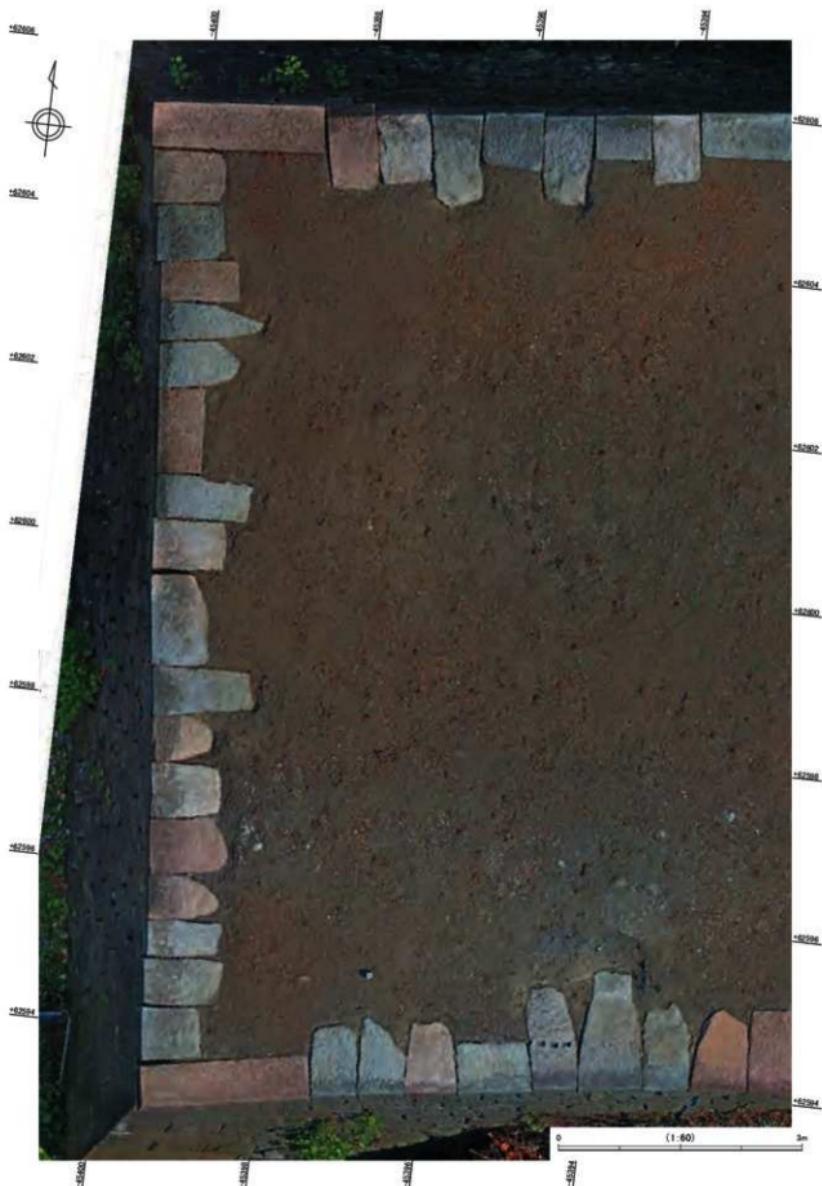


北西檐台石垣 清掃後状況（南東から）



北西檐台石垣 清掃後状況（東から）

第273図 北西檐台石垣石材番号図



第274図 北西櫓台石垣垂直写真（西半部）



第275図 北西櫓台石垣垂直写真（東半部）

第26表 玉泉院丸北西檐台石垣 石材観察表1

| No. | 石材位置         | 番号   | 部位           | 石加工                  | 石端石         | 縫長<br>(cm) | 横員<br>(cm) | 終長<br>(cm) | 合端幅<br>(左: cm) | 合端幅<br>(右: cm) | 台端幅<br>(左: cm) | 脚端幅<br>(左: cm) | 脚端<br>加下幅<br>(下: cm) | 脚端<br>加下幅<br>(右: cm) | 脚端<br>加工幅<br>(左: cm)                                   | その他特徴   |
|-----|--------------|------|--------------|----------------------|-------------|------------|------------|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------------|----------------------|--|---|
| 1   | 弧多門純土<br>籠北  | 1    | 天端石          | 粗加工, 有<br>戸定6<br>(原) | 29          | 44.5       | 94.0       |            |                |                |                |                |                      |                      |  | 上面正面側は、直状の縫かい／＼加工により半らに仕上げられた。上面に平滑な(原)と、正面に粗い／＼加工、正面に斜め削り、脚端に十子彫刻あり。 |
| 2   | 弧多門純土<br>1-後 | 押さえ石 | 切石           | 戸定6<br>(原)           | 77          | 21.6       | 20.7       | 2.8        |                |                |                |                |                      |                      |  | 切石右を押さえ石に転用。正面は平滑(タマノイ底あり)。   |
| 3   | 前面           | 2    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | —          | 44.4       | 107.9      |                |                |                |                |                      |                      |  | 上面は、削い／＼ミ落とし。   |
| 4   | 前面           | 3    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 52         | 52         | 102.5      | 3.5            | 12             | —              | 3              |                      |                      | 上面正面側10.3cmは、縫かい／＼加工で平滑に仕上げられている。上面に粗い／＼加工、凹凸目立つ(軟木底)。 |   |
| 5   | 前面           | 4    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 48.4       | 64.3       | 92.2       | 3.5            | —              | —              |                |                      |                      | 上面正面側13.3cmは、縫かい／＼加工で平滑に仕上げられている。正面は粗い／＼加工、凹凸目立つ(軟木底)。 |   |
| 6   | 前面           | 5    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 50.3       | 69         | 102        | 3.5            | —              |                |                |                      |                      | 上面・正面、削い／＼ミ加工(縫状)。                                     |   |
| 7   | 前面           | 6    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 35.8       | 69         | 102        | 4              | —              |                |                |                      |                      | 上面正面側33cmは、粗い／＼ミ加工で削られていっている。正面は粗い／＼ミ加工(縫状)。           |   |
| 8   | 前面           | 7    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 36.6       | 55.2       | 109        | 3              | —              |                |                |                      |                      | 上面正面側34cmは、粗い／＼ミ加工で削られていっている。正面は粗い／＼ミ加工(縫状)。           |   |
| 9   | 前面           | 8    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 37.6       | 78         | 149.5      | 3.5            | —              |                |                |                      |                      | 上面正面側59.5cmは、粗い／＼ミ加工で仕上げられている。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。          |   |
| 10  | 前面           | 9    | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 38         | 55         | 129        | 3.8            | —              |                |                |                      |                      | 上面正面側60cmは、粗い／＼ミ加工で削られていっている。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。           |   |
| 11  | 前面           | 10   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 43.5       | 71.7       | 64.5       | 3.5            | —              | (1, 5)         |                |                      |                      | 上面正面側61cmは、粗い／＼ミ加工で仕上げられている。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。            |   |
| 12  | 前面           | 11   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 40.6       | 58.3       | 73.7       | 3.6            | —              |                |                |                      |                      | 上面はほぼ粗い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工。彫状の凹凸板あり。                      |   |
| 13  | 前面           | 12   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 53         | 58.5       | 94         | 2.6            | —              | —              | 2              |                      | 2.3                  | 上面全体粗い／＼ミ加工で仕上げられており、正面は削い／＼ミ加工(縫状)。                   |   |
| 14  | 前面           | 13   | 角端石<br>(天端石) | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 65.8       | 55.5       | 87         | 3.2            |                |                |                |                      |                      | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。                             |   |
| 15  | 西面隅角部        | 14   | 角端石<br>(天端石) | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 67.5       | 50.5       | 207.9      | 2.5~4          | 3              | 2.5            | 3              | ○                    | 2.5                  | 2.8  | 上面全体にやや縫かい／＼ミ加工。上面の4寸は半平行工具の加工である。正面の小窓の加工は削い／＼ミ加工(縫状)。               |
| 16  | 西面           | 15   | 角端石<br>(天端石) | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 67         | 65.4       | 69.8       | 3~4            | 3.8            | 4.8            | 3.5            | ○                    | 2.6                  | 4  | 上面は削い／＼ミ加工で仕上げられているが、正面に仕上げられていない。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。                     |
| 17  | 西面           | 16   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 67.8       | 55         | 97         |                |                |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 18  | 西面           | 17   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 35.5       | 45         | 91.3       | 3.3            |                |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(クレーラー状)。  |
| 19  | 西面           | 18   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 36.5       | 55         | 87.9       |                |                |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 20  | 西面           | 19   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 52         | 69.7       | 79.5       | 3              | —              |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(クレーラー状)。  |
| 21  | 西面           | 20   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 54.5       | 56.5       | 82.5       | 3              |                |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(クレーラー状)。  |
| 22  | 西面           | 21   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 60.8       | 56         | 75.5       |                |                |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 23  | 西面           | 22   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 69         | 68.0       | 124        | —              |                |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 24  | 西面           | 23   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(中間) | 31.3       | 111        | 69.5       | 2~3            | 2              | 4              | 3.2            |                      |                      | 5.5  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 25  | 西面           | 24   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 44         | 62.5       | 90.5       | 2.8            |                |                |                |                      |                      | 1.2  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 26  | 西面           | 25   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 49         | 54         | 119        | 3.5            | —              |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(太い縫状)。  |
| 27  | 西面           | 26   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 46.5       | 103.5      | 97.5       | 1~3.5          | —              |                | 2              |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(太い縫状)。  |
| 28  | 西面           | 27   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 46.5       | 54         | 99.8       | 3              | —              |                |                |                      |                      | 2.3  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 29  | 西面           | 28   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 49.5       | 47.5       | 127.8      | 2.5            | —              |                |                |                      |                      | 2  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 30  | 西面           | 29   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 42         | 46         | 97         | 2.3            | —              |                |                |                      |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工(縫状)。  |
| 31  | 西面           | 30   | 天端石          | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 68         | 77.5       | 90.8       | 3.2~4          | 3.2            | —              |                | 2.7                  |                      |  | 上面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工。彫状の凹凸多くあり(軟木底)。                                 |
| 32  | 西面           | 31   | 角端石<br>(天端石) | 切石                   | 戸定6<br>(原)  | 63.5       | 66         | 69.7       | 2.5~<br>2.7    | 4              | —              | 2              | ○                    | 3                    | 3.2  | 前面は削い／＼ミ加工。正面は削い／＼ミ加工。彫状の凹凸多くあり(軟木底)。                                 |

第27表 玉泉院丸北西檐台石垣 石材観察表2

| %  | 石材位置  | 番号 | 部位       | 石加工  | 岩石種      | 緑長(cm) | 横長(cm) | 厚径(cm) | 合端幅(上:cm) | 合端幅(右:cm) | 合端幅(左:cm) | 側面加工幅(上:cm) | 側面加工幅(右:cm) | 側面加工幅(左:cm) | 周縁加工幅(cm) | 周縁加工幅(cm) | 周縁加工幅(cm)  | その他特徴   |
|----|-------|----|----------|------|----------|--------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|--|---|
| 33 | 北西隅角部 | 32 | 角石(天端石)  | 切石   | P9室石(半)  | 60     | 59     | 21.1   | 2.9~4.5   | 4         | 7.7       | 3.5         | ○           | 2.5         | 4.5       | 4.5       | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せのノミ痕多数あり。上面の切石半分は天端石であり、天端部は組合せの加工は組合せなクレーラー状跡み。 |   |
| 34 | 北面    | 33 | 角脇石(天端石) | 切石   | P9室石(半)  | 65     | 99.5   | 92     | 3         | (2)       | 2.5       | 4.8         | ○           | 3           | 2.5       | 2.5       | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削り、側面は組合せの工具で削る。                             |   |
| 35 | 北面    | 34 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 35     | 65.5   | 81.3   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | 上面は斜面。側面は著しく削離れ。正面は不明瞭。正面は組合せの工具で削る。                             |   |
| 36 | 北面    | 35 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 45     | 62.4   | 117    | 3.5       | 5         | —         | —           | —           | 2           | 2.3       | 2.3       | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削る。  |   |
| 37 | 北面    | 36 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 58     | 72.5   | 69     | 3         | —         | 3         | 4           | —           | —           | —         | —         | 上面は斜面。側面は削離れ。正面は不明瞭。正面は組合せの工具で削る。                                |   |
| 38 | 北面    | 37 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 50.2   | 60.3   | 110.7  | 3.3       | —         | 5.5       | 2.7         | —           | —           | —         | —         | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削る。  |   |
| 39 | 北面    | 38 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 38.3   | 68.8   | 57     | 2.9       | 2.5       | —         | 2.6         | —           | 1.8         | —         | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削る。   |
| 40 | 北面    | 39 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 34     | 58     | 84     | 3.9       | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削る。   |
| 41 | 北面    | 40 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 35.2   | 113.5  | 158    | 3.7       | 6         | —         | 2.3~3.5     | —           | —           | 2.4       | —         | —  | 上面全体に斜いノミ加工。全体的に組合せのノミ痕多数あり。正面は組合せの工具で削る。   |
| 42 | 北面    | 41 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 36.2   | 90.8   | 59.7   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | 3.1       | —         | —  | 上面全体に斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削る。   |
| 43 | 北面    | 42 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 42.2   | 82.3   | 67.2   | 4         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 上面は斜面。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 44 | 北面    | 43 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 51     | 63.9   | 110    | 3.2       | —         | —         | —           | —           | —           | 2.2       | —         | —  | 上面は斜面。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 45 | 北面    | 44 | 角脇石(天端石) | 切石   | P9室石(半)  | 53     | 63     | 79.8   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | 2.5       | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削る。   |
| 46 | 北東隅角部 | 45 | 角石(天端石)  | 切石   | P9室石(半)  | 48.5   | 49     | 159.5  | 3.1~3.3   | —         | 5.5       | 2.5         | ○           | 3.2         | 2         | —         | —  | 上面全体に斜いノミ加工。凹凸立つ。上面の立つ部分は工具で削る。正面は組合せの工具で削る。  |
| 47 | 北面    | 46 | 角脇石(天端石) | 切石   | P9室石(半)  | 48.2   | 68     | 91.2   | 3         | 2.5       | 2.7       | 2.2         | —           | —           | 3.4       | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 48 | 北面    | 47 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 45.5   | 54.9   | 93.3   | 3.8       | —         | 2.7       | 2.5         | ○           | —           | —         | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 49 | 北面    | 48 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 47.8   | 62.4   | 70.4   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 50 | 北面    | 49 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 33.5   | 59.3   | 92     | —         | —         | —         | —           | —           | —           | 2.4       | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 51 | 北面    | 50 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 40.5   | 72.2   | 97     | 4.7       | —         | —         | —           | —           | —           | 3         | —         | —  | 上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 52 | 北面    | 51 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 18     | 47     | 54.4   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | 2.5       | —         | —  | 上面は斜面。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 53 | 北面    | 52 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 16.5   | 39.4   | 52.8   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 上面は斜面。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 54 | 北面    | 53 | 地覆石(軸用)  | 切石   | P9室石(半)  | 13.2   | 63.5   | 38.4   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 軸用材。上面は、平刃状工具で平滑な仕上げ。右面は軸用材の工具で削離れ。正面は組合せの工具で削離れ。背面は組合せの工具で削離れ。天端部は削離れ部分が残存する。正面は自然面。 |
| 55 | 北面    | 54 | 天端石      | 粗加工石 | P9室石(半)  | 17.7   | 68.3   | 40.4   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 上面は、削工で平らにならなかったため、ノミ加工で少ない。正面は自然面。   |
| 56 | 北面    | 55 | 天端石      | 粗加工石 | P9室石(半)  | 10.5   | 32.5   | 49.5   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 上面は斜面。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 57 | 北面    | 56 | 天端石      | 切石   | P9室石(中間) | 28.5   | 32.7   | 46.5   | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 軸用材。上面は斜いノミ加工。正面は削工で削離れ。  |
| 58 | 北面    | 57 | 天端石      | 切石   | P9室石(半)  | 40.5   | 59.3   | 3~5    | 4         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 軸用材。上面は斜いノミ加工。正面は組合せの工具で削離れ。  |
| 59 | 積石南東  | 58 | 地覆石      | 切石   | P9室石(半)  | 21     | 91     | 9.5    | —         | —         | —         | —           | —           | —           | —         | —         | —  | 上面は斜面。正面は組合せの工具で削離れ。  |

※1 計測値について。埋没または石と接するため有無や寸法を確認できない場合は、計測値欄に「-」と表示した。

※2 合端加工や側面加工が確認できない場合は空欄とした。(風化や欠損等により元の状態が不明瞭な場合も空欄とした。)

※3 周縁加工幅(F)については、危険であるため計測できなかつた。そのため、存在する場合は計測結果に「○」を付した。

# 第5章 物理探査

金田 明大(奈良文化財研究所)

## はじめに

非破壊的な手法で遺跡の情報を得る手段を遺跡探査と総称する。中でも、物理的な手法を用いた探査は地中に埋没している状況を把握する有効な手法のひとつであり、発掘調査などの手段と合わせて用いることで、効果的な手法として注目されてきた。

金沢城鼠多門の発掘調査に先立ち、地中の状況を把握することを目的として地中レーダー探査をおこなった。本稿ではその成果について報告をおこなう。

## 地中レーダー探査手法について

本調査では地中レーダー(Ground Penetrating Radar:GPR、以下略号を用いる)を用いた探査を実施した。

GPRはアンテナより地中に電磁波を送信し、反射波を受信することで地中の異常部を捉える手法である(佐藤ほか2016)。地中において電磁波は誘電率の異なるものの境界部分で強く反射することが知られており、土層の境界や土と石といった異質な物質の境界で反射する。このため、発信から受信までの時間と、それぞれの反射の強弱を把握することで、反射の強度と深さの情報を得ることが可能である。

また、対象地域の土壤などの環境条件に大きく影響されるものの、発信する電磁波の周波数の高低により、探査可能な深度を変えることが可能である。低周波が発信可能なアンテナを選択することで深い部分まで探査可能となる。その反面、低周波の場合、電磁波の振幅が大きいことから解像力が低下することとなる。このため、目的や対象物の大きさ、想定される埋没深度などの状況を勘案して適切な周波数付近の電磁波を発信できるアンテナを選択する必要がある。日本において一般的に使用されているアンテナの中心周波数は200~900MHz前後である。

今回は、GSSI社SIR-3000に70MHz、200MHz、400MHzのアンテナを用いて探査をおこなった。解析はGPR-SliceV7.MT(Geophysical Archaeometry Laboratory Inc)によっておこなった。

## 鼠多門の探査

本調査においては、2か所の探査をおこなった。

### 1) 西側石垣

門西側の石垣である。中心周波数400MHzのアンテナを用いた。探査方向は石垣面に対して直交する形で、石垣を登る形で探査をおこなった。成果はレーダーの接地面を基準としたProfile(疑似的な断面)およびTime-Slice法による深さ毎の平面表示として示されるが、高低差が大きいことから、石垣の測量図より取得した標高により地形補正をおこない、成果を変形して示した。測線は1m間隔で設定している。

調査区は石垣下部のU字溝を基準に石垣に沿う形で設定をおこない、石垣に沿う方向で探査可能であった67mのうち0~14m、39~67m、石垣に直行する方向で幅7mの範囲をおこなった。データは地形補正をおこない、断面を石垣面に沿って変形して表示した。

### 2) 門およびその周辺

門がかつて存在していた地点を中心に石垣東側一帯の平坦面を対象とした。この部分は西を石垣、東を玉泉院丸の庭園および濠の段差で区画されており、門と土蔵、御武具役所等の施設の存在が知られる

場所である。門および想定される斜路などの情報が明確ではないため、深い部分を探ることを目的として中心周波数70MHzと200MHzアンテナをもちいた。門の東側は斜路が東西方向に延びていることが絵図より知られることから、この斜路の断面をとらえることを目的として走査方向は南北に設定した。測線は0.5m間隔で設定しているが、アンテナの大きさにより障害物などで探査できなかった範囲もあり、範囲は70MHzアンテナの範囲が若干狭い。

## 探査成果

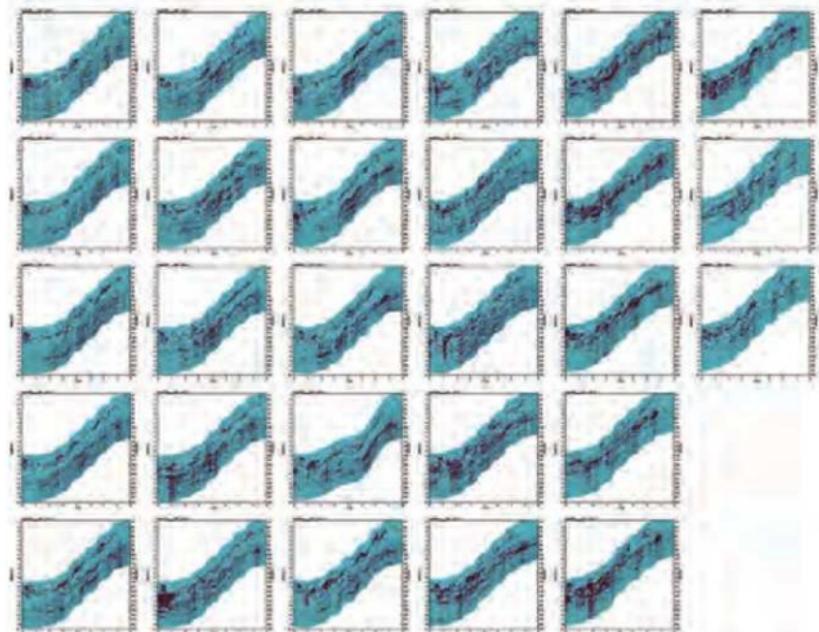
### 1) 西側石垣

Profile(疑似的な断面)の表示をまずみると、石垣下部には後世の埋設管と考えられる設備が石垣に沿って埋設されていることがわかる(第276図)。石垣の立ち上がり部分には、やや石が集中している様子が見られるが、崩落により堆積した石と、石垣の基底石となるものの判別は難しい。

### 2) 門およびその周辺

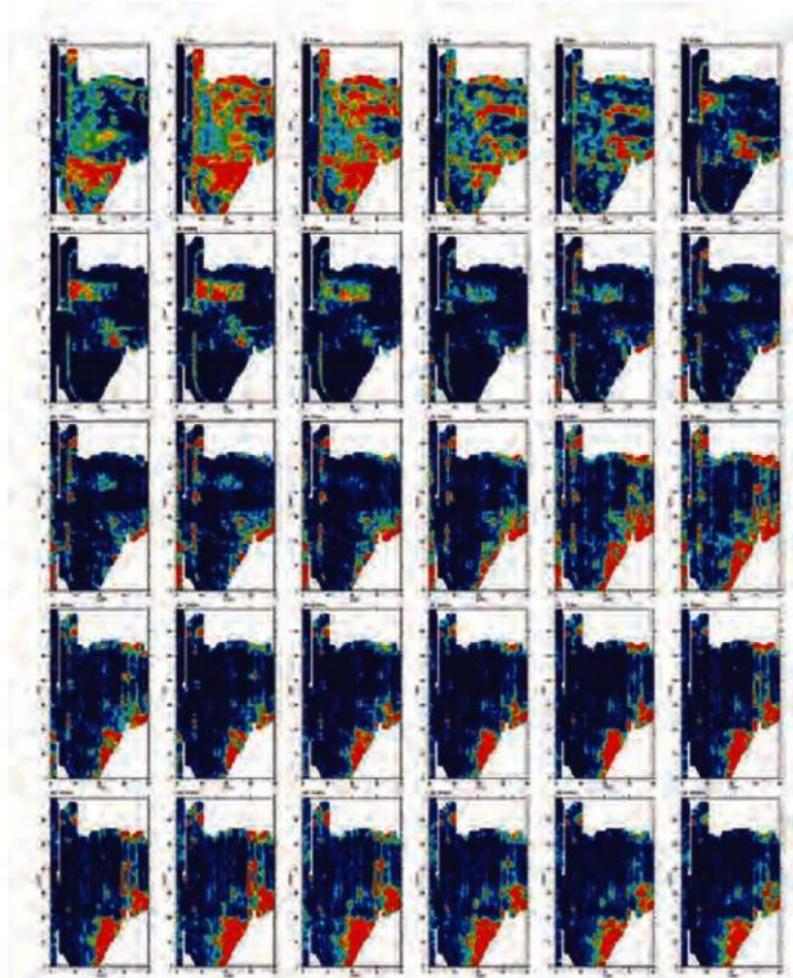
200GHzのアンテナによるTime-Slice図(第277図)によると、表層(0~12ns)において既に多くの構成物の存在を見ることが可能である。ここでは斜路の石組みなどを見ることができる。特に、Y=10~20mの範囲は、強い反射を見ることができ、鼠多門から東側に伸びる斜路の南側に帯状に石や硬化面が存在するを考えることができる。また、Y=30 m付近も同様であり、門の斜路の両側に施設が残存することを確認できる。

6~13ns(約20~40cm)付近では、反射の強い箇所が多く存在する。これらは方形、あるいは線上のものも多く、施設の基礎や、整地の範囲を示すと考える。



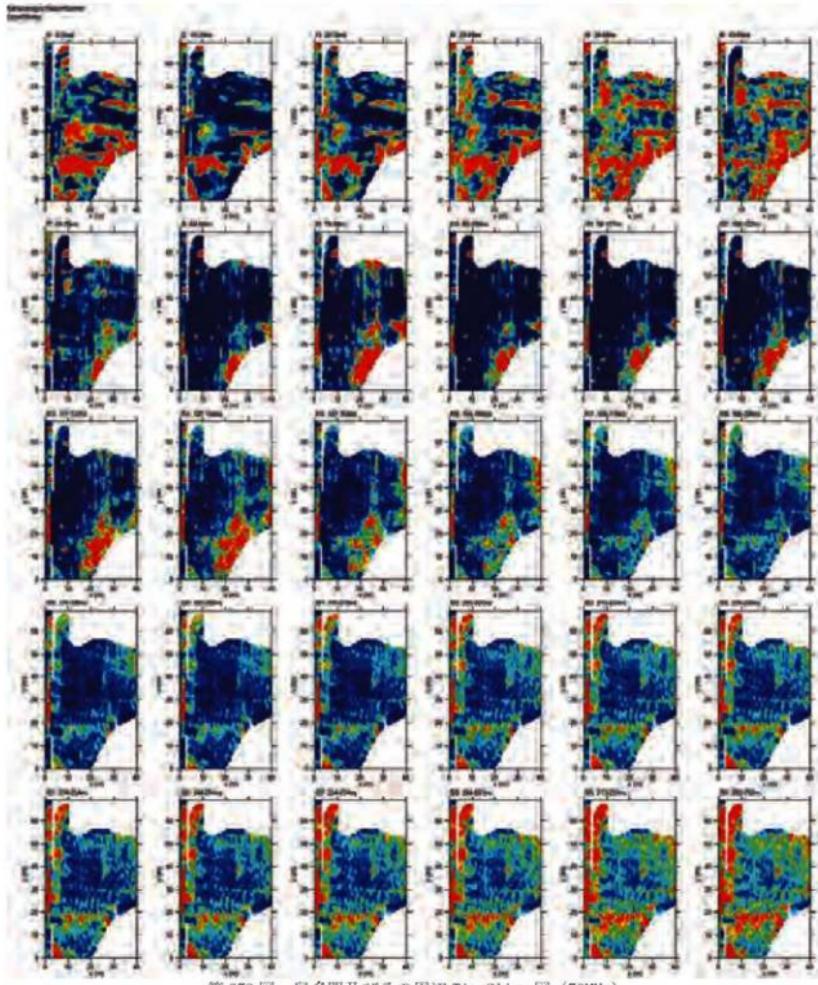
第276図 鼠多門西側石垣 Profile 成果

16—23ns(50—70cm)付近では、調査区南東に逆“コ”字状の反射と、北西部分に方形の反射が存在する。前者は丁度鼠多門から東側に伸びると想定される斜路の延長線上に存在し、X=20mより東側で明瞭となることから、この付近の東西で石垣などの施設の深さの違いなど遺存状況が異なるか、構成する物質が異なっている可能性が指摘できる。後者の東側には23—29ns付近(70—90cm)で明瞭に3連の方形の強い反射が並ぶ状況にあり、建物の基礎の存在が想定できる。



第277図 鼠多門及びその周辺 TimeSlice 図 (200MHz)

70MHzのアンテナによる成果(第278図)では、200MHzでは把握が困難であった29ns(約90cm)以下の情報を得ることができており、69ns(約210cm)まで明瞭に見ることができている。



## 発掘調査成果との比較

探査終了後、発掘調査が実施され、地中に依存する遺構の詳細が把握されている。ここでは、門およびその周辺の調査地点において示された成果を検討する。

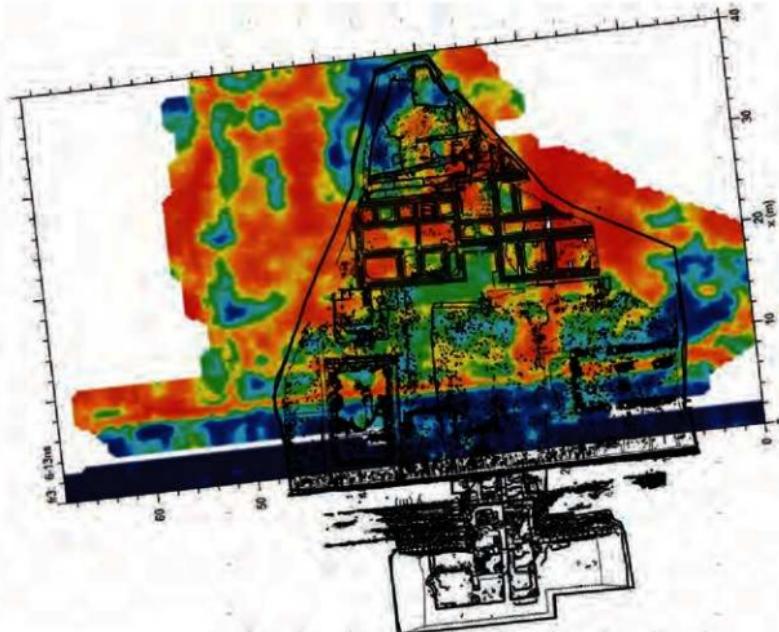
## 近代以降の遺構との関連

近代以降に属する遺構との関係としては、6-13ns(20-40cm)前後の状況が関連するものが多い(第279図)。建物が存在していた部分に特に反射が多くみられており、多くの反射がこれらに関連すると考える。X=15-25m、Y=14-36m付近の面的な反射などが代表的であろう。この反射は調査区範囲外北側に統一、Y=40-50mの範囲で東に屈曲する。これらの反射がどのような施設に関わるものは今後も検討が必要である。

## 近世の遺構との関連

近世の金沢城に属する遺構との関連については、20ns(60cm)以下の状況が良好に示していると考える。X=4-8 m、Y=36-42m付近に存在する方形の建物基礎はGPRの成果と一致している。この反射の北側にある方形の反射が三か所東西に並ぶ状況は調査区外に伸びており、今後の検討が必要である。

16-23ns(50-70cm)付近では、調査区南東に逆“コ”字状の反射が門東側の斜路に関わる遺構と考え



第279図 鼠多門成果と近代発掘遺構の比較 (6-13ns)

たが、発掘調査成果との比較で想定が妥当であることが確認できた。

20-26ns(60-80cm)の深さのX=7mラインには線上の反射が存在している(第280図)。このラインは地表より見えてるものと分断できないため、探査成果のみで地下の情報を把握することは困難であるが、発掘調査成果との比較により城門を横断する施設の位置と合致しており、一部でこれを反映している可能性がある。

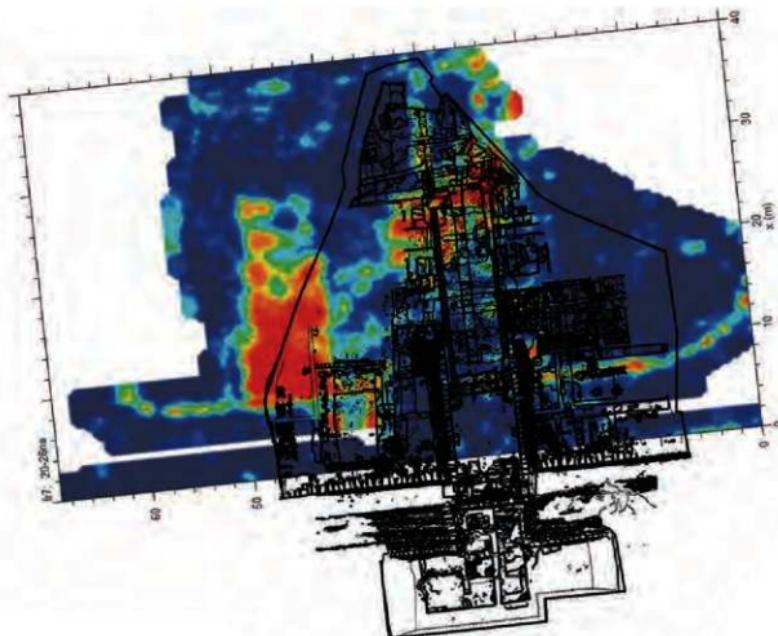
200MHzのアンテナでは発掘調査で確認された門からの斜路については先述の通り浅くなる東側については把握ができているが、西半部から門に至る部分については明瞭ではない。70MHzのアンテナでは、29ns(約90cm)以下において斜路の両側壁に対応する位置に線上の反射を見ることができており、調査成果と合致した成果が得られている。

### 本調査のまとめ

本調査においては、当該範囲の探査をおこなうことができた。表面近くの遺構や土層が複雑であることもあり、また比較的浅い部分の情報取得にとどまつたが、発掘調査との併用により、今後金沢城の調査をおこなう上で参考となる成果を得ることができたと考える。今後も同様の調査を実施し、更に地中の情報を収集することが必要であろう。

### 参考文献

佐藤源之、金田明大、高橋一徳 2016 地中レーダを応用した遺跡探査 -GPRの原理と利用- 東北大出版会



第280図 鼠多門成果と近世発掘遺構の比較 (20-26ns)

## 第6章 総括

### 第1節 鼠多門に関する遺構

鼠多門の創建時期について、文献史料から知ることは今のところできない。今回の確認調査においてもはつきりとした知見を得ることはできなかったが、側壁石垣の創建時期を考慮すると、寛永期創建として間違いないと思われる。

鼠多門の構造に関する遺構については、明治17年に鼠多門が焼失した直後の様子を知ることができた。旧陸軍によって、門礎石が抜き取られたり、櫓の周囲にあった基礎石等も除去されているなど、全てが遺存していたわけではないが、鼠多門の規模を知るには十分な遺構が遺存していた。遺物を含めた全体的な総括は「鼠多門・鼠多門橋II」で行うこととし、ここでは遺構について得られた成果を次のようにまとめた。

#### (1) 範囲・規模を示す遺構

- ・範囲　【北西隅】　石垣天端の加工痕(段差)、外側に二重堀基礎ほぞ穴列  
　　【北東隅】　基礎石根固め  
　　【南西隅】　石垣天端の加工痕(調整痕)、外側に二重堀基礎ほぞ穴列  
　　【南東隅】　基礎石根固めの抜取痕  
　　【東辺南】　出入口に伴う基礎石の根固め
- ・規模　【櫓部】　南北22.54m、東西7.82m。  
　　【門部】　幅6.06m(中央大柱ほぞ穴間)、奥行き6.79m(脇柱真～背面大柱真)

#### (2) 構造に関する遺構

- 【柱】　櫓部では中柱の位置を確認(南北各1箇所、いずれも礎石根固め遺構)  
　　門部では中央大柱・背面大柱・正面柱列の位置を確認  
　　礎石:中央大柱2(戸室石製の切石材)  
　　礎石痕:背面大柱2・鏡柱2・脇柱2(南側は堀に転落した礎石が出土)  
　　礎石上面に柱痕跡(変色、鉄錆)、柱材は径約40cm隅面取仕上げ  
　　大柱に隣接する石垣面は、柱に沿って決り加工(幅38cm、深9.5cm)
- 【床】　床東の礎石を確認  
　　河原石を利用、上面被熱(赤変、鉛溶着)、一部に柱痕跡(黒変)  
　　床東の通り(大引き方向)は東西
- 【入口】　櫓東面で出入口に伴う可能性のある遺構を確認  
　　北:底の柱礎石(戸室石製の小型切石材)  
　　南:基礎石の根石(戸室石製の切石材)

#### (3) 意匠に関する遺物

- 【外壁】　建物外周部から黒漆喰仕上げの海鼠漆喰片が出土

#### (4) 側壁石垣

- 【範囲・規模】　高さ3.1m(中央大柱天～西面石垣天)、下部3段前後が遺存

延長14.3m(南壁)、延長14.3m(北壁)

- [構造・意匠] 切石積石垣(戸室石の不整形材を布積み)、9~10段  
裏込めは幅約2.5m前後で、円礫を平置き(戸室石屑混)  
[修築履歴] 石材加工及び裏込めの組成から、2時期に大別  
門内: 5期[寛文]、門前後: 6・7期[江戸後期]

#### (5) 門内の路面

- [範囲・規模] 幅員6.36m(側壁石垣間)、延長7.5m(躰石～正面柱列)  
[構造・形状] 路面は土間仕上げ(敷石なし)、門内外より一段高く整地

#### (6) 門背後の坂道

- [範囲・規模] 幅員4.9~5.0m、延長20.4m(坂道上端の雁木石から下端の横断溝まで)  
[構造・形状] 勾配は下部4.8mが10.5%、上部15.6mが17.5%(平均15.8%)  
路面に雁木を伴う(間隔約1.8~2.7m、計9段)

#### (7) 坂道に伴う排水施設

- [側溝] 坂道の両側に石組溝(戸室石製・凝灰岩製・削り抜き)  
内法で幅26cm×高さ15cm、検出延長18m  
[横断溝] 門背面の雨落ち付近に横断溝(鷹巣石製・削り抜き)  
[石組枠] 横断溝南端の石垣際に浸透枠(鷹巣石製・切石組合せ)  
[暗渠] 門部南壁石列の内側に接して埋設(鷹巣石製・削り抜き)

#### (8) 坂道両側の法面

- [構成] 下部は土留め石積み(2~4段)、上部は土羽法面(高さ最大1.9m)  
[規模・構造] 石積みは、北壁で延長15.5m、高さ0.3~1.3m、南壁で延長12m、  
高さ0.3~0.5mを検出

#### (9) 坂道から番所へ至る石段

- [範囲・規模] 幅3.04m、高さ2.55m  
[構造・形状] 計9段(踏面約50cm、蹴上げ約30cm)、幅30~50cm前後の不揃いな石材を配置

#### (10) 門前方の路面

- [範囲・規模] 幅員約5.5m(石垣～側溝)、延長3.6m(正面柱列～石垣面)  
[構造・形状] 路面は土間仕上げ、雁木2段分の抜取跡を検出

### 第2節 近代の遺構について

明治初年、玉泉院丸には金沢藩の御雇い外国人の居宅が置かれていたが、今回の調査では遺構の特定はできていない。明治15年に金沢陸軍監獄署が置かれるが、一部は金沢大学の施設として使用されていましたこともあり、遺構は良好に遺存していた。建てられた時期が特定できる元倉庫やレンガ基礎の建物など、旧陸軍の明治期における建物基礎に関する数々の所見を得ることができた。これらの成果は、金沢城の歴史を語るうえで重要なことはもちろん、今後の金沢城跡の近代遺構調査について、十分寄与することとなるだろう。

## 引用・参考文献

- 石川県金沢城・兼六園管理事務所 石川県金沢城調査研究所 2012『特別名勝兼六園 萩螺山石垣等修理工事報告書』  
石川県金沢城調査研究所 2008a『金沢城調査研究所年報1』  
石川県金沢城調査研究所 2008b『絵図でみる金沢城』  
石川県金沢城調査研究所 2008c『金沢城石垣構築技術史料I』  
石川県金沢城調査研究所 2008d『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書I』  
石川県金沢城調査研究所 2008e『戸室右切丁場確認調査報告書I』  
石川県金沢城調査研究所 2009a『金沢城調査研究所年報2』  
石川県金沢城調査研究所 2009b『よみがえる金沢城2』  
石川県金沢城調査研究所 2010a『金沢城調査研究所年報3』  
石川県金沢城調査研究所 2010b『金沢城の三御門・河北門・橋爪門・石川門-』  
石川県金沢城調査研究所 2011a『金沢城調査研究所年報4』  
石川県金沢城調査研究所 2011b『金沢城石垣構築技術史料II』  
石川県金沢城調査研究所 2011c『金沢城跡-河北門-』  
石川県金沢城調査研究所 2011d『金沢城跡-二ノ丸内堀・垂櫓・五十間長屋・橋爪門統槽I-』  
石川県金沢城調査研究所 2012a『金沢城調査研究所年報5』  
石川県金沢城調査研究所 2012b『金沢城跡-二ノ丸内堀・垂櫓・五十間長屋・橋爪門統槽II-』  
石川県金沢城調査研究所 2012c『城郭石垣の技術と組織』  
石川県金沢城調査研究所 2013a『金沢城調査研究所年報6』  
石川県金沢城調査研究所 2013b『金沢城普請作事史料I』  
石川県金沢城調査研究所 2013c『戸室右切丁場確認調査報告書II』  
石川県金沢城調査研究所 2014a『金沢城調査研究年報7』  
石川県金沢城調査研究所 2014b『金沢城普請作事史料2』  
石川県金沢城調査研究所 2014c『金沢城跡-石川門付属太鼓塀-』  
石川県金沢城調査研究所 2014d『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書II』  
石川県金沢城調査研究所 2015a『金沢城調査研究所年報8』  
石川県金沢城調査研究所 2015b『金沢城普請作事史料3 奥村栄美御用番并御城方日記』  
石川県金沢城調査研究所 2015c『金沢城跡-橋爪門-』  
石川県金沢城調査研究所 2015d『金沢城跡-玉泉院丸庭園I-』  
石川県金沢城調査研究所 2015e『金沢城跡鼠多門・鼠多門構造確認調査概要1』(現地説明会資料)  
石川県金沢城調査研究所 2016a『金沢城調査研究所年報9』  
石川県金沢城調査研究所 2016b『金沢城普請作事史料4』  
石川県金沢城調査研究所 2016c『金沢城跡石垣保存実態調査報告書I』  
石川県金沢城調査研究所 2016d『金沢城跡-鶴ノ丸第1次・新丸第1次・尾坂門・二ノ丸圍路・数寄屋屋敷-』  
石川県金沢城調査研究所 2016e『金沢城跡鼠多門・鼠多門構造確認調査概要2』(現地説明会資料)  
石川県金沢城調査研究所 2017a『金沢城調査研究所年報10』  
石川県金沢城調査研究所 2017b『金沢城普請作事史料5 三壇開書』  
石川県金沢城調査研究所 2017c『絵図でみる金沢城二ノ丸御殿』  
石川県金沢城調査研究所 2018a『金沢城調査研究所年報11』  
石川県金沢城調査研究所 2018b『金沢城総合年表 前編』  
石川県金沢城調査研究所 2018c『金沢城庭園調査報告書』  
石川県金沢城調査研究所 2018d『金沢城跡-玉泉院丸庭園II-』  
石川県金沢城調査研究所 2018e『平成30年度 切石積石垣確認調査の概要』(現地説明会資料)  
石川県金沢城調査研究所 2019a『金沢城調査研究所年報12』  
石川県金沢城調査研究所 2019b『金沢城編年史料 近世-』  
石川県金沢城調査研究所 2019c『金沢城跡一本丸附段・北ノ丸-』  
石川県金沢城調査研究所 2019d『令和元年度 切石積石垣確認調査の概要』(現地説明会資料)  
石川県教育委員会 1970『金沢城二ノ丸跡発掘調査概報』

- 石川県教育委員会 2001『金沢城フォーラム いま甦る金沢城』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 1998『金沢城跡を掘る 1998』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 1999a『金沢城跡を掘る 1999』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 1999b『金沢城跡を掘る 1999』vol. 2
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2000『金沢城跡を掘る 2000』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2001b『金沢市 三社町遺跡』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2002a『金沢市 金沢城跡 I』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2002b『金沢市 木ノ新保遺跡』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2002c『金沢市 菩王寺遺跡』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2002d『金沢市 高岡町一ツ水溜跡』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2002e『金沢市 前田氏(長種系)星敷跡』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2007『金沢市 三社町遺跡』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2010『金沢市 金沢城跡 1』
- 石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター 2012『金沢市 金沢城跡 2—堂形(第3・4次調査)ー』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2014a『石川県金沢市 金沢城下町遺跡(丸の内7番地点)』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2014b『金沢市 小立野ユミノマチ遺跡』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2014c『金沢市 金沢城跡 3—堂形(第5次調査)ー』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2014d『金沢市 元菊町遺跡』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2015a『金沢市 金沢城下町遺跡(丸の内7番地点) II』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2015b『金沢市 小立野ユミノマチ遺跡 II』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2016『金沢市 金沢城下町遺跡(本多氏屋敷跡地区)』
- 石川県教育委員会・(公財) 石川県埋蔵文化財センター 2017『金沢市 金沢城下町遺跡(東兼六町5番地区)』
- 石川県教育委員会事務局文化財課「いしかわ文化財ナビ」<http://www.bunkazainavi.pref.ishikawa.lg.jp/>
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2003a『年報 1』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2004a『年報 2』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2004b『御造営方日記』上巻
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2005a『年報 3』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2005b『御造営方日記』下巻
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2005c『金沢城フォーラム 記録集 石垣の匠と技』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2006a『年報 4』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2006b『金沢城跡 II』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2006c『よみがえる金沢城 1』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2006d『金沢東照宮(尾崎神社)の研究』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2007a『年報 5』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 2007b『金沢城代と横山家文書の研究』
- 石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室 1991『金沢御堂・金沢城調査報告書 I』
- 石川県土木部公園緑地課・石川県金沢城調査研究所 2010『金沢城跡石垣修理工事報告書—玉泉院丸南西石垣—』
- 石川県土木部公園緑地課・石川県金沢城調査研究所 2017『金沢城跡 玉泉院丸南石垣等』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1990『元菊町遺跡』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1992『特別名勝 兼六園(江戸町跡推定地) 発掘調査報告 一附 本多家上屋敷跡試掘調査報告ー』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1996『金沢城跡櫓掘発掘調査報告書』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1997『金沢城跡石川門前土橋(通称石川橋) 発掘調査報告書 I』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1998『金沢城跡石川門前土橋(通称石川橋) 発掘調査報告書 II』
- 石川県図書館協会 1937『金城深秘録』
- 石野友康 1997「享保十九年刻梅鉢紋一件について」『市史かなざわ』3 金沢市
- 石野友康 2015「玉泉院永姫に関する一史料と発給文書」『研究紀要 金沢城研究』第13号 石川県金沢城調査研究所
- 井上聰夫 1969「金沢城跡の発掘」金沢大学金沢城学術調査委員会
- 今井一良 1996「金沢最初のもう一つの異人館」『石川県郷土史学会誌』29

- 今井一良 1997 「新発見の元蘭医スロイス居館の写真」『石川県郷土史学会誌』30
- 上野也也 1976 「金沢城四十間長屋跡発掘調査概報」『日本海文化』No. 3 金沢大学法文学部日本海文化研究室
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2002 『石川県金沢市 燐三町遺跡』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2003a 『石川県金沢市 高岡町遺跡II』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2003b 『石川県金沢市 昭和町遺跡II』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2003c 『石川県金沢市 本町一丁目遺跡III』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2003d 『野田山墓地』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2004a 『石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）I（測量図編）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2004b 『石川県金沢市 久昌寺遺跡』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2004c 『石川県金沢市 昭和町遺跡III』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2005a 『平成16年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2005b 『石川県金沢市 木ノ新保遺跡II』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2005c 『石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）II（古代・中世編、測量図編2）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2005d 『石川県金沢市 片町二丁目遺跡』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2006a 『石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）III（近世編1）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2006b 『石川県金沢市 本町一丁目遺跡IV』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2006c 『石川県金沢市 市内遺跡発掘調査報告書III』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2006d 『石川県金沢市 野田山・加賀藩主前田家墓所調査報告書』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2006e 『石川県金沢市 金沢城懇構跡I～西外懇構跡・東内懇構跡発掘調査報告書～』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2006f 『石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）V（金沢能楽美術館地点）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2009b 『辰巳用水調査報告書』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2010a 『平成21年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2010b 『石川県金沢市 東山一丁目遺跡』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2011b 『石川県金沢市 金沢城懇構跡II～西内懇構跡（主計町地点）発掘調査報告書～』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2011c 『石川県金沢市 金沢城懇構跡III～西外懇構跡（武蔵町地点）発掘調査報告書～』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2012a 『平成23年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2012b 『本多家上屋敷開連遺構調査報告書』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2012c 『石川県金沢市 金沢城下町遺跡（本多町三丁目地点）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2012d 『石川県金沢市 金沢城懇構跡IV 金沢城下町遺跡（西外懇構跡升形地点）発掘調査報告書 遺構編』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2012e 『野田山・加賀八家墓所調査報告書』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2013a 『平成24年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2013b 『石川県金沢市 金沢城懇構跡V 金沢城下町遺跡（西外懇構跡升形地点）発掘調査報告書 遺物編』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2013c 『石川県金沢市 小立野四丁目遺跡－天徳院前田家墓所－』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2014b 『石川県金沢市 片町二丁目遺跡（5番地点）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2014c 『石川県金沢市 金沢城懇構跡VI 東内懇構跡（枯木橋南地点）発掘調査報告書』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2015b 『石川県金沢市 長上屋敷跡調査報告書』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2016a 『平成27年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2016b 『石川県金沢市 玉川町遺跡』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2017 『平成28年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2018a 『平成29年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2018b 『金沢城下町道路（兼六元町7番地点）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2018c 『金沢城下町道路（大手町3番地点）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2018d 『金沢市指定史跡 本多家上屋敷西門跡及び廻跡附道跡 調査報告書』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2019a 『平成30年度 金沢市埋蔵文化財調査年報』

- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2019b『金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）』
- 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2019c『金沢城下町遺跡（前田氏（長種系）屋敷跡地区）』
- 金沢市・金沢市教育委員会 1991『瓢箪町遺跡』
- 金沢市教育委員会 1995『金沢市本町一丁目遺跡』
- 金沢市教育委員会 1997a『安江町遺跡』
- 金沢市教育委員会 1997b『金沢市本町一丁目遺跡II 鎌治片原地点』
- 金沢市埋蔵文化財センター 1998『長田町遺跡・長町遺跡・穴水町遺跡』
- 金沢市埋蔵文化財センター 1999『下本多町遺跡』
- 金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）2001a『金沢市高岡町遺跡I』
- 金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）2001b『金沢市昭和町遺跡I』
- 金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）2001c『金沢市醒ヶ井遺跡』
- 金沢市史編さん委員会 1999『金沢市史』資料編11 近代1 金沢市
- 金沢市史編さん委員会 2006『金沢市史』通史編3 近代 金沢市
- 金沢市史編さん室 1965『金沢の百年 明治編』金沢市
- 金沢市史編さん室 1967『金沢の百年 大正・昭和編』金沢市
- 金沢市役所 1973『稿本 金澤市史』市街編第四 名著出版
- 金沢大学創立50周年記念事業後援会 2001『金沢大学50年史』通史編
- 金沢大学埋蔵文化財調査センター 2000『金沢大学文化財学研究』2
- 金沢大学埋蔵文化財調査センター 2002『金沢大学文化財学研究』3・4
- 金沢大学埋蔵文化財調査センター 2003『金沢大学文化財学研究』5
- 金沢大学埋蔵文化財調査センター 2017『金沢大学構内遺跡一角間遺跡、宝町・鶴間遺跡－』
- 木越隆三 2013『金沢の整構創建年次を再検証する』『日本歴史』第780号 日本歴史学会
- 公益財団法人大阪府文化財センター 2012『旧大阪府庁舎跡』
- 国立公文書館 アジア歴史資料センターHP (<https://www.jacar.go.jp>)
- 佐々木達夫 1980『金沢城跡の発掘－一九七九年－』『日本海文化』No.7 金沢大学文学部日本海文化研究室
- 佐々木達夫 1981『金沢城跡の発掘－一九七七年－』『金沢大学日本海域研究所報告』第13号
- 貞末庵司・石崎俊哉・前田清彦 1986『金沢城の発掘－1981－藤右門丸北側法面据部発掘報告』『金沢大学日本海域研究所報告』第18号
- 貞末庵司・前田清彦・見玉剛 1989『金沢城の発掘－1986年－黒門横北側県外部発掘調査報告』『日本海文化』No.5 金沢大学文学部日本海文化研究室
- 澤辺利明 2019『金沢城下町遺跡（本多氏屋敷跡地区）』『石川県埋蔵文化財情報』第40号（公財）石川県埋蔵文化財センター
- 日置 謙 1956『改訂増補 加賀郷土辞典』北國新聞社
- 日置 謙 1930～1948『加賀藩史料』
- 藤 則雄 1999『金沢城「百間堀」の断層とその周辺の地形』『北陸の考古学III』石川考古学研究会々誌第42号 石川考古学研究会
- 文化庁 2005『史跡等整備のてびき』同成社
- 文化庁 2013『発掘調査のてびき－各種遺跡調査編－』同成社
- 文化庁文化財部記念物課 2015『石垣整備のてびき』同成社
- 増山 仁 1999『金沢城跡』『金沢市史』資料編19考古 金沢市史編さん委員会
- 三浦ゆかり 1999『金沢城跡いもり塚発掘調査』『石川県埋蔵文化財情報』第2号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 水野信太郎 2013『日本鎌瓦史の研究』法政大学出版社
- 渕尾玲美・土田友信 2001『金沢城跡』『石川県埋蔵文化財情報』第5号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 渕尾玲美・土田友信ほか 2001『金沢城跡』『石川県埋蔵文化財情報』第6号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 森田平次（日置謙校訂） 1976『金澤古誌（上）』歴史図書社
- 谷口明伸・増山 仁 2004『前田土佐守家の下屋敷と醒ヶ井遺跡』『研究紀要』第1号（財）金沢文化振興財团
- 八木憲一 1934『煉瓦及石構造』常磐書房
- 吉岡康暢 1985『金沢城の発掘』『金沢城と前田氏領内の諸城』日本城郭史研究叢書 第五巻 名著出版

## 報告書抄録

金沢城史料叢書 38  
金沢公園整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書14

## 金 沢 城 跡

—鼠多門・鼠多門橋 I —

令和 2 年 (2020) 3 月 31 日発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所

〒 920-0918 石川県金沢市尾山町 10-5

TEL 076 (223) 9696 FAX 076 (223) 9697

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html>

メールアドレス kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

印刷 株式会社ハクイ印刷